

履修の手引

女子美術大学芸術学部

2026

目 次

建学の精神	3	洋画専攻	36
教育理念	3	日本画専攻	44
芸術学部 教育目標	3	立体アート専攻	52
芸術学部 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	3	美術教育専攻	60
芸術学部 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	3	国際芸術文化専攻	68
主要日程	4	芸術文化専攻	76
学籍コード	6	デザイン・工芸学科	80
出席番号	6	「デザイン・工芸選択実技A・B」	82
本学ポータルサイト「Active Academy」	6	ヴィジュアルデザイン専攻	84
授 業	7	プロダクトデザイン専攻	94
気象警報等による授業の休講・入構禁止	9	環境デザイン専攻	104
出欠席	10	建築士受験資格(環境デザイン専攻対象)	114
単位の基準	11	工芸専攻	118
単位修得の流れ	11	アート・デザイン表現学科	128
履修科目の登録	12	メディア表現領域	131
試 験	12	ヒーリング表現領域	138
学習の評価と GPA 制度	15	ファッション表現領域	146
学生へのフォローアップ	16	ファッションテキスタイル表現領域	150
単位の授与	16	スペース表現領域	154
成績通知	17	クリエイティブ・プロデュース表現領域	158
履修登録	18	アートプロデュース表現領域	162
単位の認定	21	共創デザイン学科	166
科目等履修生	24	学芸員養成課程	172
転学科／転専攻・領域	24	ダブルコース(副専攻)について	178
2024年度～2026年度入学生 卒業条件	25	本学ポータルサイト「Active Academy」 Web 履修登録の手順について	184
2023年度入学生 卒業条件	26	Web レポート提出の手順について	199
学部共通科目	27	Web 出欠登録の手順について	202
履修上の注意	30	Q & A	204
美術学科	31		
「美術学科オープン実技A・B」「美術学科オープン演習A・B」	33		

本書に記載されたスケジュールは変更になる場合があります。（2026年3月10日時点）

表紙デザイン：DESIGN ROOM 所属

福居 若葉

〈CONCEPT〉

毛糸が編まれていく様子を描いています。履修計画を立てる、編成することから着想を得て、一本の糸が紡がれていくさまをデザインに起し、生徒が選んだひとつひとつの授業が着実に未来を形成していくように、と願いを込めて制作しました。

建学の精神

「女子美」の名で知られる本学園は、女性に対して高等教育機関における美術教育への門戸が開かれていなかった明治33（1900）年に、「[芸術による女性の自立](#)」、「[女性の社会的地位の向上](#)」、「[専門の技術家・美術教師の養成](#)」を目指して、美術教育をおこなう学校として創立しました。

以後、今日までの120年余にわたる長い歴史の間に、画壇・デザイン界をはじめ、教育界などあらゆる分野に優れた人材を輩出するとともに、社会で自立できる女性たちを送り出してきました。

現代においても、知性と感性と技能を併せもち、美術の専門を活かして社会的、経済的に自立できる人材の育成を、下記の教育理念のもとにおこなっています。

教育理念

高い教育力を通して、学生一人一人に、社会・世界について広く深い見識（教養・理論）と、精神的・経済的に自立できる能力（技術・芸術的創造力）を修得させることにより、女性をはじめ多様な人々が活躍する世界の実現に向けた担い手を育成する。

芸術学部 教育目標

芸術との感動的出会いを積み重ね、創造の喜びを培い、社会の流れを先取りする芸術的感性と、広い視野、柔軟な思考力、確かな技術を養うことを教育目標とする。このことにより、時代を超えた美を追求する個性豊かな人材や社会で活躍する専門家を育成する。

芸術学部 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術学部の教育目標を基に、美術・芸術を学ぶ上で、その基盤となる知識と教養、各分野・領域の基礎力・発展力を身につけ、一人ひとりの個性を伸ばせる制作や研究を展開できる教育課程とします。

芸術学部 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

以下を身に付けたものに対して、学位を授与します。

- ・ 芸術をはじめ、広く、人文、社会、自然科学に関する知識を習得している。[「知識・理解」](#)
- ・ 課題やテーマに対して主体的、計画的に取り組む姿勢、生涯を通じて学び、創作や研究に取り組む素養を身に付けている。[「関心・意欲・態度」](#)
- ・ 課題やテーマに対して、的確な情報収集や分析、論理的思考ができる。[「思考・判断」](#)
- ・ 芸術分野において必要とされる技術、表現力を身に付けている。[「技能・表現」](#)
- ・ 自らの創作や考えを伝えるコミュニケーション・スキルやプレゼンテーション能力を身に付けている。[「技能・表現」](#)

主要日程

4月	
1	水
2	木
3	金
4	土
5	日 入学式
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月 前期授業開始
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水 通常授業日 (昭和の日)
30	木

オリエンテーション

5月	
1	金
2	土 授業予定なし
3	日 (憲法記念日)
4	月 (みどりの日)
5	火 (こどもの日)
6	水 (振替休日)
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木 ※特別授業日
15	金 ※特別授業日
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

6月	
1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水 学生総会
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火

7月	
1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月 (海の日)
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木
31	金

8月	
1	土
2	日
3	月
4	火 補講予備日
5	水 補講予備日
6	木 補講予備日・前期授業終了
7	金 夏期休業 (~9月5日)
8	土
9	日
10	月
11	火 (山の日)
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土
30	日
31	月

9月	
1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月 後期授業開始
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月 (敬老の日)
22	火 (国民の休日)
23	水 (秋分の日)
24	木 月曜授業日
25	金
26	土
27	日
28	月
29	火
30	水

※5月14日(木)～5月15日(金)の特別授業日は、各研究室による学外引率、写生旅行、自主制作等が行われます。

10月	
1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月 通常授業日 (スポーツの日)
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金 創立記念日 ※授業予定なし
31	土

↑ 女子美祭週間
↑ 展示期間
↓

11月	
1	日
2	月
3	火 通常授業日 (文化の日)
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月 通常授業日 (勤労感謝の日)
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月

12月	
1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土
27	日 冬期休業 (~1月4日)
28	月
29	火
30	水
31	木

1月	
1	金 (元日)
2	土
3	日
4	月
5	火 授業再開
6	水
7	木
8	金
9	土 補講予備日
10	日
11	月 (成人の日)
12	火
13	水 補講予備日
14	木 補講予備日・後期授業終了
15	金 春期休業開始
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

2月	
1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木 (建国記念の日)
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火 (天皇誕生日)
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日

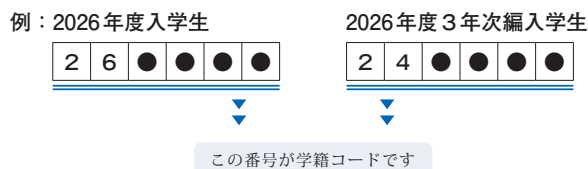
3月	
1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火 学位・修了証書授与式
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月 (春分の日)
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火
31	水

↑ 大学・短大卒制展 (予定)
↓

※ 10月30日(金)の創立記念日は、授業は行いません。
※ 3月9日(火)の卒業制作展は内部用展示となります。

学籍コード

入学から卒業に至るまでシステム処理上の不変コードとして使用されるもので、頭2ケタが西暦下2ケタの入学年度となっています（3年次編入学は、3年次在學生と同じ西暦となります）。学生証は身分証明書であり、試験や履修登録等で使用するのので、常時携帯してください。



出席番号

出席番号については入学時に配付されたアカウント通知書で確認してください。出席番号は試験答案やレポート、聴講票、その他諸届に所属、年次とともに記入することになりますので間違いのないようにしてください。



本学ポータルサイト「Active Academy」

本学は履修登録やシラバス閲覧、休講連絡、レポート提出、出欠、大学・研究室・授業担当教員から皆さんへの諸連絡のため、本学ポータルサイト「Active Academy」（以後、「ポータルサイト」と記載）を用意しています。ポータルサイトは学内外を問わず、アクセス・利用することが可能です。

利用方法については、P.184以降に記載しています。

授 業

1. 授業時間

第1時限	9:20～10:50	2・4年次専門科目時間帯 (実技時間帯)
第2時限	11:00～12:30	
第3時限	13:20～14:50	1・3年次専門科目時間帯 (実技時間帯)
第4時限	15:00～16:30	
第5時限	16:40～18:10	

※立体アート専攻3年次は、1・2時限を専門科目時間帯とする。

- 専門科目時間帯（実技時間帯）は各専攻・領域の専門科目を行います。
- 専門科目時間帯（実技時間帯）は月～金曜日です。

2. オンライン授業

一部の授業では、インターネットを利用した遠隔授業（オンライン授業）の形式で実施する場合があります。

遠隔授業の実施にあたっては、通信環境等の整備が不可欠になります。学生の皆さまには受講環境の整備（通信および端末）をお願いいたします。

オンライン授業に際してのマニュアル等は、随時「学生用オンライン授業サポートページ」(ガイダンス時に案内)にて公開致します。

3. 休 講

授業担当教員の都合等により休講する場合は、休講掲示板に掲示するとともに、履修者にポータルサイト等にて告知します。

※休講掲示・告知がなく30分経過しても授業担当教員が来ない場合は、休講措置をとることがありますので教育支援センターにお問い合わせください。

4. 補 講

補講は、突然の休講などで延期されていた授業を、後に実施する授業のことで、その授業を履修している学生は出席する必要があります。

原則、休講分の授業については、補講を実施します。補講はオンデマンド（動画視聴）で実施する場合があります。詳細は授業担当教員に確認してください。補講が、補講予備日に、対面授業またはオンライン授業により実施される場合は、補講日程について、ポータルサイトにて告知します。

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。

集中補講日の時間割については、必ず別途配信を確認してください。

5. 欠席の扱い

欠席理由により、公欠扱いとなる場合、公欠扱いとならない場合があります。以下の表を参照し、手続きを行ってください。なお、表に記載された以外の理由については全て「欠席」となります。

公欠…該当する授業の回数と欠席回数を公欠回数分減らす措置です。
欠席を出席扱いにするものではありません。

例：半期 15 回の授業で教育実習で 3 回欠席し、それ以外は全て出席した場合、12/12 回（出席回数 / 出席すべき授業回数）となります。

欠席理由	公欠扱い	手続き方法
①教育実習	○	掲示や事前指導の指示に従ってください。
②介護等体験	○	
③博物館実習	○	
④古美術研究 (国際芸術文化専攻のみ)	○注1	
⑤裁判員制度に伴う裁判参加	○	「裁判員等選任手続期日のお知らせ(呼出状)」の発行日から14日以内に、コピーを持参の上、教育支援センターに申し出てください。また、事後手続きとして、公判終了日から7日以内に、裁判所が発行する証明書を教育支援センターに提出してください。
⑥インターンシップ	△注2	
⑦学校保健安全法 感染症の 予防に関する規則 第19条 により出席停止	○注3	※下記【「学校保健安全法施行規則(感染症の種類)第18条」第一・二・三種疾患について】参照の上、手続きを行ってください。

(その他)

- ・公欠回については、授業担当教員から当該授業に相当する学修の指示を受けること。
- ・忌引は公欠対象外です。
- ・大規模な自然災害で欠席が5日間以上に及ぶ場合は、交通機関の証明書等を持って教育支援センターに申し出てください。

注1) 授業期間に実施した場合のみ。

注2) 教務部長が特別に認めたもの(大学が認めた海外インターンシップ等)のみ公欠の対象とします。

注3) 【「学校保健安全法施行規則(感染症の種類)第18条」第一・二・三種疾患について】

以下の疾患に該当するとの医師の診断を受けた場合は、手続きが必要になります。

対象疾患：

第一種	治癒するまで入院治療が必要。 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウィルス)、中東呼吸器症候群(MERSコロナウィルス)、特定鳥インフルエンザ
第二種	飛沫感染する感染症で、罹患が多く、学校で流行しやすい。 インフルエンザ、麻疹(はしか)、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳、咽頭結膜熱(プール熱)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第三種	経口感染症とその他学校で流行しやすい感染症。 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症(O157等)、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症[溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑、マイコプラズマ異型肺炎、流行性嘔吐下痢症(ウイルス性胃腸炎)、ウイルス性肝炎、伝染性眼疾患、伝染性皮膚疾患]

(手続き方法)

1. 医務室に連絡

相模原キャンパス医務室：電話 042-778-6734

杉並キャンパス 医務室：電話 03-5340-4571

※感染症と診断されたら、速やかに医務室へ連絡してください。

※登校支障期間中に試験やレポート提出がある場合、追試験、追レポート対象となる科目もありますので、教育支援センターにお問い合わせください。

教育支援センター相模原グループ：電話 042-778-6613

教育支援センター杉並グループ：電話 03-5340-4508

2. 「登校許可書」提出

治癒して登校する場合には、本学所定書式「登校許可書」の医務室への提出が必要です。

「登校許可書」の申請方法については、医務室にお問合せください。

「登校許可書」は本学ホームページからダウンロードしてください。

3. 「感染症による公欠願」提出

対象疾患に該当の場合は公欠となります。「感染症による公欠願」は教育支援センターにて手続きしてください。用紙は本学ホームページからダウンロードできます。

出席停止期間の確認のため、手続きが完了した登校許可書の控えも持参してください。

6. 授業内容の録音・撮影について

本学では著作権保護等の観点より、あらかじめ許可されている場合を除いては、授業内容の録音・撮影を原則禁止しております。

7. 特別な配慮・支援を希望する学生へ

入学後、障がいや疾病で授業に関する特別な配慮・支援の必要が新たに発生した場合は、教育支援センター、学生相談室、医務室に申し出てください。

関係部署との事前相談や面談を経て、正式な申請を行うことで、配慮・支援が可能となる場合があります。なお、正式な申請の際には障がい者であることを証する書類や医師による診断書が必要になります。

ただし、本人の希望する配慮・支援内容全てには対応できない場合があることや、出席回数、成績評価基準の変更等は授業等における評価基準の本質的変更にあたるため一切行わないことについては、あらかじめご了承ください。

気象警報等による授業の休講・入構禁止

【相模原キャンパス】

気象庁より、神奈川県西部相模原（気象庁発表区域）に以下のいずれかが発令されている場合、次のとおり取り扱い、大学への入構を禁止します。

【警報】暴風警報・大雪警報・暴風雪警報

【特別警報】大雨特別警報・暴風特別警報・大雪特別警報・暴風雪特別警報

※注意報は該当しません。

・午前6時の時点で発令されている場合は、午前の授業を休講とする。

・午前10時の時点で発令されている場合は、午後の授業を休講とする。

【杉並キャンパス】

気象庁より、23区西部（気象庁発表区域）に以下のいずれかが発令されている場合、次のとおり取り扱い、大学への入構を禁止します。

【警報】暴風警報・大雪警報・暴風雪警報

【特別警報】大雨特別警報・暴風特別警報・大雪特別警報・暴風雪特別警報

※注意報は該当しません。

・午前6時の時点で発令されている場合は、午前の授業を休講とする。

・午前10時の時点で発令されている場合は、午後の授業を休講とする。

【休講の確認方法】

上記やその他の事由により授業を休講する場合は、以下にて告知しますので確認してください。

・学内掲示板

・本学ホームページ

・ポータルサイト

・本学代表電話 <相模原キャンパス> 042-778-6111 <杉並キャンパス> 03-5340-4500

出欠席

各授業では出欠席の確認を行います。

確認の方法は主に、パソコン・タブレットまたはスマートフォン端末を利用した出席確認（Web出欠登録）と、この他に聴講票を配布する方法があります。

注）教員によっては、上記以外での出欠席の確認があります。その場合は担当教員の指示に従ってください。

Web出欠登録の流れ

授業科目毎の出欠情報がポータルサイトの「出席簿」へ自動で登録されるため、出欠状況をリアルタイムに確認・把握する事が可能となります。

出欠登録専用サイト
QRコード

①出欠登録専用サイトに接続します。

<https://aa.joshihi.net/attend/>

②出席する授業のパスワードを入力し、登録を完了します。

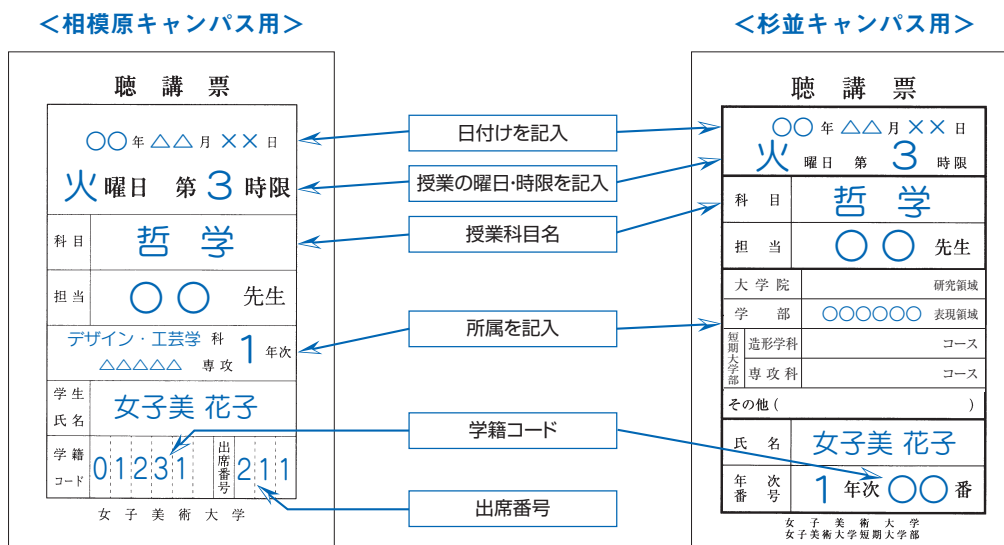
パスワードは授業時に指示があります。



※出欠登録専用サイトへのログインは、ポータルサイトに接続する際に使用するID・パスワードと同一です。

※詳細は、202ページの「Web出欠登録の手順について」を参照してください。

聴講票の記入例



単位の基準

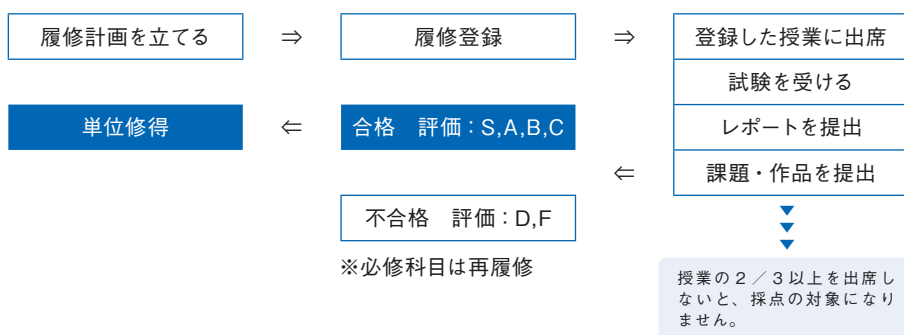
各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準により計算されます。なお、授業は前期15週、後期15週の通年30週とし、時間割の1時限は正味90分ですが単位計算上は2時間として計算しています。

講義	15時間の授業をもって1単位とする
演習	15～30時間の授業をもって1単位とする
実技・実習	30～45時間の授業をもって1単位とする

<単位のしくみ>

単位 (1単位=45時間の学修)	=	授業	+	自学自習 (予習・復習・課題等)
(例) 4単位の講義 (180時間)	=	30コマの授業 (60時間)	+	60コマ分の自学自習 (120時間)
2単位の講義 (90時間)	=	15コマの授業 (30時間)	+	30コマ分の自学自習 (60時間)
2単位の演習 (90時間)	=	15～30コマの授業 (30～60時間)	+	15～30コマ分の自学自習 (30～60時間)
2単位の実技 (90時間)	=	30～45コマの授業 (60～90時間)	+	0～15コマ分の自学自習 (0～30時間)

単位修得の流れ



履修科目の登録

1. 年度始めに配付された「時間割表」にもとづき、その年度に履修する授業科目すべて（一部の科目を除く）を、定められた期日までにポータルサイトで履修登録してください。（P.18参照）
2. 履修する授業科目を選ぶ場合は、自分の所属する学科または専攻・領域に担当された授業科目の中から選んでください。一部の科目を除き、他の学科や専攻・領域の授業を受講することはできません。
3. 履修希望者が多い科目は、人数を制限することがあります。また必修科目等一部の科目を除き、履修希望者数が5人未満の場合は、不開講となることがあります。
4. 1年間に履修登録できる単位の上限は1年次42単位、2年次以降49単位です。ただし下記科目は除きます。

資格科目

アートを社会と生活に生かす「プロジェクト・スタディーズ」「インターンシップ1～4」「国際芸術プログラム」「卒業制作」「卒業研究」

試験

1. 試験の方法

試験には筆記試験、レポート（Web提出含む）・作品の提出などがあります。

2. 試験の時期

筆記試験は担当教員の指示に基づいて実施します。

レポートの提出による試験は、授業担当教員の指示で各授業内に提出する場合と、各学期末に指定された日時・場所に提出する場合があります。

作品の提出による試験はレポートの提出による試験に準じて実施します。

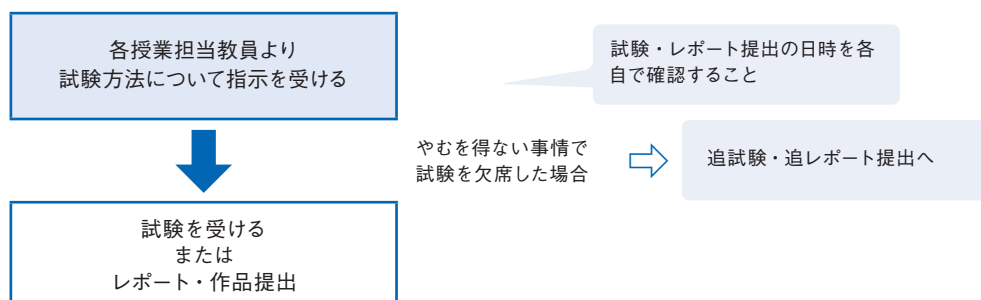
試験（筆記試験、レポート・作品提出）、補講、教室変更、その他試験に関する必要事項はポータルサイトにて告知します。

3. 受験の資格

次に該当する学生は原則として受験資格がありません。

- ・無登録者（授業科目の履修登録をしなかった者）
- ・出席が授業回数の3分の2に満たない者
- ・授業料を無断で滞納している者

4. 試験の流れ



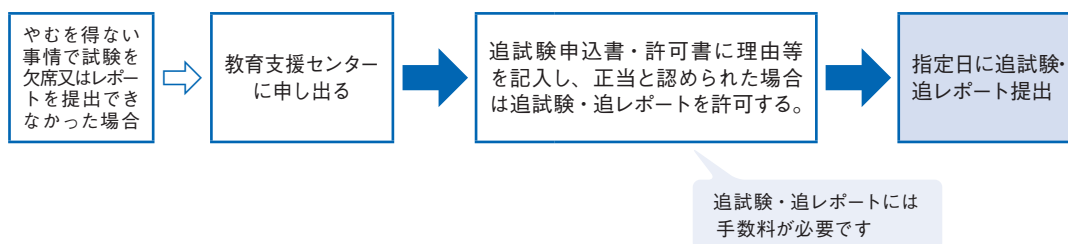
5. 追試験・追レポート

- ・次の①～⑦の理由またはその他のやむを得ない事情により、筆記試験を欠席した場合やレポート・作品提出日に提出できなかった場合、教育支援センターに追試験・追レポートを願出することができます。願出が承認された場合、追試験を受験すること、レポート・作品を追レポートとして提出することができます。

追試験・追レポート受験のための理由
① 病気（診断書・医療機関の領収書を要する）
② 交通事故・遅延（相当証明書を要する）
③ 冠婚葬祭（該当する催しの招待状等を要する）
④ 就職試験（企業の証明を要する）
⑤ 教員採用試験（教職課程の承認を要する）
⑥ 公欠扱いとなるもの（教育実習・介護等体験・博物館実習など） P.8 参照
⑦ 天災

追試験受験・追レポート提出が認められるか否かは、前もって教育支援センターで確認してください。試験日時の勘違い、寝坊等の本人の不注意や、アルバイト、旅行等の試験放棄は対象になりません。

- ・追試験・追レポートの申込み期間はポータルサイトにて告知します。願出する時は、試験を欠席した理由、レポート・作品を提出できなかった理由を確認できる証明書（上記の①～⑦参照）が必要です。期間終了後は、一切受け付けません。
- ・追試験・追レポートの願出が承認された場合は、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。公欠扱いとなる理由の場合、手数料は不要です。
- ・追試験の日時と試験場、追レポートの提出期限・提出場所についてはポータルサイトにて告知します。
- ・Web提出でのレポートの場合は時間を問わず提出が可能なことから、追試験・追レポートの実施はいたしません。



6. 再試験

- ・卒業年次の試験で、卒業に必要な科目・資格関連科目が不合格（D）の場合は、再試験を受けることができます。ただし、評価が採点不可（F）の場合は受験資格がありません。
- ・再試験の願出は、各学期の一定期間に行うとともに、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。申込期間は別途通知します。期間終了後は一切受け付けません。
- ・再試験（代替レポート）の詳細はポータルサイトにて告知します。

7. 試験（筆記試験、レポート・作品提出）に関する注意事項

〔筆記試験〕

- ・試験開始前に、「学生証」を机の上に提示してください。紛失したり忘れた場合は教育支援センターで「受験許可証」の発行を受け、受験してください。
- ・試験場では、筆記用具、許可された物品以外を机の上に置いてはいけません。ノートや参考書の使用を許可された場合も各自持参のものを使用し、互いの貸借は禁じます。
- ・遅刻者の扱いは、授業担当教員（試験監督者）の指示に従ってください。
- ・試験中に不正行為が認められた時は、教授会にはかり厳重に処分します。当該科目は採点不可（F）とし、保証人に通知します。また教員免許状取得のための大学からの一括申請は行いません。悪質と判断された場合、さらに懲戒処分を下す場合があります。

〔レポート・作品提出〕

- ・ポータルサイトで提出するレポート・作品の提出方法については、P.199の「Webレポート提出の手順について」や、ポータルサイトのトップ画面に掲載されている「Webレポート提出マニュアル」を参照してください。
- ・レポートや作品を許可なく直接授業担当教員に郵送することは禁止です。
- ・教育支援センターではレポート・作品は所定の日時以外は受け付けません。提出期限に遅れた場合は「5. 追試験・追レポート」を参照し、手続きをしてください。
- ・生成AIについては、技術の進展や社会での活用状況を踏まえ、今後も継続して指針等の見直しを行います。使用のルールなど、大学からのお知らせを必ず確認してください。

他人の文章や作品（Webページを含む）を全部または一部でも出典を明示せずそのまま無断で借用することは剽窃（盗用）にあたります。Webページの文章を単にコピー・アンド・ペーストしてレポート作成しないよう注意してください。剽窃は、カンニング同様の不正行為とみなし、厳重に処分の上、当該科目は採点不可（F）になる場合があります。作品の剽窃（盗用）に関しても同様です。

学習の評価と GPA 制度

履修登録した科目の成績を5段階で評価し、それぞれに対して4～0のグレード・ポイント（以下、GPと表記）が付きます。GPA(Grade Point Average)とは、これらのポイントの1単位あたりの平均値になります。

評価	評価基準	合否	GP
S	100～90点	合格	4
A	89～80点		3
B	79～70点		2
C	69～60点		1
D	59点以下	不合格	0
F	採点対象外(出席不良等)	採点不可	0

評価の基準・方法は試験の点数だけでなく、課題・レポート内容や受講態度等を含めた評価によります。評価基準は各授業科目ごとに異なるので、ポータルサイトの「シラバス」に掲載されている「評価方法」欄を十分確認してください。

※不合格(D)、採点不可(F)は、「成績通知」には表示されますが、「成績証明書」には表示されません。

GPAの種類は以下の通りになります。

学期GPA

- ・当該学期に成績評価された単位を対象として計算したGPA
- ・通年科目は後期に算出されます

通算GPA

- ・入学時から当該学期までに成績評価された単位を対象として計算したGPA

GPA計算方法（D・F評価も含めて計算します。）

学期GPA	=	$\frac{\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}}{\text{当該学期履修登録単位数}}$
通算GPA	=	$\frac{[\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}] \text{の総計}}{\text{総履修登録単位数}}$ ※入学時から当該学期まで計算

前期（前期開設科目のみで計算）					後期（後期・通年開設科目のみで計算）					
科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	
●●ゼミ	2	S	4	2単位×4＝8	●●語I	2	B	2	2単位×2＝4	
○○論	2	A	3	2単位×3＝6	○○学	4	C	1	4単位×1＝4	
□□概論	2	D	0	2単位×0＝0	□□論	2	D	0	2単位×0＝0	
△△演習	1	F	0	1単位×0＝0	△△実技	1	F	0	1単位×0＝0	
①前期履修登録単位数→	7			②単位数×GPの合計→	14	③後期履修登録単位数→	9		④単位数×GPの合計→	8
前期GPA	$\frac{\text{②(前期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 14}{\text{①前期履修登録単位数} = 7} = 2.00$				後期GPA	$\frac{\text{④(後期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 8}{\text{③後期履修登録単位数} = 9} = 0.89$				
通算GPA（入学時から当該学期まで計算）										
通算GPA	$= \frac{\text{入学時から当該学期までに履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計} \text{ ② } 14 + \text{④ } 8}{\text{総履修登録単位数} \text{ ① } 7 + \text{③ } 9} = 1.38$									
成績通知書 例										
	前期	後期	通算							
	2.00	0.89	1.38							

GPA対象外科目

- ・認定科目（編入学、転学科、転専攻・領域、外国語検定資格、既修得単位認定、単位互換制度協定校提供科目等）
- ・卒業要件に含まれない科目（教職に関する科目、博物館に関する科目）

一部の科目を除き、単位修得した科目を再履修することはできません。
不合格・採点不可科目を再履修し単位修得した場合、当該科目の不合格、採点不可の際の単位については、総履修登録単位数から減算します。

学生へのフォローアップ

GPAが低い学生と保護者に対しては、以下を目安に必要な応じ大学より、学生生活全般の状況、今後の履修計画等について面談を行います。

（1）面談の実施について

①面談対象者

- ・学期 GPA1.00 未満を3学期連続し、通算 GPA1.00 未満の学生
- ・学期 GPA1.00 未満を4学期連続し、通算 GPA1.00 以上の学生

②面談内容

修学意欲の確認、今後の履修指導等を主な面談内容とします。

（2）退学勧告等を含めた学修指導について

学期 GPA1.00 未満を4学期連続し、通算 GPA1.00 未満の学生に対しては、退学勧告等を含めた学修指導を行います。

面談では保証人同伴のうえ、大学より内容の説明を行います。

学期 GPA1.00 未満を連続している間に休学となった場合は、学生への面談並びに退学勧告等を含めた学修指導は行いません。

単位の授与

授業回数の3分の2以上出席し、試験等の評価がC以上だった科目は合格とし、所定の単位を与えます。一部の科目を除き、単位修得した科目を再度履修することはできません（P.19〔複数履修できる科目〕参照）。

不合格（D）・採点不可（F）だった場合は、次期以降に再履修することができます。

成績通知

1. 成績通知

今年度履修科目の成績通知（成績・修得単位）は以下の時期に通知します。

	成績通知（前期科目）	成績通知（通年・後期科目）
1～3年次	9月後期授業開始日に配付	3月中旬にポータルサイトにて通知
4年次	9月後期授業開始日に配付	2月中旬にポータルサイトにて通知
保証人	保護者ポータルサイトで成績を確認できます。	

2. 成績照会

成績はポータルサイトで確認できます。（P.185【メニューの機能】参照）

3. 採点調査願

「成績通知」に疑問がある場合は、成績評価が「D」または「F」の科目に限り、所定の期間に「採点調査願」を教育支援センターで受け付けます。（期間を過ぎたものは受け付けません）申請方法はポータルサイトにて告知します。

履修登録

1. 履修計画

どの科目を履修するかについては、卒業までのプロセスを自分なりに考え、授業科目を体系づけて計画することが必要です。また、教員免許状・学芸員免許状などの免許や資格を取得する場合は、あわせて履修計画を立てなければなりません。

卒業に必要な単位数は124単位です。それを4年間で修得するために各自しっかり履修計画を立ててください。

各自の履修計画を立てるには、「履修の手引」、シラバス、「時間割表」及びカリキュラムマップ・カリキュラムツリー（本学ウェブサイト掲載）を参考にするとよいでしょう。

履修や学修について相談したいことがあるときは、教育支援センターまでご相談ください。

2. 履修科目の登録方法

授業科目を履修するためには、その年度に履修する授業科目の全てについて、履修登録をしなければなりません。履修登録が完了しないと、授業を受講できないとともに単位が修得できません。

履修登録はポータルサイトでの手続きとなります。必ずWeb履修登録締切までに完了してください。

※Web履修登録の詳細については、P.184以降で使用方法を確認してください。ポータルサイトのログインページは「<https://aa.joshihi.net/>」です。

I 履修関係書類の交付

- ① 1～4年次とも4月の専攻・領域別オリエンテーションに「履修の手引」「時間割表」を配布します。
- ② 「時間割表」の訂正、教室の変更等はポータルサイトにて告知します。ポータルサイトからの配信には十分注意してください。

II 履修計画の立案、決定

- ① 「履修の手引」「時間割表」およびポータルサイト「シラバス」、2～4年次生はポータルサイトの学修ポートフォリオの成績表の単位修得状況を確認しながら、今年度の履修計画を立ててください。授業科目の授業内容については、ポータルサイトの「シラバス」を参照し、また各科目区分の「履修上の注意」もよく読み、間違いのないようにしてください。
- ② 専門科目時間帯（実技時間帯 P.7参照）は各専攻・領域の専門科目を履修するものとして履修登録し、その他の時限に「時間割表」を参照して、卒業必要科目から順に各自が希望する講義系科目を決定（履修登録）していきます。
- ③ 年次指定のある科目については必ず指定年次に履修してください。
学部共通科目および学科共通科目等の年次指定のない科目については遅くとも3年次終了までには卒業要件を充足するように履修計画を立ててください。
- ④ 1年間に履修登録できる単位の上限は1年次42単位（資格科目は除く）、2～4年次49単位です（資格科目、卒業制作・研究は除く）。
下記科目については別途履修登録を行うので、この時点で登録はしないでください。（履修登録上限単位に含みません）
アートを社会と生活に生かす「プロジェクト・スタディーズ」「インターンシップ1～4」「国際芸術プログラム」
- ⑤ 時間割上で専攻・領域のクラス指定がされている授業科目は、自専攻・領域のクラスを履修してください。再履修で認められた場合を除き、原則として他専攻・領域のクラスは履修できません。
- ⑥ 原則として専門科目時間帯（実技時間帯）に講義系科目を履修することはできません。ただし下級年次で修得すべきであった卒業必要科目や資格必修科目が、未修得だった場合、専門科目時間帯（実技時間帯）の重複履修を一部認めることがありますので、所属する研究室及び教育支援センターに事前に申し出てください。

〔複数履修できる科目〕

同一科目名の授業科目が複数開講されていますが、1コマしか履修できません。また、年度が変わり、担当教員・内容が変更されても、過去に単位修得した科目である場合、再度履修することはできません。ただし、以下の科目区分、授業科目は複数履修することが可能です。

- 「プロジェクト・スタディーズ」「インターンシップ1～4」「国際芸術プログラム」及びデザイン・工芸学科共通科目「デザイン・工芸連携プロジェクトA～D」は同一科目名でも複数履修することが可能です。また過去に単位修得した科目でも、異なるプロジェクトであれば年度が変わって再度履修することが可能です。ただし、同一プロジェクトの単位修得は1回のみとなります。過去に単位修得したプロジェクトを、年度が変わって再度履修した場合、単位修得の対象にはなりません。

〔教職に関する科目〕

専攻・領域・出席番号をもとにクラスが指定されています。自分が指定されたクラスを「時間割表」で確認し、履修してください。

なお、指定された「教職に関する科目」のクラスと、他の履修したい科目が時間割上重複する場合は、「教職に関する科目」を他のクラスに変更して履修することができません（1年次生は除く）。

〔博物館に関する科目〕

専攻・領域ごとに履修上の注意事項がありますので、P.172～P.177の「学芸員養成課程について」を参照してください。

〔他学科の専門科目の履修について〕

他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、学科共通科目の選択科目に卒業所要単位として算入できます。各専攻・領域で卒業所要単位に算入できる単位数が異なります。各専攻・領域のカリキュラム表の注欄で確認してください。また、履修できる他学科の学科共通科目は時間割に掲載しています。反対校地の科目を履修希望する場合は、自学科・専攻の学習に支障をきたさないよう、よく検討してください。

Ⅲ 抽選科目の登録（Web）※抽選科目の履修を希望される方のみ。

履修人数に上限がある授業科目はWeb抽選を行います。下記の抽選科目Web登録締切までにポータルサイトの「抽選授業希望登録」にて抽選授業の希望順位を登録してください（P.194参照）。抽選科目は「時間割表」で確認してください。希望順位の登録は指定された順位まで、または指定された順位以内の登録が必要ですので、ポータルサイトの「シラバス」にて、履修したいグループの授業科目のシラバスをよく読み、あらかじめ登録する抽選授業を決めた上で登録してください。

抽選科目 Web 登録締切 4月8日(水) 10:00

※当選授業と同じ曜日・時限に履修登録した授業はエラーとなります。抽選科目を登録する場合は、抽選結果発表があるまで、ポータルサイトの「履修登録」にて曜日・時限の授業科目を登録しないでください。

抽選結果発表 4月9日(木) 10:30～

※抽選結果は、ポータルサイトの「授業抽選結果」にて発表されます。当選授業の一部は履修登録済となっており、ポータルサイト上での取り消し、履修訂正はできません。

※残席のある抽選科目は、ポータルサイトの「履修登録」から、登録することになり、履修登録を完了した方から、先着順で授業の定員まで登録されます。また、残席は他の学生の履修取消により変動します。

※抽選結果発表前にポータルサイトの「履修登録」にて登録した授業が、当選授業と曜日・時限が重複した場合、その授業はエラーとなりますので取り消してください。

IV Web履修登録

- ① ポータルサイトの「履修登録」にて今年度に履修する全授業科目（後期科目も含む）を登録してください。（P.184以降参照）
- ② 必修科目等の登録漏れがないかを各自で十分に確認の上、登録してください。特に、4年次生はその際に科目区分ごとの卒業所要単位も必ず確認してください。

Web履修登録締切4月10日（金）15：00

※Web履修登録締切を過ぎると、作業途中であっても、履修登録ができなくなりますのでご注意ください。

- ③ 1年次生のみ
Joshi Foundation Englishの授業クラスについては授業開始までにポータルサイトで発表しますので確認してください。

V 履修登録完了後

〔履修訂正〕

- ① Web履修登録締切後、4月20日（月）に履修登録確認表を所属の研究室より受け取り、必修科目や卒業必要科目等の確認とともに、今年度履修する全授業科目を各自で再確認してください。訂正の必要がある場合は、履修訂正期間に所定の手続きを行ってください。
- ② 履修訂正の確認が終了した時点で今年度の履修科目が確定します。その後の履修科目の変更は、原則として受け付けません。

〔履修科目の中止〕

授業科目の履修にあたっては、十分検討のうえ決定するとともに途中で放棄するようなことがないように努めてください。授業科目の履修を中止する場合は「履修変更申請書」を教育支援センターに提出してください。「履修変更申請書」の提出がなく一方的に授業科目の履修を放棄した場合には、成績通知書に「F」（採点不可）と表示されます。D・F評価も含めて、GPAを計算するため、履修中止科目がある場合は、必ず所定の期間内に履修中止手続きをしてください。

提出締切日：前期5月30日（土） 後期10月31日（土）

〔後期履修変更〕

下記の条件内で後期に履修科目の追加・変更を受け付けます。希望する学生は9月7日（月）～12日（土）にポータルサイトで所定の手続きを行ってください。（ただし、抽選科目、履修者数により変更できない科目があります）

- ・1年次：42単位まで（資格科目は除く）
- ・2～4年次：49単位まで（資格科目・卒業制作・研究は除く）

単位の認定

1. 入学時、既修得単位の認定・大学以外の教育施設等における学修の認定

本学入学以前に在学した大学、短期大学、高等専門学校の特攻科および文部科学大臣が別に定める学修において修得した授業科目および単位の認定を希望する者は、前在大学等が発行した「成績ならびに単位修得証明書」または、外国語検定資格の技能審査等における学修成果の証明書を添付して「既修得単位認定願」を教育支援センターに提出してください。この手続きは入学前の定められた期間に限ります。

既修得単位の認定は、本学における学部共通科目と学科共通科目の選択科目とし、60単位を超えないものとします（ただし、3年次編入学の場合を除く）。

入学時に単位認定する学習の成果	必要書類
本学入学以前に他大学又は短期大学で修得した授業科目	「既修得単位認定願」と前在大学等が発行した「成績ならびに単位修得証明書」及び授業概要（シラバス） ※前在大学が本学の場合は上記書類は必要ありません。
外国語検定資格の技能審査等における学修成果（認定基準は下表参照）	「検定試験等による単位認定申請書」と「合格証明書」「成績証明書」または「スコアレポート」の原本

2. 「外国語検定資格の技能審査」による単位認定

本学への入学前または入学後在学中に、下記の外国語検定資格技能審査に合格した場合、その結果により、本学の学部共通科目の単位として認定します。単位認定の上限は「語学力を高める」4単位（国際芸術文化・芸術文化は6単位）です。なお外国人留学生対象の「日本語A」「日本語B」は上限には含みません。申請期間についてはポータルサイトの配信文章でご確認ください。

<外国語検定資格技能審査の認定表>

○英語

認定科目名	認定単位数	実用英語技能検定	TOEIC ※	TOEFL (ITP)	TOEFL (iBT)	※学内実施の模擬試験 TOEIC (IP) は TOEIC のスコアとして扱い認定します。
Joshihi Foundation English A・B	計2単位	2級	470～	460～	42～	※既に Joshibi Foundation English A・B を単位修得済または認定済の場合は、Joshihi Global English A・B 2単位のみ認定します。
Joshihi Foundation English A・B + Joshihi Global English A・B	計4単位	準1級以上	730～	543～	72～	

○フランス語

認定科目名	認定単位数	実用フランス語技能検定
フランス語 I A・I B	計2単位	3級
フランス語 I A・I B + フランス語 II A・II B	計4単位	2級以上

○イタリア語

認定科目名	認定単位数	実用イタリア語技能検定
イタリア語 I A・I B	計2単位	3級
イタリア語 I A・I B + イタリア語 II A・II B	計4単位	2級以上

○中国語

認定科目名	認定単位数	中国語検定	中国語コミュニケーション能力検定 (TECC)	実用中国語技能検定	漢語水平考試 (HSK)
中国語 I A・I B	計2単位	3級	400～	4級	3級
中国語 I A・I B + 中国語 II A・II B	計4単位	2級以上	550～	3級以上	4級以上

○ドイツ語

認定科目名	認定単位数	ドイツ語技能検定
ドイツ語 I A・I B	計2単位	3級
ドイツ語 I A・I B + ドイツ語 II A・II B	計4単位	2級以上

○日本語 ※外国人留学生（在留資格「留学」の学生）のみ

認定科目名	認定単位数	日本語能力検定
日本語 A・B	計2単位	N1

●注意事項 <「外国語検定資格の技能審査」による単位認定>

- ・同一語学において、複数の試験で基準を満たしていても、認められる単位数は表のとおりとします。例えば、英検2級とTOEIC470点を満たしていても「Joshibi Foundation English A・B」を2つ（計4単位分）認定することはしません。また、英検準1級とTOEIC470点を満たしている場合は、より上位の基準である英検準1級のみを適用し「Joshibi Foundation English A・B+Joshibi Global English A・B」（計4単位）のみ認定します。
- ・取得時期は、入学前・入学後のどちらも認めます。ただし、検定試験日より2年以内のものに限ります。
- ・学内で行われるTOEIC（IP）、TOEFL（ITP）の模擬試験（国際センター主催）のスコアも認めます。
- ・認定する単位数の上限は「語学力を高める」4単位（国際芸術文化専攻（芸術文化専攻）は6単位）とします。なお外国人留学生対象の「日本語A・B」は上限外とします。
- ・単位認定された科目と同一の科目を履修、単位修得することはできません。
- ・単位認定時に同一の科目を履修中である場合は、所定の期間内に必ず履修中止の手続きを行ってください。手続きを行わない場合、成績評価やGPAなどに影響が出る場合があります。
- ・母語以外の検定資格のみを認定します。

願い出た授業科目および単位については、教授会にはかり教育上有益と認めたものについては、本学における学部共通科目および学科共通科目の範囲で行うものとし、本学で修得したものととして認定します。

入学前の既修得単位および本学で修得したものとみなす単位の認定は、60単位以内とします（ただし、3年次編入学を除く）。

3. インターンシップ

インターンシップとは学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行う制度のことを言います。インターンシップ先が決まりましたら**キャリア支援センター**に報告してください。

[単位認定するインターンシップ]（芸術学部3・4年次対象）

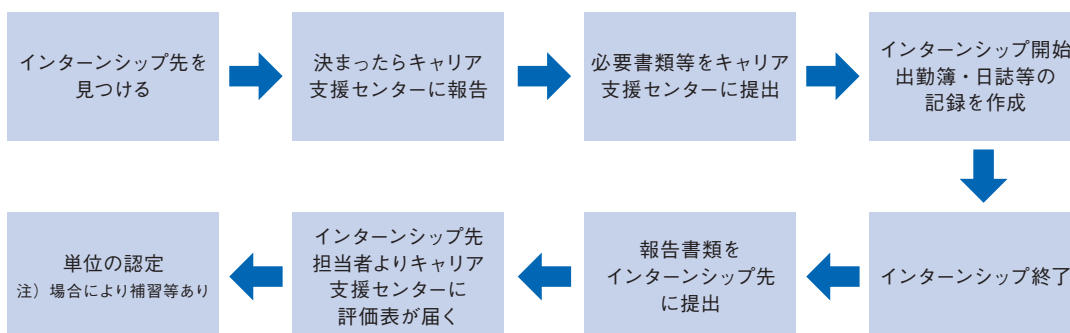
本学では主に夏期・春期休業期間を利用し、自分の専門分野に関連する企業の現場（或いはこれに類する場所）において、一定期間の実習（事前・事後指導を含む）を行うことで単位の修得が可能です（4年次春期休業中の実習は除く）。なお、修得する科目名称・単位数は実習期間に応じて異なります。

<単位認定の目安>

期 間	名 称	単 位
1週間の実習の場合	インターンシップ1	1
2週間の実習の場合	インターンシップ2	2
3週間の実習の場合	インターンシップ3	3
4週間の実習の場合	インターンシップ4	4

※認定単位は、インターンシップ期間の実働時間によって、付与する単位数が変わります。

<単位認定するインターンシップの流れ>



4. 留学中の本学開設科目学修について

遠隔授業による履修が可能となる場合でも、学籍「留学」中は認定できません。

5. 単位互換制度（対女子美術大学短期大学部単位互換）

平成13年4月から女子美術大学芸術学部と女子美術大学短期大学部（専攻科を除く）の単位互換制度を行っています。これにより、女子美術大学短期大学部の開設科目を履修することが可能です。

この単位互換制度は、教育課程の充実を図るとともに、学生皆さんの教育機会の拡大、特に幅広い視野の育成と学習意欲の向上を図ることを目的として実施されるものです。

○応募資格

芸術学部全学生が対象。

○履修可能単位数

単年度では最大8単位まで履修可能です。

○単位認定

修得した単位は学部共通科目の卒業所要単位として認定します。

○履修できる科目

単位互換の趣旨に鑑み、短期大学部の共通科目の内、芸術学部のカリキュラムに開設されていない科目が単位互換の対象となります。資格科目など一部の科目は除きます。履修の際は必修科目、実技科目等、芸術学部の勉学に支障のない範囲で、履修計画を立ててください。

○履修料

無料です。

○申込方法

芸術学部の開設科目と同様に、Web履修登録が必要となります。

※Web履修登録の画面上、単位互換科目には識別のため科目名称の頭に「※」の印をつけています

なお、抽選科目については短期大学部優先となります。短期大学部の履修人数によっては履修を許可できない場合があります。

対女子美術大学短期大学部単位互換開設科目一覧

		科目名	単 位	形 態	備 考
短 大 共 通 科 目	グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける	※保育原理	2	講義	
		※児童家庭福祉学	2		
		※保育の心理学	2		
		※子どもの保健・食・栄養	2		
美大生としての基礎力・創造力を養う		※造形材料学	2	講義	
		※広告論	2		※デザイン・工芸学科は除く
		※写真概論	2		
		※デザイン法令論	2		
		※記号論	2		

科目等履修生

卒業後、本学の授業科目の履修を希望する者は、本学学生の修学に支障のない限りにおいて選考の上、科目等履修生となることができます。教職課程履修者等で所定の単位を在学中に修得できなかった場合、不足単位の履修も可能です。履修可能科目については教育支援センターに確認してください。申込期間は前期・通年科目は3月上旬、後期科目は6月中旬になります。

転学科／転専攻・領域

2～4年次への進級時に、転学科／転専攻・領域を認める場合があります。申請の資格、時期、詳細について教育支援センターに確認してください。

卒業条件

芸術学部を卒業するために必要な最低修得単位は次の表の通りです。
卒業を認定された者には、学士（芸術）の学位が授与されます。

卒業所要単位（芸術学部）

学科 専攻・領域	学部共通科目					学科専門科目			卒業 所要 単位 合計
	①フアン テーション	②グローバル	③基礎力 創造力	④アートを生 かす	⑤語学力	学科共通 科目		専 攻 ・ 領 域 専 門 科 目	
	4単位	6単位 以上 (注2)	10単位 以上	2単位 以上	4単位 以上 英語系から 2単位以上 必修(注3)	必修 ・ 選 択 必 修	選択 (注1)		
美術学科 洋画			30			14	18	62	94
美術学科 日本画			30			14	16	64	94
美術学科 立体アート			30			14	19	61	94
美術学科 美術教育			30			16	15	63	94
美術学科 国際芸術文化			30			20	20	54	94
デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 環境デザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 工芸			30			10	20	64	94
アート・デザイン表現学科 メディア表現			30			30	8	56	94
アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現			30			32	6	56	94
アート・デザイン表現学科 ファッション表現			30			30	8	56	94
アート・デザイン表現学科 スペース表現			30			32	8	54	94
アート・デザイン表現学科 クリエイティブ・プロデュース表現			30			26	14	54	94
共創デザイン学科			30			80	14	—	94

(注1) 他学科の「学科共通科目」を履修することができる。修得した単位は、「学科共通科目・選択科目」に含むことができ、卒業所要単位に算入できる単位数は各専攻によって異なる。

(注2) 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。

(注3) 美術学科国際芸術文化専攻は「⑤語学力」の英語系科目から4単位を選択必修とし、合計6単位以上を習得すること。

卒業条件

芸術学部を卒業するために必要な最低修得単位は次の表の通りです。
卒業を認定された者には、学士(芸術)の学位が授与されます。

卒業所要単位 (芸術学部)

科目区分 学科 専攻・領域	学部共通科目					学科専門科目			卒業 所要 単位 合計
	①フアン クション	②グローバル	③基礎力 創造力	④アートを生 かす	⑤語学力	学科共通 科目		専 攻 ・ 領 域 専 門 科 目	
	4単位	6単位 以上 (注2)	10単位 以上	2単位 以上	4単位 以上 英語系から 2単位以上 必修(注3)	必修 ・ 選 択 必 修	選択 (注1)		
美術学科 洋画			30			14	18	62	94
美術学科 日本画			30			14	20	60	94
美術学科 立体アート			30			14	20	60	94
美術学科 美術教育			30			16	17	61	94
美術学科 芸術文化			30			20	24	50	94
デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 環境デザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 工芸			30			10	20	64	94
アート・デザイン表現学科 メディア表現			30			32	8	54	94
アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現			30			32	8	54	94
アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現			30			32	6	56	94
アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現			30			28	14	52	94
共創デザイン学科			30			80	14	—	94

(注1) 他学科の「学科共通科目」を履修することができる。修得した単位は、「学科共通科目・選択科目」に含むことができ、卒業所要単位に算入できる単位数は各専攻によって異なる。

(注2) 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。

(注3) 美術学科芸術文化専攻は「⑤語学力」の英語系科目から4単位を選択必修とし、合計6単位以上を習得すること。

学部共通科目

本学重点科目となるファンデーション科目を土台として、幅広い知識を共通教養で学び、学習意欲の高い学生は美術教養へ進む積み上げ式のカリキュラムとしています。

ファンデーション科目

「女子美基礎講座」「女子美の教養」を柱として開設しています。「女子美基礎講座」では、大学での学びに必要なスキルを身に付けると同時に、本学が輩出してきた卒業生（および在学学生）の足跡を確認し、学生の未来へと繋げていくことで、本学の理念、女子美スピリッツを浸透、継承できる内容です。「女子美の教養」では、社会人、アーティストとして将来を歩んでいく際に、教養教育の学びが自身の専攻分野、興味・関心とどのように結びついて社会に活かされるのかを学びます。

共通教養

・グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける【多様性の理解】

的確な情報収集や分析、理論的思考・判断能力を養い、現代社会において必要な知識を得て、理解を深めるカリキュラムとなっています。次の3つの科目群から成り立っています。

- ジェンダー研究 ●国際社会と日本・文化 ●自然環境と人間

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

多様性が尊重される社会において、ジェンダー、国際社会と日本、自然環境と人間、芸術について広く学び自己理解をすることで、その知識・理解を実地に関連付けることのできる幅広い教養を養う科目を配置する。

・美大生としての基礎力・創造力を養う【創造的思考力】

制作や研究に主体的、計画的に取り組む関心・意欲・態度を養います。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

美学、美術史、色彩や図学など、芸術分野における基礎力、芸術的感性を培い、学術・創作研究へ発展・応用させることのできる創造的思考力・判断力を養う科目を配置する。

・アートを社会と生活に生かす【実践力・マネジメント力】

生涯を通して学ぶ創作、研究（持続可能なアートスキル）への関心・意欲・態度を養い、地域社会への理解を深めるカリキュラムです。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術的理論と技法を活用し、自分の未来像（キャリア）をデザインし、生涯にわたり地域社会の持続的発展に貢献できる主体的な実践力、マネジメント力、協働する力を養う科目を配置する。

・語学力を高め世界で活躍する【表現・コミュニケーション力】

創作や考えを伝える技能・表現・コミュニケーションスキルを身につけます。女子美らしいアートに関連した英語教育の充実・実践のため、Joshibi Foundation English→Joshibi Global English→Joshibi Art Englishと、美術英語を学びます。

その他、English Conversationとしてコミュニケーション能力を身につけ、English in Film and the Performing Artsとして、美大生が必要とする美術や映像などの芸術全般に関する英語やプレゼンテーションを学びます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

グローバル社会において多様な他者の文化的背景を理解し、傾聴の姿勢と共に自身の考えを的確に伝えるコミュニケーションスキルを用いて世界で活躍できる能力を養う科目を配置する。

美術教養

教養とアートを結び付けた演習形式の科目です。

芸術学部（2024年度以降入学生）学部共通科目一覧

科目区分	授業科目	単位数	年次	形態	授業科目	単位数	年次	形態	単位計					
グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける	ファンデーション	必	女子美基礎講座	2	1	講義	必	女子美の教養	2	1	講義	4単位		
	ジェンダー研究	◆	美術教養科目					◆	女性と法	2	1~4	講義		
			ジェンダーとアート研究	2	2~4	演習		ジェンダー論	2	1~4				
		◆	共通教養科目					ジェンダーとアート概論	2	1~4				
	国際社会と日本・文化	◆	美術教養科目					◆	言語学	2	1~4	講義	6単位以上	
			情報とアート	2	2~4	演習		伝統文化論	2	1~4				
			人権・ダイバーシティとアート	2	2~4	演習		法学（日本国憲法）	2	1~4				
		◆	共通教養科目					社会学	2	1~4				
			哲学	2	1~4	講義		国際関係論	2	1~4				
			歴史	2	1~4			経済学	2	1~4				
			文学	2	1~4			観光学	2	1~4				
			文化人類学	2	1~4			教育原論	2	1				
			思想史	2	1~4			アートと法入門	2	1~4				
			コミュニケーション論	2	1~4			芸術文化政策論	2	1~4				
		比較文化論	2	1~4			※1 日本語 A	1	1					
		異文化理解	2	1~4			※1 日本語 B	1	1					
	自然環境と人間	◆	美術教養科目						◆	環境学	2	1~4	講義	30単位以上
			環境とアート	2	2~4		演習		スポーツ演習 A	1	1~4			
			身体とアート	2	2~4	演習		スポーツ演習 B	1	1~4				
◆		共通教養科目					健康科学 A	1	1~4					
		数理学	2	1~4	講義		健康科学 B	1	1~4					
		生命科学	2	1~4			精神保健	2	1~4					
		心理学	2	1~4			行動心理学	2	1~4					
	教育心理学	2	2			身体機能論	2	1~4						
	教青年心理学	2	1~4											
美大生としての基礎力・創造力を養う	芸術	◆	美術教養科目				◆	芸術学 B	2	1~4	講義	10単位以上		
			音楽とアート	2	2~4	演習		芸術学 C	2	1~4				
		芸必	古典美術研究	2	3	講義		現代美術論	2	1~4				
		◆	共通教養科目					◆	デザイン史 A	2			1~4	
			美西洋美術史概説	2	1~4			◆	デザイン史 B	2			1~4	
			西洋美術史特論 A	2	1~4			デ工	印刷概論	2			1~4	
			西洋美術史特論 B	2	1~4				美術解剖学 A	2			1~4	
			西洋美術史特論 C	2	1~4				美術解剖学 B	2			1~4	
			美日本美術史概説	2	1~4		講義		図学 A	2			1~4	
			日本美術史特論 A	2	1~4					図学 B			2	1~4
			日本美術史特論 B	2	1~4					書道 A			1	1~4
			日本美術史特論 C	2	1~4					書道 B			1	1~4
			美東洋美術史概説	2	1~4					文化遺産学			2	1~4
			東洋美術史特論 A	2	1~4				デ工	写真真史			2	1~4
			東洋美術史特論 B	2	1~4					色彩学 A			2	1~4
			美色彩学	2	1~4					色彩学 B			2	1~4
			現代美学	2	1~4					造形心理学			2	1~4
	芸美術学 A	2	1~4											
アートを社会と生活に生かす	実践するアート	◆	美術教養科目					◆	ク※ アーティスト・イン・レジデンス概論	2	1~4	講義	2単位以上	
			プロジェクト・スタディーズ	2	1~4	演習		カラーコーディネート基礎	2	1~4				
			アーティスト・イン・レジデンス	2	1~4			表現と癒しの営み	2	1~4				
			国際芸術プログラム	2	1~4			子ども発達論	2	1~4				
		◆	共通教養科目				デ工	インテリアデザイン史	2	1~4				
			地域共創学	2	1~4	講義								
		キャリアリテラシー	◆	美術教養科目					◆	キャリア形成 A	2			1~4
	インターンシップ 1		1	3~4	実技		キャリア形成 B	2	1~4					
	インターンシップ 2		1	3~4			キャリア形成 C	2	2~4					
	インターンシップ 3		3	3~4			キャリア形成 D	2	2~4					
	インターンシップ 4		4	3~4			美情報メディア基礎演習	2	1~4					
◆	共通教養科目													
語学力を高め世界で活躍する	語学力を高める	◆	美術教養科目				◆	イタリア語 I A	1	1~4	演習	4単位以上（英語科目から2単位以上必修）		
			Joshihi Art English A	1	2~4	演習		イタリア語 I B	1	1~4				
			Joshihi Art English B	1	2~4			ドイツ語 I A	1	1~4				
			English in Film and the Performing Arts A	1	2~4			ドイツ語 I B	1	1~4				
			English in Film and the Performing Arts B	1	2~4			中国語 I A	1	1~4				
		◆	共通教養科目						中国語 I B	1			1~4	
			Joshihi Foundation English A	1	1	演習		フランス語 II A	1	2~4				
			Joshihi Foundation English B	1	1				フランス語 II B	1			2~4	
			Joshihi Global English A	1	1~4				イタリア語 II A	1			2~4	
			Joshihi Global English B	1	1~4				イタリア語 II B	1			2~4	
			English Conversation A	1	1~4				ドイツ語 II A	1			2~4	
			English Conversation B	1	1~4				ドイツ語 II B	1			2~4	
			フランス語 I A	1	1~4				中国語 II A	1			2~4	
	フランス語 I B	1	1~4				中国語 II B	1	2~4					

必 ……必修科目。
 美 ……美術学科の必修科目。
 芸必 ……美術学科国際芸術文化専攻の必修科目。
 デ・工 ……デザイン・工芸学科学科共通科目の選択科目。
 ク※ ……アート・デザイン表現学科 クリエイティブ・プロデュース表現領域の必修科目
 教 ……教職課程指定科目。
 学 ……学芸員課程科目。(学芸員養成課程履修の条件を満たす場合のみ履修可。P172～177 参照。)
 ※1 ……「日本語 A」「日本語 B」は外国人留学生のみ履修可能。外国人留学生は「日本語 A」1単位、「日本語 B」1単位の計2単位必修。
 ※2 ……美術学科国際芸術文化専攻は「語学力を高める」の英語科目から4単位以上を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

芸術学部（2023年度入学生） 学部共通科目一覧

科目区分	授業科目	単位数	年次	形態	授業科目	単位数	年次	形態	単位計	
ファンデーション	必 女子美基礎講座	2	1	講義	必 女子美の教養	2	1	講義	4単位	
グローバルな多様な社会に必要な知識を身につける	ジェンダー研究	◆ 美術教養科目			女 性 と 法	2	1~4	講義	6単位以上	
		ジェンダーとアート研究	2	2~4	演習	ジェンダー論	2			1~4
		◆ 共通教養科目			ジェンダーとアート概論	2	1~4			
	国際社会と日本・文化	◆ 美術教養科目				言語学	2	1~4		講義
		情報とアート	2	2~4	演習	伝統文化論	2	1~4		
		人権・ダイバーシティとアート	2	2~4		法学（日本国憲法）	2	1~4		
		◆ 共通教養科目			社会福祉学	2	1~4			
		哲学	2	1~4	講義	国際関係論	2	1~4		
		歴史	2	1~4		経済学	2	1~4		
		文化人類学	2	1~4		観光学	2	1~4		
		文化人類学	2	1~4		教育原論	2	1		
		コミュニケーション論	2	1~4		アートと法入門	2	1~4		
		比較文化論	2	1~4		芸術文化政策論	2	1~4		
	異文化理解	2	1~4	※1 日本語 A	1	1	演習			
				※1 日本語 B	1	1				
	自然環境と人間	◆ 美術教養科目				デ工 環境論	2	1~4		講義
		環境とアート	2	2~4	演習	スポーツ演習 A	1	1~4		
		身体とアート	2	2~4		スポーツ演習 B	1	1~4		演習
◆ 共通教養科目				健康科学 A	1	1~4				
数理科学		2	1~4	講義	健康科学 B	1	1~4			
生命科学		2	1~4		精神保健	2	1~4			
心理学		2	1~4		行動心理学	2	1~4			
教育心理学		2	2		身体機能論	2	1~4			
教青年心理学	2	1~4								
美大生としての基礎力・創造力を養う	芸術	◆ 美術教養科目			芸術学 B	2	1~4	講義		
		音楽とアート	2	2~4	演習	芸術学 C	2		1~4	
		芸必 古典美術研究	2	3		現代美術論	2		1~4	
	芸術	◆ 共通教養科目			講義	デザイン史 A	2	1~4		
		美 西洋美術史概説	2	1~4		デザイン史 B	2	1~4		
		西洋美術史特論 A	2	1~4		デ工 印刷概論	2	1~4		
		西洋美術史特論 B	2	1~4		美術解剖学 A	2	1~4		
		西洋美術史特論 C	2	1~4		美術解剖学 B	2	1~4		
		美 日本美術史概説	2	1~4		図学 A	2	1~4		
		日本美術史特論 A	2	1~4		図学 B	2	1~4		
		日本美術史特論 B	2	1~4		書道 A	1	1~4		
		日本美術史特論 C	2	1~4		書道 B	1	1~4		
		美 東洋美術史概説	2	1~4		文化遺産学	2	1~4		
		東洋美術史特論 A	2	1~4		デ工 写真真史	2	1~4		
		東洋美術史特論 B	2	1~4		講義	色彩学 A	2	1~4	
		東洋美術史特論 C	2	1~4			色彩学 B	2	1~4	
		美 現代美学	2	1~4			造形心理学	2	1~4	
		芸 芸術学 A	2	1~4						
実践するアート	◆ 美術教養科目				アーティスト・イン・レジデンス概論	2	1~4	講義		
	プロジェクト・スタディーズ	2	1~4	演習	カラーコーディネート基礎	2	1~4			
	アーティスト・イン・レジデンス	2	1~4		表現と癒しの営み	2	1~4			
	国際芸術プログラム	2	1~4		子ども発達論	2	1~4			
	◆ 共通教養科目			デ工 インテリアデザイン史	2	1~4				
	地域共創学	2	1~4							
キャリアリテラシー	◆ 美術教養科目			実技	キャリア形成 A	2	1~4	講義		
	インターンシップ 1	1	3~4		キャリア形成 B	2	1~4			
	インターンシップ 2	2	3~4		キャリア形成 C	2	2~4			
	インターンシップ 3	3	3~4		キャリア形成 D	2	2~4			
	インターンシップ 4	4	3~4		芸必 情報メディア基礎演習	2	1~4			
	◆ 共通教養科目									
学 博物館概論	2	1	講義							
語学力を高め世界で活躍する	◆ 美術教養科目			演習	イタリア語 I A	1	1~4	演習		
	Joshi Art English A	1	2~4		イタリア語 I B	1	1~4			
	Joshi Art English B	1	2~4		ドイツ語 I A	1	1~4			
	English in Film and the Performing Arts A	1	2~4		ドイツ語 I B	1	1~4			
	English in Film and the Performing Arts B	1	2~4		中国語 I A	1	1~4			
	◆ 共通教養科目				中国語 I B	1	1~4			
	Joshi Foundation English A	1	1		フランス語 II A	1	2~4			
	Joshi Foundation English B	1	1		フランス語 II B	1	2~4			
	Joshi Global English A	1	1~4		イタリア語 II A	1	2~4			
	Joshi Global English B	1	1~4		イタリア語 II B	1	2~4			
	English Conversation A	1	1~4		ドイツ語 II A	1	2~4			
	English Conversation B	1	1~4		ドイツ語 II B	1	2~4			
	フランス語 I A	1	1~4		中国語 II A	1	2~4			
	フランス語 I B	1	1~4		中国語 II B	1	2~4			

必 ……必修科目。
 美 ……美術学科の必修科目。
 芸必 ……美術学科芸術文化専攻の必修科目。
 デ・工…デザイン・工芸学科 学科共通科目の選択科目。
 教 ……教職課程指定科目。
 学 ……学芸員課程科目。(学芸員養成課程履修の条件を満たす場合のみ履修可。P172～177 参照。)
 ※1 ……「日本語 A」「日本語 B」は外国人留学生のみ履修可能。外国人留学生は「日本語 A」1単位、「日本語 B」1単位の計 2 単位必修。
 ※2 ……美術学科芸術文化専攻は「語学力を高める」の英語科目から 4 単位以上を必修とし、合計 6 単位以上を修得すること。

<履修上の注意>

「科目名」A、B、Cは異なる種類の授業になります。それぞれの単位修得が可能です。

例：「芸術学A」「芸術学B」「芸術学C」Cのみ、またA、B、C全てを単位修得することが可能です。

●ファンデーション

「女子美基礎講座」「女子美の教養」は1年次必修科目です。

●国際社会と日本・文化

外国人留学生は「日本語A」1単位「日本語B」1単位 計2単位は必修です。原則同一年度に履修してください。「日本語A・B」は外国人留学生（在留資格「留学」）のみ履修が可能です。

●自然環境と人間

「健康科学A」「健康科学B」「スポーツ演習A」「スポーツ演習B」履修人数に制限がありますので、Web抽選を行います。ポータルサイトで抽選希望の登録をしてください。抽選に漏れた場合は、空きのある科目にのみ再申請することができます。

「環境論」はデザイン・工芸学科の学生は学科共通選択科目として算入します。

●芸術

「西洋美術史概説」「日本美術史概説」「東洋美術史概説」は美術学科の学生は学科共通必修科目として算入します。

「印刷概論」「写真史」はデザイン・工芸学科の学生は学科共通選択科目として算入します。

●実践するアート

「アーティスト・イン・レジデンス概論」はクリエイティブ・プロデュース表現領域必修科目です。

●キャリアリテラシー

「博物館概論」は学芸員養成課程履修者のみ履修できます。

「情報メディア基礎演習」は美術学科必修科目です。

●語学力を高める

英語科目から2単位以上必修です。「語学力を高める」としては合計で4単位以上の修得が必要です。（注）国際芸術文化専攻・芸術文化専攻は英語科目から4単位以上必修、合計で6単位以上の修得が必要です。

履修人数に制限がありますので、Web抽選を行います。ポータルサイトで抽選希望の登録をしてください。

外国語科目のA・Bは、原則、科目名・担当教員名・開講曜日時限が同一のAとBをペアで履修してください。

ただし、前年度以前に、Aのみ（Bのみ）単位修得した学生は、Bのみ（Aのみ）受講することが可能です。

科目名Ⅰ・Ⅱはグレードを表しています。Ⅱを履修するためには、Ⅰの単位を修得済みであること、またはⅠの到達目標を達成しているレベルにあることが必要です。

「外国語検定資格の技能審査」による単位認定の制度については、P.21～22を参照してください。

美術学科

1. 教育内容

美術学科では大学での4年間を通し、個人の発想を独自性のある表現の域にまで高め、主体的に美術に取り組むことを目指します。

洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、美術教育専攻、国際芸術文化専攻の各専攻で専門性を深め、さらに5専攻の連携によって、専門の周辺領域の技術と理論を横断的に学びます。多様な美術に関する幅広い知識と認識を持つことで、美術活動や美術普及などによって社会に関わり「美術で生きる」ことのできる人材を育成します。また、個人の感性や考えに基づく実感の伴う新たな表現を追及するために、実技や理論研究による実践的経験にもとづく自信、知識を自己の表現と結びつける洞察力、客観的な視野で美術活動全体から専門領域を認識する論理性、それらを基にして自分の目指す表現と方法を確立します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次は専攻における基礎的な技術と知識の修得、2年次は専攻（コース）の基礎および専門技術の修得を中心に、美術の基礎として美術史、美術理論、専攻を越えて「美術学科オープン実技A・B」、「美術学科オープン演習A・B」を学びます。

美術史は、「西洋美術史概説」、「日本美術史概説」および「東洋美術史概説」を必修科目とします。美術理論は2年次から選択必修で履修します。「芸術文化オープンゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」・「美術教育論A・B」を選択科目とします（国際芸術文化専攻は芸術文化オープンゼミⅡ必修）。実技基礎技法・技術は、1年次「美術学科オープン実技A」、2年次「美術学科オープン実技B」を選択科目とします。絵画・立体の素材・技法とデジタル技術・表現は、1年次「美術学科オープン演習A」、2年次「美術学科オープン演習B」を選択科目とします。

3年次は、1年次での専攻と美術の基礎、2年次での専門（コース・ゼミ）の基礎の上に、各自の発想を表現に結びつけるためにコンセプトの熟成をおこない、表現に適した専門技術の修練に努めます。「美術で生きる」では、多様な専門家から美術の現場と実践について学びます。

国際芸術文化専攻は、多文化理解から国際的に活躍できる教養人の育成を目指します。洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、美術教育専攻の学生が理論研究を目指す場合、選択科目の「芸術文化オープンゼミ」に参加することができます。また「美術教育オープンゼミ」への参加により、美術教育普及について実践的に学ぶことも可能です。4年次は、4年間の集大成として、各自の主題の明確化につとめ、その表現に必要な専門の技術を錬磨し独創性のある作品制作または理論研究を目指します。

美術学科 教育目標・人材の養成に関する目的	美術学科は、過去、現在、未来にわたる、広範な芸術的制作、芸術的理論の探求に基づき、芸術表現およびその研究を練磨することを教育目標としている。平面表現、立体表現の制作技術の鍛錬、作品コンセプトの熟成、芸術理論による表象的意味の理解を通して、社会に対する深い洞察に基づいた創造的活動を持続的に行える人材の養成を目的としている。
--------------------------	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
美術学科 専門科目 (学科共通科目)	美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、美術史や芸術理論を学び、他ジャンルにおける芸術の表現方法や素材に触れ、感性を養い、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成します。	/	
	【知識・理解】 (教養力・専門性)	美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。	美術全般における理論と技法、伝統や歴史などを理解し制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を養うための科目を配置する。	1 年次 【講】 絵画素材論 A 【講】 絵画素材論 B 【講】 西洋美術史概説 【講】 日本美術史概説 【講】 東洋美術史概説 2 年次 【演】 ミュージアムエデュケーション演習 【実】 教職絵画 【実】 教職彫塑 3 年次 【講】 アート修復基礎論 【実】 教職工芸 【実】 教職デザイン 2 年次～4 年次 【講】 色彩文化概論 【講】 配色調和論 【講】 技法史 【講】 芸術政策と法 【講】 創作活動と法
	【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性)	作品や論文制作における課題やテーマを探索し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していきける能力と態度を身に付けている。	作品制作や研究の実践を通して、自己のアイデンティティを確立しその個性を磨き続ける意欲と、生涯にわたり自己成長を継続できる力と態度を養う科目を配置する。	1 年次 【実】 美術学科オープン実技 A 【演】 美術学科オープン演習 A 2 年次 【講】 美術で生きる 【実】 美術学科オープン実技 B 【演】 美術学科オープン演習 B 2 年次～4 年次 【講】 アート・アクティビティ A 【講】 アート・アクティビティ B 【講】 デザイン批評 B
		美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。	自らの専門分野以外の技術と理論も積極的に学ぶ態度を養い自らの制作や研究に活かす力を養う科目を配置する。	
	【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力)	理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。	理論研究を通して論理性や洞察力を身に付け、自分の目指す表現方法を確立する力を養う科目を配置する。	2 年次～ 【演】 アートプラクティス I 【講】 視覚心理学 【講】 文化資源学 【講】 ヴィジュアルスタディーズ B 【講】 デザイン批評 A 【講】 芸術人類学 【講】 芸術民俗学 【演】 美術教育オープンゼミ A 【演】 美術教育オープンゼミ B
		国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。	国際問題、社会問題や時代変化について学び、美術の知識や技能をどのように活かすか構想し、発信する力を養う科目を配置する。	
	【技能・表現】 (創造力・独創性・対話力)	自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。	独自性のある表現で作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けるための科目を配置する。	2 年次～4 年次 【演】 芸術文化オープンゼミ I 【演】 アートプラクティス II 【講】 ヴィジュアルスタディーズ A 3 年次～4 年次 【演】 芸術文化オープンゼミ II 4 年次 【演】 芸術文化オープンゼミ III
	自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。	自身の表現や研究について言語化できる力、他者に伝える対話能力を身に付けるための科目を配置する。また、他者の表現や研究についても客観的に分析、理解し、考察できる態度や力を身に付けるための科目を配置する。		

「美術学科オープン実技 A・B」「美術学科オープン演習 A・B」

「美術学科オープン実技 A・B」「美術学科オープン演習 A・B」は、美術学科の選択科目です。以下の年次ごとに履修できる科目を確認して選択してください。

なお、「美術学科オープン実技 A・B」「美術学科オープン演習 A・B」は抽選科目になりますので、必ず抽選申込締切日までにポータルサイトで抽選の希望登録をしてください。

※教職課程履修者は「教職課程履修の手引」も参照してください。

年次	科目・コース名	抽選申込締切
1	美術学科オープン実技 A (油彩画)	4/8 10:00まで
	美術学科オープン実技 A (グループワーク)	
	美術学科オープン実技 A (リトグラフ)	
	美術学科オープン実技 A (日本画)	
	美術学科オープン実技 A (彫塑)	
	美術学科オープン実技 A (立体)	
	美術学科オープン演習 A (素描 (基礎) 1)	
	美術学科オープン演習 A (素描 (基礎) 2)	
	美術学科オープン演習 A (プリント)	
	美術学科オープン演習 A (日本画)	
	美術学科オープン演習 A (繊維)	
	美術学科オープン演習 A (CG a)	
	美術学科オープン演習 A (編集・デザイン)	
	美術学科オープン演習 A (メディア)	
美術学科オープン演習 A (英語でつくる 1)		
2	美術学科オープン実技 B (油彩画)	
	美術学科オープン実技 B (古典技法)	
	美術学科オープン実技 B (インスタレーション)	
	美術学科オープン実技 B (銅板画)	
	美術学科オープン実技 B (日本画)	
	美術学科オープン実技 B (彫塑)	
	美術学科オープン演習 B (素描)	
	美術学科オープン演習 B (パネル制作)	
	美術学科オープン演習 B (紙)	
	美術学科オープン演習 B (日本画)	
	美術学科オープン演習 B (編集・デザイン)	
	美術学科オープン演習 B (メディア)	
	美術学科オープン演習 B (CG b)	
	美術学科オープン演習 B (製本)	
美術学科オープン演習 B (絵画材料)		
美術学科オープン演習 B (英語でつくる 2)		

美術学科

1. 教育内容

美術学科では大学での4年間を通し、個人の発想を独自性のある表現の域にまで高め、主体的に美術に取り組むことを目指します。

洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、美術教育専攻、芸術文化専攻の各専攻で制作技術の鍛錬、作品コンセプトの熟成、表象的意味の理解につとめながら、専門の周辺領域の技術と理論を横断的に学び、美術に関する幅広い認識をもつことで、美術活動を持続的に行うことのできる人材を育成します。また、各自の志向する美術表現が社会で展開されている現状の安易な模倣に終始せず、個人の感性や考えに基づく実感の伴う新たな表現を迫るために、実技や理論研究による実践的経験にもとづく自信、知識を自己の表現と結びつける洞察力、客観的な視野で美術活動全体から専門領域を認識する論理性、それらを基にして自分の目指す表現と方法を確立します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次は専攻における基礎的な技術と知識の修得、2年次は専攻(コース)の基礎および専門技術の修得を中心に、美術の基礎として美術史、美術理論、美術選択実技A・B、素材・技法の美術選択演習A・Bを学びます。

美術史は、「西洋美術史概説」、「日本美術史概説」および「東洋美術史概説」を必修科目とします。美術理論は2年次から選択必修で履修します。「芸術文化オープンゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」・「美術教育論A・B」を選択科目とします(芸術文化専攻は芸術文化オープンゼミⅡ必修)。美術学科基礎技術は、1年次「美術選択実技A」、2年次「美術選択実技B」を選択科目とします。平面・立体に関わる素材・技法は、1年次「美術選択演習A」、2年次「美術選択演習B」を選択科目とします。

3年次は、1年次での専攻と美術の基礎、2年次での専門(コース・ゼミ)の基礎の上に、各自の発想を表現に結びつけるためにコンセプトの熟成をおこない、表現に適した専門技術の修練に努めます。芸術文化専攻は理論的に芸術と人間・社会との関わりを研究する専攻ですが、理論に必要な実践も行います。洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、美術教育専攻の学生が理論研究を目指す場合、選択科目の「芸術文化オープンゼミ」に参加することになります。芸術文化専攻は美術学科全ての専攻にまたがる理論のプラットフォームの役割を担います。

4年次は、4年間の集大成として、各自の主題の明確化につとめ、その表現に必要な専門の技術を錬磨し独創性のある作品制作または理論研究を目指します。

1・2年次美術学科の基礎科目

洋画専攻	美術史・美術理論 美術選択演習学科内の 技法・素材 美術選択実技学科内の 実技	芸術文化専攻
日本画専攻		
立体アート専攻		
美術教育専攻		

3・4年次実技と理論の連携

洋画専攻	芸術文化オープンゼミに よる理論指導 実技作品のクリティック	芸術文化専攻
日本画専攻		
立体アート専攻		
美術教育専攻		

教育目標

美術学科は、過去、現在、未来にわたる、広範な芸術的制作、芸術的理論の探求に基づき、芸術表現およびその研究を練磨すること、平面表現、立体表現の制作技術の鍛錬、作品コンセプトの熟成、芸術理論による表象的意味の理解を通して、社会に対する深い洞察に基づいた創造的活動を持続的に行える人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、美術史や芸術理論を学び、他ジャンルにおける芸術の表現方法や素材に触れ、感性を養い、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成する。

美術学科 洋画専攻

1. 教育内容

平面絵画を中心に、油彩画、版画、ミクストメディア、インスタレーション、映像、デジタルアートなど多様な表現を学びます。

美術活動全体から専門領域を認識するために、美術の基礎としての美術史、美術全般の基礎となる平面・立体の素材と技法・手法、さらに実線に即した美術理論を横断的に学びます。美術に対する視野を広げ、制作・研究を通して自己のテーマに沿った表現方法を見つけ、活動や発表の経験を重ね社会に発信できる表現者を育成します。

2年次から絵画コースと版画コースに分かれます。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次]

「絵画A」では油彩画を中心に、対象を観察して描くことに重点を置いた絵画の基本を学びます。「絵画B」では多様な素材や手法、技法に触れて専門性を身につけ、発想を表現につなげる方法を学びます。また、作品のベースとなる思考や制作のプロセス、作品を記録しポートフォリオを作成します。

[2年次]《絵画コースと版画コースに分かれます。》

【絵画コース】

「絵画A」で描くことの基本を、「絵画B」で油彩画にとどまらず多様な表現を選択し専門性を身につけます。

【版画コース】

基本の4版種の、木版・銅版・リトグラフ・シルクスクリーンの基礎的技術と知識を学びます。また、先端的な版画表現も身につけます。

[3年次]

【絵画コース】

創造的発想を表現につなげるための専門的な技法、技術を習得します。グループワークによってプロジェクトを体験します。ディスカッションやプレゼンテーションの力を鍛えます。

【版画コース】

版種を選択し、幅広い専門知識と技術を習得して独自の表現を追求します。ディスカッション、プレゼンテーション能力を養う機会も多くあります。

[4年次]

【絵画コース】

これまでに培った創造的表現力や、表現方法を土台に、テーマを明確化することで独自の作品制作を目指します。ゼミ形式で各自の発想を総合的に展開し、社会的な創作活動の出発点となる卒業制作を行います。

【版画コース】

発想力と専門的な技法や技術を深め、独自の表現を追求します。多様な表現方法との融合を図りながら、今日的な版表現を切り拓き、卒業制作を行います。

美術学科 洋画専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	洋画専攻では、「個性の尊重」「オリジナリティの追究」「制作におけるプロセスの重視」を教育方針とし、現代社会に対応した多様な美術表現の知識と技術を兼ね備え、芸術活動をもって社会活動・創造活動のできる人材の育成を教育目標とする。
----------------------------------	--

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
美術学科 洋画専攻 専門科目	美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・専門性)	美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。	表現者として求められる知識や技能を身に付けるための科目を配置する。また、美術における文化や歴史について習得した知識を、自身の制作や研究につなげ、社会貢献や美術の普及のために活用する能力を獲得するための科目を配置する。	絵画コース 1年次 【演習】基礎構成演習 【実技】デッサンⅠ、絵画ⅠA 絵画コース 2年次 【実】デッサンⅡ、絵画ⅡA 3年次 【実】絵画ⅢA 版画コース 2年次 【演】版画表現演習Ⅰ
	【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性)	作品や論文制作における課題やテーマを探求し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していける能力と態度を身に付けている。	選択制の授業を積み重ねることにより、表現の展開とともに専門性を深め、作品制作におけるテーマと表現方法を確立するための科目を配置する。	絵画コース 1年次 【実】絵画ⅠB 2年次 【実】絵画ⅡB 3年次 【実】絵画ⅢB
		美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。	自らの専門領域以外の表現方法、表現技法を学び理論をリサーチすることで複合的な思考、手法を身につけるための科目を配置する。	版画コース 3年次 【演】版画表現演習Ⅱ
	【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力)	理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。	理論研究の視点から自身の作品について考察し、その特徴を発見するとともに目指す制作テーマを確立する力を身につけるための科目を配置する。	絵画コース 1年次 【実】絵画ⅠB 2年次 【実】絵画ⅡB 3年次 【実】絵画ⅢA、ⅢB
		国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。	様々な社会問題や時代変化に対して美術を通してどのような問題提起や活動が可能かなどを論理的に考えるとともに、発表やプロジェクトなどを通して発信できる能力を身に付けるための科目を配置する。	4年次 【実】絵画Ⅳ、卒業制作 版画コース 2年次 【実】版画Ⅰ、デッサンⅡ 3年次 【実】版画Ⅱ、素材実験Ⅰ 4年次 【実】版画Ⅲ、素材実験Ⅱ、卒業制作
	【技能・表現】 (創造力・獨創性・対話力)	自身の発想を独自の表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。	【絵画コース】 表現の展開と専門性、獨創性の探究を通して、各自のテーマと表現方法を確立するための科目を配置する。 【版画コース】4版種から各自の表現に適した版種を選択し、絵画的発想と版を作る技術との融合を図り、資質にあった表現方法を確立するための科目を配置する。	絵画コース 2年次 【実】絵画ⅡB 3年次 【実】絵画ⅢA、ⅢB 4年次 【実】絵画Ⅳ、卒業制作
		自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。	【絵画コース】 実践的社会活動としての美術を探究し、学内外での作品発表やワークショップなどを通して、作品ポートフォリオ制作、プレゼンテーション、ディスカッション能力を身に付ける科目を配置する。また作品鑑賞力を高め、批評性を身に付けるための科目を配置する。 【版画コース】 幅広い専門的知識と技術を習得し、それらを活かして自らの制作のコンセプトと表現方法を言語化して他者に伝達する能力を身に付ける。また他者の作品についても客観的に分析し、建設的な議論へ繋げることができる力を身に付けるための科目を配置する。	版画コース 2年次 【実】版画Ⅰ、デッサンⅡ 3年次 【実】版画Ⅱ、素材実験Ⅰ、版画表現演習Ⅱ 4年次 【実】版画Ⅲ、素材実験Ⅱ、卒業制作

美術学科 洋画専攻

1. 教育内容

平面絵画を中心に、油彩画、版画、ミクストメディア、インスタレーション、映像表現、デジタルアートなど幅広い表現を学びます。

美術活動全体から専門領域を認識するために、美術の基礎としての美術史、美術全般の基礎となる平面・立体の素材と技法・手法、さらに実践に即した美術理論を横断的に学びます。美術に対する視野を広げ、制作・研究を通して自己のテーマに沿った表現方法を練磨する事で、個人の発想による制作に社会性を見いだせる表現者を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次]

「絵画A」では油彩画を中心に、対象を観察して描く絵画の基本を学びます。「絵画B」は発想を作品に展開する方法や技術の基礎を学びます。また、作品のベースとなる考えや制作過程を記録しポートフォリオを作成します。

[2年次]

絵画コースと版画コースに分かれます。絵画コースは、「絵画A」で描くことの基本を、「絵画B」で油彩画にとどまらずさまざまな表現方法を追究します。版画コースは、木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンの基礎的技術を学びます。ポートフォリオの作成を継続します。

[3年次]

絵画コース、版画コースにおいて、創造的発想を表現につなげるための専門的な技術を習得します。講評会で自作品について批評・解説を行えるようにプレゼンテーション能力を高めます。

[4年次]

これまでに養った創造的表現力や表現方法を土台に、テーマを明確化することで独自の作品制作を目指します。ゼミ形式で各自の発想を総合的に展開し、社会的な創作活動の出発点となる卒業制作を行います。

教育目標

洋画専攻では、「個性の尊重」「オリジナリティの追究」「制作におけるプロセスの重視」を教育方針とし、現代社会に対応した多様な美術表現の知識と技術を兼ね備え、芸術活動をもって社会活動・創造活動のできる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1・2年次は、絵画における絵画表現を「素材」「テーマ」「手法」の観点から作品制作に取り組み、基礎的知識と技術を学ぶ。また、ファインアートの歴史と現代社会の関わりを幅広く理解し、専門的知識と技術を学ぶ基礎を築く。
- ・ 2年次では絵画コース、版画コースに分かれ、専門基礎に取り組み、表現と専門性を探求し学ぶ。
- ・ 3・4年次は、表現の展開と専門性の探究を通して、各自のテーマと表現方法の確立を目標とする。
- ・ 3年次では専門的知識と技術を学びながら、絵画コースでは、実践的社会活動としての美術を探究し、コース別での作品展示やワークショップなどを通して、ファイル制作技術、プレゼンテーション能力と作品鑑賞能力を高めていく。版画コースでは、4版種から各自の表現に適した版種を選択し、絵画的発想と版を作る技術との融合を図り、資質にあった方向を確立する。
- ・ 4年次は、専門的知識と技術を習熟し、習得した幅広い教養と知識、技術の総まとめとして、各自のテーマと表現方法で卒業制作作品を制作し、展示発表する。

芸術学部 美術学科 洋画専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次					
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	演習						
	語学力									
学科専門科目	必修	必 西洋美術史概説 必 日本美術史概説 必 東洋美術史概説	2 2 2	講義 講義 講義	必 美術で生きる	2	講義			
			6			2				
		選択必修				アート・プラクティスⅠ アート・プラクティスⅡ アート・アクティビティ 色彩文化概論 配色調和論 視覚心理学 カラーキャリアⅠ カラーキャリアⅡ 文化資源学 ヴィジュアルスタディーズA ヴィジュアルスタディーズB デザイン批評A デザイン批評B 芸術人類学 芸術民俗学 芸術政策と法 創作活動と法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
					6					
	選択		* 美術学科オープン実技A (油彩画) * 美術学科オープン実技A (グループワーク) * 美術学科オープン実技A (リトグラフ) * 美術学科オープン実技A (日本画) * 美術学科オープン実技A (彫塑) * 美術学科オープン実技A (立体)	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 実技	* 美術学科オープン実技B (油彩画) * 美術学科オープン実技B (古典技法) * 美術学科オープン実技B (インスタレーション) * 美術学科オープン実技B (銅版画) * 美術学科オープン実技B (日本画) * 美術学科オープン実技B (彫塑)	2 2 2 2 2 2		実技 実技 実技 実技 実技 実技	
			美術学科オープン演習A (素描(基礎)1) 美術学科オープン演習A (素描(基礎)2) 美術学科オープン演習A (プリント) 美術学科オープン演習A (日本画) 美術学科オープン演習A (繊維) 美術学科オープン演習A (CGa) 美術学科オープン演習A (編集・デザイン) 美術学科オープン演習A (メディア) 美術学科オープン演習A (英語でつくる1)	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	美術学科オープン演習B (素描) 美術学科オープン演習B (パネル制作) 美術学科オープン演習B (紙) 美術学科オープン演習B (日本画) 美術学科オープン演習B (編集・デザイン) 美術学科オープン演習B (メディア) 美術学科オープン演習B (CGb) 美術学科オープン演習B (製本) 美術学科オープン演習B (絵画材料) 美術学科オープン演習B (英語でつくる2)	2 1 1 2 2 2 2 2 2 2		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	
			絵画素材論A 絵画素材論B	1 1	講義 講義	(1～4年次)				
						芸術文化オープンゼミⅠ ミュージアムエデュケーション演習	2 2		演習 演習	
						美術教育オープンゼミA 教職絵画 教職彫刻	2 1 1		演習 実技 実技	
			専攻・領域 専門科目	必修	* 絵画ⅠA * 絵画ⅠB * デッサンⅠ 基礎構成演習	6 5 2 2	実技 実技 実技 演習	▼絵画コース * 絵画ⅡA * 絵画ⅡB * デッサンⅡ	4 8 2	実技 実技 実技
						14		▼版画コース * 版画Ⅰ * デッサンⅡ 版画表現演習Ⅰ	10 2 2	実技 実技 演習
						15			14	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 6単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、5単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 教免「教職絵画」「教職彫刻」「教職デザイン」「教職工芸」は指定専攻の教職課程履修者のみ履修できる。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						8	94
(2~4年次)						6 (注3)	
						32	62
						18 (注4)	
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
アート修復基礎論	2	講義					
美術教育オープンゼミB	2	演習	芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
教職デザイン	1	実技					
教職工芸	1	実技					
▼絵画コース			▼絵画コース				
* 絵画ⅢA	8	実技	* 絵画Ⅳ	8	実技		
* 絵画ⅢB	7	実技	* 卒業制作	10	実技		
	15			18			
▼版画コース			▼版画コース				
* 版画Ⅱ	11	実技	* 版画Ⅲ	7	実技		
* 素材実験Ⅰ	2	実技	* 素材実験Ⅱ	1	実技		
版画表現演習Ⅱ	2	演習	* 卒業制作	10	実技		
	15			18			
合 計						124	

芸術学部 美術学科 洋画専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次				2 年 次			
		科目名		単位	形態	科目名		単位	形態
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座	2	講義					
		必 女子美の教養	2	講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす								
	語学力								
学科 専門科目	必修	必 西洋美術史概説	2	講義					
		必 日本美術史概説	2	講義					
		必 東洋美術史概説	2	講義					
			6						
	選択必修					アート・プラクティスⅠ	2	演習	
						アート・プラクティスⅡ	2	演習	
						アート・アクティヴィティA	2	講義	
						アート・アクティヴィティB	2	講義	
						色彩文化概論	2	講義	
						配色調和論	2	講義	
						視覚心理学	2	講義	
						カラーキャリアⅠ	2	講義	
						カラーキャリアⅡ	2	講義	
						技法史	2	講義	
						文化資源学	2	講義	
						ヴィジュアルスタディーズA	2	(注3) 講義	
						ヴィジュアルスタディーズB	2	講義	
						デザイン批評A	2	講義	
						デザイン批評B	2	講義	
						芸術人類学	2	講義	
						芸術民俗学	2	講義	
						芸術政策と法	2	講義	
						創作活動と法	2	講義	
						8			
	学科 共通科目	*	* 美術選択実技A (油彩画)	2	実技	* 美術選択実技B (油彩画)	2	実技	
			* 美術選択実技A (リトグラフ)	2	実技	* 美術選択実技B (古典技法)	2	実技	
			* 美術選択実技A (日本画)	2	実技	* 美術選択実技B (銅版画)	2	実技	
* 美術選択実技A (彫塑)			2	実技	* 美術選択実技B (彫塑)	2	実技		
* 美術選択実技A (立体)			2	実技					
選 択			美術選択演習A (素描/描写)	2	演習	美術選択演習B (素描/描写)	2	演習	
			美術選択演習A (パネル作製)	1	演習	美術選択演習B (パネル作製)	1	演習	
			美術選択演習A (紙)	1	演習	美術選択演習B (紙)	1	演習	
			美術選択演習A (日本画)	2	演習	美術選択演習B (日本画)	2	演習	
			美術選択演習A (金工/ジュエリー)	2	演習	美術選択演習B (金工/ジュエリー)	2	演習	
			美術選択演習A (繊維/フェルト)	2	演習	美術選択演習B (繊維/フェルト)	2	演習	
			美術選択演習A (CG)	2	演習	美術選択演習B (写真)	2	演習	
			美術選択演習A (写真)	2	演習	美術選択演習B (製作)	2	演習	
			美術選択演習A (メディア)	2	演習	美術選択演習B (メディア)	2	演習	
						美術選択演習B (3D・CG初級)	1	演習	
						美術選択演習B (3D・CG中級)	1	演習	
						石彫	1	演習	
				絵画素材論A	1	講義			
				絵画素材論B	1	講義			
				(1~4年次)					
				芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習			
専攻・領域 専門科目	必修	* 絵画ⅠA	6	実技	▼絵画コース				
		* 絵画ⅠB	5	実技	* 絵画ⅡA	4	実技		
		* デッサンⅠ	2	実技	* 絵画ⅡB	8	実技		
		基礎構成演習	2	演習	* デッサンⅡ	2	実技		
						14			
				▼版画コース					
				* 版画Ⅰ	10	実技			
				* デッサンⅡ	2	実技			
				版画表現演習Ⅰ	2	演習			
				15		14			

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、5単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						6	32
(2~4年次)						8 (注3)	
						18 (注4)	94
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				62
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
▼絵画コース * 絵画ⅢA * 絵画ⅢB	8 7	実技 実技	▼絵画コース * 絵画Ⅳ * 卒業制作	8 10	実技 実技	18	
▼版画コース * 版画Ⅱ * 素材実験Ⅰ 版画表現演習Ⅱ	11 2 2 15	実技 実技 演習	▼版画コース * 版画Ⅲ * 素材実験Ⅱ * 卒業制作	7 1 10 18	実技 実技 実技	35	
合 計						124	

美術学科 日本画専攻

1. 教育内容

教育目標達成への具体的取り組みとして、様々なサイズの絵画を制作できる能力獲得を実技目標にしています。特に大作を描くには、相応の技術と豊富な経験が要求されます。そこで、4年間の実技を通じて段階的に画面サイズを拡大させながら、全身で描く能力を身につけていきます。卒業制作で130～150号程度の日本画の大作を自身の力で完成させることが学位取得の必要条件となります。4年間の実技課程を通じて日本絵画の伝統に裏付けされた安定感ある技法を軸として、日々更新される研究成果と社会情勢を踏まえた古典研究、日本画素材研究、特別授業などを柔軟に展開し、広い見識を持った日本画の専門家の輩出を目指します。

インターネットが普及し仮想現実空間に絵画世界が広がり、止まることを知りません。絵画制作で各自が抱える技術的限界は、AI技術の進化により拡張し補われることで、利便性と可能性を享受できる反面、生身の自分と向き合う機会は失われ続けています。そのような状況を踏まえ、女子美術大学日本画専攻は、絵具を溶き、筆を執り、和紙の画面に向き合う原初的身體性を重視し、物質を扱う絵画表現こそが、美術大学における絵画教育の核心であると位置づけ、創造の実感がえられるカリキュラムの構築に努めています。

2. カリキュラム編成の特徴

デッサン及び写生・小下図と大下図による構成力の向上を重視した日本画制作研究を軸に、古典研究・日本画素材研究・特別授業 および他分野の実技制作などが連動し、時代に即した授業を構成しています。

(1) 日本画制作研究

伝統的日本画材料による課題制作で、学部4年間のカリキュラムの柱となる研究です。

小下図作成、大下図作成、中間講評、最終講評とチェックポイントを設定し、学生と教師間の討論を重ね、造形力・構成力の獲得を確実なものとしします。

基礎から個性ある表現まで、段階を踏んで絵画制作能力向上を目指します。

[1年次]

伝統的画材や基礎技法の習得と、植物、風景、動物などのデッサンや写生を通じた基礎造形力の向上を目的とし、各自の制作能力に合わせた授業を行います。

〔日本画基礎 IA〕〔日本画基礎 IB〕

[2年次]

作品サイズを更に拡大させた日本画制作を軸としながら、古今東西の絵画技法研究に多角的に取り組むことで、現代の日本画を生み出すための柔軟な思考を培います。

〔日本画基礎 IIA〕〔日本画基礎 IIB〕

[3年次]

100号程度の大制作を軸に主体性を重視した制作を展開し、表現者としての自覚を促します。作品発表や「プレゼンテーション演習」を通じて、発信力を高めることで、社会性と思考力を身に付けます。

〔日本画研究 IA〕〔日本画研究 IB〕

[4年次]

各自のテーマを探求し、習得した技術・技法を基に大作に挑みます。F150号程度の卒業制作がカリキュラムの集大成です。

〔日本画研究 II〕〔卒業制作〕

(2) 古典研究

1年次から3年次の古典模写授業で、日本絵画の歴史と技法に触れる機会を設けています。

また、歴史ある本校の日本画教育資料を編纂し、その実績を反映させながら独自性ある古典教育を目指しています。

(3) 日本画素材研究

天然顔料研究を原初とし、30年以上の歴史を持つ本校の素材研究成果を基盤とする研究授業を2年次中心に設定、それぞれの分野の専門家を講師に、日本画の用具、用材を研究し、材料の特性をしっかりと把握するとともにその可能性を研究します。

(4) 特別授業及び他専攻実技・演習

日本画教育において欠くことのできない材料・技法の授業と、時代の変化により必要と判断される授業を柔軟に取り入れ、特別授業として開設しています。また他専攻実技の体験、他分野との共同講義・演習により視野を広げ、創造の多様性を理解します。

[美術学科オープン実技 A] [美術学科オープン実技 B] [美術学科オープン演習 A] [美術学科オープン演習 B]

美術学科 日本画専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	日本画専攻では、作品制作を主としながら、材料・素材研究や古典研究など幅広い視点から総合的に日本画を学ぶことで、自然と人間への理解を深め、個々の豊かな資質と若い感性を活かした次代の日本画の創造に主体的に取り組み、生涯美術に関わることでできる人材の育成を教育目標とする。
-----------------------------------	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
美術学科 日本画専攻 専門科目	美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・専門性)	美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。	日本の歴史や伝統、文化に関する理解や、日本画制作の工程、日本画絵具の特徴を学び身につけるとともに、作品発表を通してプレゼンテーション力を高め、社会に発信していく力を養うための科目を配置する。	1年次 【実】日本画基礎ⅠA、日本画基礎ⅠB 2年次 【実】日本画基礎ⅡA 3年次 【実】日本画研究ⅠB 【演】プレゼンテーション演習 4年次 【実】日本画研究Ⅱ
	【関心・意欲・態度】(主体性・積極性)	作品や論文制作における課題やテーマを探求し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していける能力と態度を身に付けている。	対象から学ぶ写生の重要性を基にした日本画制作を通して、日本画表現技法の習得、専門性を深め、自己の作品制作のテーマを追求しながら、生涯にわたり制作を継続する力と態度を身に付ける科目を配置する。	1年次 【実】日本画基礎ⅠA 2年次 【実】日本画基礎ⅡB 3年次 【実】日本画研究ⅠA 4年次 【実】日本画研究Ⅱ、卒業制作
	【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力)	理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。	取材方法、構成方法、表現技術という作品制作プロセスの研究を通して構想段階の重要性について理解を深め、各自の発想をより堅固な形にしていけるための科目を配置する。	1年次 【実】日本画基礎ⅠA、日本画基礎ⅠB 2年次 【実】日本画基礎ⅡA 3年次 【実】日本画研究ⅠA、日本画研究ⅠB 4年次 【実】日本画研究Ⅱ、卒業制作
	【技能・表現】 (創造力・独創性・対話力)	自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。	日本画制作、素材研究や古典研究を通して、日本絵画材料と表現技法に向き合い、自由で独創性豊かな作品制作、研究を行うことができる力を身に付ける科目を配置する。	1年次 【実】日本画基礎ⅠB 2年次 【実】日本画基礎ⅡB 3年次 【実】日本画研究ⅠB 4年次 【実】日本画研究Ⅱ、卒業制作
		自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。	創作表現について論理的に考察、文章化するとともに、学内外での作品発表やギャラリートークの実施を通して、自身の表現について言語化して他者に伝える力や他者の作品についても客観的に鑑賞、考察する力を身に付けるための科目を配置する。	

美術学科 日本画専攻

1. 教育内容

教育目標達成への具体的取り組みとして、様々なサイズの絵画を制作できる能力獲得を実技目標にしています。特に大作を描くには、相応の技術と豊富な経験が要求されます。そこで、4年間の実技を通じて段階的に画面サイズを拡大させながら、全身で描く能力を身につけていきます。卒業制作で130～150号程度の日本画の大作を自身の力で完成させることが学位取得の必要条件となります。4年間の実技課程を通じて日本絵画の伝統に裏付けされた安定感ある技法を軸として、日々更新される研究成果と社会情勢を踏まえた古典研究、日本画素材研究、特別授業などを柔軟に展開し、広い見識を持った日本画の専門家の輩出を目指します。

インターネットが普及し仮想現実空間に絵画世界が広がり、その勢いは止まることを知りません。絵画制作における技術的限界は先端技術により拡張し補われることで、利便性を享受できる反面、生身の自分と向き合う機会は失われ続けています。そのような状況を踏まえ、女子美術大学の日本画専攻は、絵具を溶き、筆を執り、和紙の画面に向き合う原初的身體性を重視し、物質を扱う絵画表現こそが、美術大学における絵画教育の核心であると位置づけ、存在の実感がえられるカリキュラムの構築に努めています。

2. カリキュラム編成の特徴

- (1) 日本画の制作研究を軸に、デッサン・写生・構成研究・古典研究・素材研究・学外研究、および他分野の実技制作が連動し、時代に即した授業の構成を計ります。
- (2) 1・2年次でしっかりとした基礎意識、造形力を養い、個々の感性に沿った表現までスムーズに移行できるようカリキュラムを編成しています。
- (3) 小下図作成、大下図作成、中間講評、最終講評とチェックポイントを設定し、その都度、学生と教師間の討論を重ね、基本的な造形力・構成力を確かなものとしていきます。
- (4) 古典研究を深めその技法を習得する一方、現在の日本画材料・技法を研究し、その発展の可能性を追求する為、模本や素材研究設備を充実させています。
- (5) 他専攻実技の体験、他分野との共同講義・演習により視野を広げ、より柔軟な思考と創造の基本を把握します。

・日本画制作

〔日本画基礎ⅠA〕〔日本画基礎ⅠB〕〔日本画基礎ⅡA〕〔日本画基礎ⅡB〕〔日本画研究ⅠA〕〔日本画研究ⅠB〕〔日本画研究Ⅱ〕〔卒業制作〕。

日本画の基礎から始まり、個性ある表現まで日本画材料による課題制作で、カリキュラムの軸となります。

〔1〕描写研究

動物や風景のスケッチや人体デッサン等により、対象を的確に観察把握し表現できる力を養います。

〔2〕構成研究

写生からのエスキース、下絵の研究により、基礎となる画面構成力、造形力を高めます。

〔3〕討論研究制作

講評会、ゲスト講師を交えての講評会により、学生と教師間または学生間で、新たな問題提起、討論研究、制作を行い、創造の原点を探ります。

〔4〕古典研究

模本を用いて模写を行い古典への考察を深め、現代日本画との関連性、およびその発展性を追求します。

〔5〕 日本画素材研究

それぞれの分野の専門家を講師に、日本画の用具、用材を研究し、材料の特性をしっかりと把握するとともにその可能性を研究します。

〔6〕 他分野実技、素材研究

〔美術選択実技A〕〔美術選択実技B〕で他専攻の実技を体験し、〔美術選択演習A〕〔美術選択演習B〕により、他分野の素材の知識と扱い方を習得し視野を広げ、新たな試みに挑戦します。

〔7〕 学外研究

美術館・ギャラリーで多様な表現に触れ、鑑賞眼を養うことで、自身の作品を客観的に捉える力を身につけます。

教育目標

日本画専攻では、日本画制作を軸に、日本画の材料・素材研究や古典絵画の研究を連動させ、幅広い視点から日本画を総合的に学び、日本画の伝統をふまえて、個々の豊かな資質・若い感性を活かした次代の新しい日本画の創造に主体的に取り組める人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1・2年次では、日本画制作を通して、伝統的画材や技法の知識などの基礎力を充実させ、作品サイズを次第に大きくしながら、柔軟な思考と創造力を培う。
- ・ 3年次では自己の表現の追求、より自由で個性的な創造的表現へ発展させ、古典研究では、精神・古典技法についてより深く学び、日本画制作の幅を広げる。
- ・ 4年次では、各自のテーマを探求し、習得した技術・技法をもとに、集大成として卒業作品を制作する。作品発表を通してプレゼンテーション力を高め、社会に発信していく力を養う。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						8	94
(2～4年次)						6 (注3)	
						30	64
						16 (注4)	
(2～4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)				
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
アート修復基礎論	2	講義					
美術教育オープンゼミB	2	演習	芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
教職デザイン	1	実技					
教職工芸	1	実技					
* 日本画研究ⅠA	8	実技	* 日本画研究Ⅱ	8	実技	64	
* 日本画研究ⅠB	8	実技	* 卒業制作	10	実技		
プレゼンテーション演習	2	演習					
	18			18			
合計						124	

芸術学部 美術学科 日本画専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次					
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部 共通 科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす									
	語学力									
学科 専門 科目	学科 共通 科目	必修	必 西洋美術史概説 必 日本美術史概説 必 東洋美術史概説	2 2 2	講義 講義 講義					
		選択必修				アート・プラクティス I アート・プラクティス II アート・アクティビティ A アート・アクティビティ B 色彩文化概論 配色調和論 視覚心理学 カラーキャリア I カラーキャリア II 技法史 文化資源学 ヴィジュアルスタディーズ A ヴィジュアルスタディーズ B デザイン批評 A デザイン批評 B 芸術人類学 芸術民俗学 芸術政策と法 創作活動と法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	8	
		選択	* 美術選択実技 A (油彩画) * 美術選択実技 A (リトグラフ) * 美術選択実技 A (日本画) * 美術選択実技 A (彫塑) * 美術選択実技 A (立体) 美術選択演習 A (素描/描写) 美術選択演習 A (パネル作製) 美術選択演習 A (紙) 美術選択演習 A (日本画) 美術選択演習 A (金工/ジュエリー) 美術選択演習 A (繊維/フェルト) 美術選択演習 A (CG) 美術選択演習 A (写真) 美術選択演習 A (メディア)	2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	* 美術選択実技 B (古典技法) * 美術選択実技 B (銅版画) * 美術選択実技 B (彫塑) * 美術選択実技 B (日本画) 美術選択演習 B (素描/描写) 美術選択演習 B (パネル作製) 美術選択演習 B (紙) 美術選択演習 B (日本画) 美術選択演習 B (金工/ジュエリー) 美術選択演習 B (繊維/フェルト) 美術選択演習 B (写真) 美術選択演習 B (メディア) 美術選択演習 B (製本) 美術選択演習 B (3D・CG初級) 美術選択演習 B (3D・CG中級) 石彫	2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 1 1 1	実技 実技 実技 実技 実技 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	8	
			絵画素材論 A 絵画素材論 B	1 1	講義 講義	(1~4年次)				
						芸術文化オープンゼミ I	2	演習		
		専攻・領域 専門科目	必修	* 日本画基礎 I A * 日本画基礎 I B	7 5	実技 実技	* 日本画基礎 II A * 日本画基礎 II B	7 7	実技 実技	
					12					14

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、6単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						6	34
(2~4年次)						8 (注3)	
						20 (注4)	
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		60
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
* 日本画研究ⅠA	8	実技	* 日本画研究Ⅱ	8	実技	10	
* 日本画研究ⅠB	8	実技	* 卒業制作		実技		
	16			18		合計	124

美術学科 立体アート専攻

1. 教育内容

立体アート専攻では彫刻という枠を超え、従来の素材・様式などに捉われない造形表現を模索し、多様な素材による立体造形の可能性を追求します。

それに伴い、立体造形に関する専門的な知識や、素材に適した幅広い造形技術を身につけます。また、それらを組み合わせる等、柔軟に展開していく中で、独創性にあふれる表現を目指します。

芸術の本質と普遍性を探り、個々の感性を磨き、深い洞察力を有する自由で豊かな感性と発想による表現活動ができる人材を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次 「彫塑基礎」では、デッサンを通して表現の基礎となる「ものの見方」や「物を立体的に捉える力」を養うとともに、粘土による彫塑の課題を通して、彫刻を制作する上での基礎となる造形力を身に付けます。

「立体基礎Ⅰ」や「工芸」では、粘土以外の素材にも触れながら、立体造形の基礎的な技術や技法を習得し、素材の持つ特性を学びながら立体作品を制作するための思考方法の習得を目指します。

「美術学科オープン実技A」では、自専攻又は他専攻の実技に取り組み、他分野の素材の知識と扱い方や技法を習得し視野を広げ、新たな試みに挑戦します。

2年次 「素材実習」では各素材の扱い方や、作品制作に必要な技術を習得します。

「立体基礎Ⅱ」では自ら選択した素材を使っての作品制作や、「立体基礎Ⅰ」を基により発展した課題に取り組みます。

「美術学科オープン実技B」では、自専攻又は他専攻の実技に取り組み、他分野の素材の知識と扱い方や技法を習得し視野を広げ、新たな試みに挑戦します。

3年次 「塑造」「繊維」「木」「石」「金属」の中から自分の制作に合った素材を選択します。高度な技術を身につけ、表現の幅を広げ、独自の表現法を模索していく中で、自分の研究テーマを見つけ出す事を目指します。

4年次 それまでに習得した専門知識と技術をもって独自の造形性を探求し、各自の研究テーマを深掘り、展開し、4年間の集大成となる卒業制作を行います。

美術学科 立体アート専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	立体アート専攻では、芸術の本質を見据え、彫刻という枠と従来の素材・様式などに捉われない独自の造形表現を追求し、立体造形に関する専門的な知識や高度な技術の上に、豊かな感性と深い洞察力を有する人材の育成を教育目標とする。
-------------------------------------	--

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
美術学科 立体アート専攻 専門科目	美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・専門性)	美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。	彫刻を制作する上での基礎となる造形力と知識、様々な素材を扱うための専門的な技能と表現力を習得するための科目を配置する。また、作品と社会との関わりについても考察し、修得した芸術的創造力を社会に還元する力を身に付けるための科目を配置する。	1年次 【講】彫塑概論 【実】彫塑基礎、立体基礎Ⅰ、工芸 2年次 【実】立体基礎Ⅱ、素材実習
	【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性)	作品や論文制作における課題やテーマを探究し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していける能力と態度を身に付けている。	自身の選択した素材での制作を通して専門性を深め、自身の制作の方向性を定めて行くなかで、生涯にわたって自分らしい表現を模索しながら成長していける力を身に付けるための科目を配置する。	1年次 【実】彫塑基礎、立体基礎Ⅰ 3年次 【実】立体研究ⅠA、立体研究ⅠB 【演】造形表現演習
		美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。	立体造形による表現を深く学ぶために、デッサンや彫塑などの制作を通して表現の基礎となる「ものの見方」や「物を立体的に捉える力」を養うための科目を配置する。	
	【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力)	理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。	今日も広がり続ける「彫刻」の概念を西洋美術および日本美術の視点から学び、形や構造、技法、素材等について、多角的に考察することで立体造形に関する知識、理解を深めるための科目を配置する。	3年次 【演】造形表現演習 4年次 【実】立体研究Ⅱ、卒業制作
		国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。	演劇、美術館、ギャラリー見学等により様々な分野の芸術の力の原点を確認するとともに、ワークショップの企画と実践を通して、その芸術の力を地域社会が抱える問題点とその解決にむけて発信する力を身に付けるための科目を配置する。	
	【技能・表現】 (創造力・獨創性・対話力)	自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。	自らの選択した素材での制作を繰り返す中で得た専門的な技術を基に、独自性のある表現手法やテーマを確立するための科目を配置する。	2年次 【実】立体基礎Ⅱ 3年次 【実】立体研究ⅠA、立体研究ⅠB 【演】造形表現演習 4年次 【実】立体研究Ⅱ、卒業制作
		自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。	制作を継続する中で得た専門的な知識や技術、先行研究から得た幅広い教養と知識を基に、自身や他者の作品について客観的な視点から分析・理解し言語化する力を身に付け、他者との対話力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身に付けるための科目を配置する。	

美術学科 立体アート専攻

1. 教育内容

立体アート専攻では彫刻という枠を超え、多様な素材による立体造形の可能性を追求します。それに伴い、素材に適した幅広い造形技術を身につけます。また、複数の素材を組み合わせる等、独創性にあふれる表現を目指します。芸術の本質と普遍性を探り、個々の感性を磨き、自由で豊かな発想による表現活動をする人を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

- 1年次 「素材演習」では粘土・紙・木・石・金属の素材に触れ、基礎となる技法を学びます。「彫塑基礎Ⅰ」及び「絵画」ではデッサンやトルソ・頭像制作を行い、立体造形の基礎を学びます。
- 2年次 「素材実習」では各素材の技術を習得し、小作品を制作します。「立体基礎」では自ら選択した素材を使って作品を完成させます。「美術選択実技」では、自専攻又は他専攻の実技に取り組みます。「彫塑基礎Ⅱ」では塑造による全身像等を制作します。
- 3年次 「塑造」「紙」「木」「石」「金属」の中から自分の制作に合った素材を選択します。高度な技術を身につけ、表現の幅を広げ、独自の表現法を模索していく中で、自分の研究テーマを見つけ出す事を目指します。
- 4年次 それまでに習得した専門知識と技術をもって独自の造形性を探求し、各自の研究テーマを深掘り、展開し、4年間の集大成となる卒業制作を行います。

教育目標

立体アート専攻では、芸術の本質を見据え、彫刻という枠と従来の素材・様式などに捉われない独創的な造形表現を追求し、立体造形に関する専門的な知識や高度な技術の上に、豊かな感性と深い洞察力を有する人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・1・2年次は立体造形で必要となる専門的な知識・技術における基礎的な理解を深める。
- ・3年次からは粘土・紙・木・石・金属等の中から各自が志望する素材を基に、専門性を高め、自己の表現を模索する。
- ・4年次はそれまでに習得した専門知識と技術をもって独自の造形性を探求し、集大成としての卒業作品を制作する。

芸術学部 美術学科 立体アート専攻 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次					
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	演習						
	語学力									
学科 専門科目	必修	必 西洋美術史概説 必 日本美術史概説 必 東洋美術史概説	2 2 2	講義 講義 講義	必 美術で生きる	2	講義			
			6			2				
	選択必修				アート・プラクティスⅠ アート・プラクティスⅡ アート・アクティビティ 色彩文化概論 配色調和論 視覚心理学 カラーキャリアⅠ カラーキャリアⅡ 文化資源学 ヴィジュアルスタディーズA ヴィジュアルスタディーズB デザイン批評A デザイン批評B 芸術人類学 芸術民俗学 芸術政策と法 創作活動と法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義			
					6					
		選択	* 美術学科オープン実技A (油彩画) * 美術学科オープン実技A (グループワーク) * 美術学科オープン実技A (リクテラ) * 美術学科オープン実技A (日本画) * 美術学科オープン実技A (彫塑) * 美術学科オープン実技A (立体)	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 実技	* 美術学科オープン実技B (油彩画) * 美術学科オープン実技B (古典技法) * 美術学科オープン実技B (インスタレーション) * 美術学科オープン実技B (銅版画) * 美術学科オープン実技B (日本画) * 美術学科オープン実技B (彫塑)	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 実技		
			美術学科オープン演習A (素描(基礎)1) 美術学科オープン演習A (素描(基礎)2) 美術学科オープン演習A (プリント) 美術学科オープン演習A (日本画) 美術学科オープン演習A (繊維) 美術学科オープン演習A (CGa) 美術学科オープン演習A (編集・デザイン) 美術学科オープン演習A (メディア) 美術学科オープン演習A (英語でつくる1)	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	美術学科オープン演習B (素描) 美術学科オープン演習B (パネル制作) 美術学科オープン演習B (紙) 美術学科オープン演習B (日本画) 美術学科オープン演習B (編集・デザイン) 美術学科オープン演習B (メディア) 美術学科オープン演習B (CGb) 美術学科オープン演習B (製本) 美術学科オープン演習B (絵画材料) 美術学科オープン演習B (英語でつくる2)	2 1 1 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		
			絵画素材論A 絵画素材論B	1 1	講義 講義	(1～4年次)				
						芸術文化オープンゼミⅠ ミュージアムエデュケーション演習	2 2	演習 演習		
						美術教育オープンゼミA 教職絵画 教職彫刻	2 1 1	演習 実技 実技		
			専攻・領域 専門科目	必修	* 彫塑基礎 * 立体基礎Ⅰ * 工芸 彫塑概論	6 6 1 2	実技 実技 実技 講義	* 素材実習 * 立体基礎Ⅱ	6 6	実技 実技
						15			12	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 6単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、6単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						8	94
(2~4年次)						6 (注3)	
						33	61
						19 (注4)	
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
アート修復基礎論	2	講義					
美術教育オープンゼミB	2	演習	芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
教職デザイン	1	実技					
教職工芸	1	実技					
造形表現演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	61	
* 立体研究ⅠA	7	実技	* 立体研究Ⅱ	8	実技		
* 立体研究ⅠB	7	実技					
	16			18			
合 計						124	

教免－「教職絵画」「教職彫刻」「教職デザイン」「教職工芸」は指定専攻の教職課程履修者のみ履修できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 美術学科 立体アート専攻 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科 専門科目	必修	必 西洋美術史概説	2	講義				
		必 日本美術史概説	2	講義				
	必 東洋美術史概説	2	講義					
	選択必修			6				
						アート・プラクティスⅠ	2	}8 (注3)
						アート・プラクティスⅡ	2	
						アート・アクティビティA	2	
						アート・アクティビティB	2	
						色彩文化概論	2	
						配色調和論	2	
						視覚心理学	2	
						カラーキャリアⅠ	2	
						カラーキャリアⅡ	2	
						技法史	2	
						文化資源学	2	
					ヴィジュアルスタディーズA	2		
				ヴィジュアルスタディーズB	2			
				デザイン批評A	2			
				デザイン批評B	2			
				芸術人類学	2			
				芸術民俗学	2			
				芸術政策と法	2			
				創作活動と法	2			
学科 共通科目	*	美術選択実技A (油彩画)	2	実技	* 美術選択実技B (古典技法)	2	実技	
		美術選択実技A (リトグラフ)	2	実技	* 美術選択実技B (銅版画)	2	実技	
		美術選択実技A (日本画)	2	実技	* 美術選択実技B (立体)	2	実技	
		美術選択実技A (彫塑)	2	実技	美術選択演習B (素描/描写)	2	演習	
		美術選択実技A (立体)	2	実技	美術選択演習B (パネル作製)	1	演習	
	*	美術選択演習A (素描/描写)	2	演習	美術選択演習B (紙)	1	演習	
		美術選択演習A (パネル作製)	1	演習	美術選択演習B (日本画)	2	演習	
		美術選択演習A (紙)	1	演習	美術選択演習B (金工/ジュエリー)	2	演習	
		美術選択演習A (日本画)	2	演習	美術選択演習B (繊維/フェルト)	2	演習	
		美術選択演習A (金工/ジュエリー)	2	演習	美術選択演習B (写真)	2	演習	
		美術選択演習A (繊維/フェルト)	2	演習	美術選択演習B (メディア)	2	演習	
		美術選択演習A (CG)	2	演習	美術選択演習B (製本)	2	演習	
		美術選択演習A (写真)	2	演習	美術選択演習B (3D・CG初級)	1	演習	
		美術選択演習A (メディア)	2	演習	美術選択演習B (3D・CG中級)	1	演習	
						美術選択演習B (石彫)	1	演習
				絵画素材論A	1	講義		
				絵画素材論B	1	講義		
				(1~4年次)				
				芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習		
専攻・領域 専門科目	必修	* 彫塑基礎Ⅰ	7	実技	* 彫塑基礎Ⅱ	2	実技	
		* 素材演習	3	演習	* 素材実習	5	実技	
		* 絵画	3	実技	* 立体基礎	3	実技	
		* 彫塑概論	2	講義	* 工芸	2	実技	
				14			12	
	選択必修							

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、6単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計						
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態							
						4	30					
						6 (注1)						
						10						
						2						
						4 (注2)						
						6	34					
(2~4年次)						8 (注3)						
						20 (注4)	94					
				芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習						
(2~4年次)						38						
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)									
美術教育論A	2	講義										
美術教育論B	2	講義										
造形表現演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技							
	2			10								
* 塑造ⅠA	7	14	実技	8	8	22	60					
* 塑造ⅠB	7											
* 紙ⅠA	7											
* 紙ⅠB	7											
* 木ⅠA	7											
* 木ⅠB	7											
* 石ⅠA	7											
* 石ⅠB	7											
* 金属ⅠA	7											
* 金属ⅠB	7											
	14									8		
合計								124				

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

美術学科 美術教育専攻

1. 教育内容

美術科の教員あるいは美術に関する社会教育の専門家として社会に広く貢献できる人材を育成するために、絵画、彫刻、デザイン、工芸に関する幅広い知識と表現の方法、美術史・美術理論に関する全般的な知識、および美術教育に関する基礎的・実践的な知識と技能を学びます。

実技は主に、「造形表現A」「造形表現B」「デッサン」の3つから構成されます。

「造形表現A」は、自専攻で学ぶ実技で、絵画、彫刻、デザイン、工芸の各領域における技術・手法を幅広く習得するとともに、自己評価・相互講評などを通して鑑賞・批評能力を養います。（1年次「造形表現基礎ⅠA」、2年次「造形表現基礎ⅡA」、3年次「造形表現研究ⅠA」）。「造形表現B」は、学科内他専攻の各領域における表現方法や知識を学ぶことで、美術全体の技術・手法に対する理解を深め、造形表現に対する幅広い視野を形成します（1年次「造形表現基礎ⅠB」、2年次「造形表現基礎ⅡB」、3年次「造形表現研究ⅠB」）。「デッサン」は、基礎から応用まで段階的に学び、自身が追究するテーマの表現領域において、独自性、創造性を実現する表現力の基盤となる技術を養います。

さらに、演習やゼミ形式の授業を通して、美術教育・教育心理学の理論を応用した美術科教育の方法や教育活動の在り方を構想・実践し、美術教育の指導者に求められる実践的指導力やコミュニケーション力を培います。

2. カリキュラム編成の特徴

〔1～2年次〕

美術教育専攻実技科目の基幹となる「造形表現基礎A」では、絵画、立体表現、コンピュータ実習を3つの柱として、透明水彩画や油彩画、木版画、シルクスクリーン、絵本、彫刻・木工、デザイン、バスケットリーなど多様な表現の技術・手法について学び、基礎の習得から作品制作までを目指します。さらに、「造形表現基礎B」「デッサン」などの実技に加えて、美術学科の共通科目である西洋美術史、日本美術史、東洋美術史や絵画・立体表現の基礎実技、技法・素材に関わるオープン実技・演習などを学びます。

〔2～3年次〕

美術教育に関する専門科目として、2年次から「美術教育ゼミ」、3年次から「美術教育演習」が始まります。演習やゼミ形式の授業では、美術教育や教育心理学の理論に基づく指導法を学び、教育活動やワークショップ等の実践を通して、美術教育による社会への貢献について理解を深めるとともに、指導者に必要な資質・能力を養います。この他に、学校教育における美術科の内容や指導法を探究する「美術科内容指導論」などの授業があり、教員としての実践的指導力を高めます。

〔3～4年次〕

教育実践活動と関連付けた「造形表現研究A」の実技や絵画、立体表現などの中から、より専門性の高い領域に分かれて制作する「造形表現研究B」での実技経験を生かして、4年次では自己が独自に追究するテーマの表現領域における自由制作に取り組みます。これまでに習得した幅広い教養と知識、技術の総まとめとして、卒業制作または、美術教育の理論や指導法に関する実践的研究を卒業論文の形にし、4年間の集大成として発表します。

美術学科 美術教育専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	美術教育専攻では、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論に関する幅広い知識・技術と実践力を兼ね備え、美術教育で社会に広く貢献できる人材の育成を教育目標とする。
------------------------------------	--

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
美術学科 美術教育専攻 専門科目	美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・専門性)	美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。	学校教育における美術（芸術）科の目標と内容を理解し、美術科教育の理論に基づく指導法に関する知識と実践的指導力を養う科目を配置する。	2年次 【講】美術科教育内容指導論 A 3年次 【講】美術科教育内容指導論 B
	【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性)	作品や論文制作における課題やテーマを探求し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していける能力と態度を身に付けている。	学科内他専攻及び他学科の各領域で習得した技術・手法を自身が追究するテーマの実現に積極的に活用する態度を養う科目を配置する。	1年次 【実】造形表現基礎 I B 2年次 【実】造形表現基礎 II B 【講】デザイン・工芸論 A、デザイン・工芸論 B 3年次 【実】造形表現研究 I B デザイン・工芸選択実技 A
	【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力)	美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。	学科内他専攻及び他学科の各領域における表現方法や知識を学ぶことで、美術全体の技術・手法に対する理解を深め、造形表現に対する幅広い視野を形成する科目を配置する。	2年次 【演】美術教育ゼミ A 3年次 【演】美術教育演習 【演】美術教育ゼミ B
		国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。	美術教育による社会への貢献について理解を深め、学校教育の現状を踏まえた実践的な活動の経験を通して、指導者に必要な資質・能力を養う科目を配置する。	
	【技能・表現】 (創造力・独創性・対話力)	自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。	絵画、彫刻、デザイン、工芸の各領域における技術・手法を幅広く習得するとともに、自身が追究するテーマの表現領域において、独自性、創造性を実現する技術、表現力を養う科目を配置する。	1年次 【実】造形表現基礎 I Aa 【実】造形表現基礎 I Ab 【実】造形表現基礎 I Ac 【実】デッサン I 2年次 【実】造形表現基礎 II Aa 【実】造形表現基礎 II Ab 【実】造形表現基礎 II Ac 【実】デッサン II 3年次 【実】造形表現研究 I Aa 【実】造形表現研究 I Ab 【実】造形表現研究 I Ac デッサン III 4年次 【演】造形表現研究 II 【演】卒業研究
	自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。	絵画、彫刻、デザイン、工芸の各領域における発想・構想能力と論理的思考に基づく鑑賞・批評能力を養う科目を配置する。		

美術学科 美術教育専攻

1. 教育内容

美術科の教員あるいは美術に関する社会教育の専門家として社会に広く貢献できる人材を育成するために、絵画、彫刻、デザイン、工芸に関する幅広い知識と表現の方法、美術史・美術理論に関する全般的な知識、および美術教育に関する基礎的・実践的な知識と技能を学びます。

1年次から3年次の前半にかけて、絵画、彫刻、デザイン、工芸のそれぞれの領域における作品制作に取り組み、基礎的な知識と技術・手法を幅広く学びます。

1年次、2年次の主な実技の授業は「デッサン」「造形表現基礎A」「造形表現基礎B」の3つから構成されます。「デッサン」はデッサンの基礎から難しいものまで段階的に学びます。「造形表現基礎A」は美術教育専攻の基幹となる科目で、絵画、立体表現の基本を学びます。「造形表現基礎B」は美術学科内の他の専攻およびデザイン・工芸学科において、絵画、彫刻、デザイン、工芸に関する幅広い表現の方法を体験します。

また、美術学科の共通科目として、西洋美術史、日本美術史、絵画・立体表現の基礎実技、技法・素材に関わる演習などを学びます。

2年次、3年次からは実技の授業に加えて、「美術教育演習」というゼミ形式の授業において美術教育・美術理論について理解を深め、美術教育に関する専門性を高めていきます。美術教育に関する専門科目としては、「美術教育演習」のほかにも「美術教育論」「美術科内容指導論」などの授業が必修となっています。

また、3年次から4年次にかけての実技の授業は、絵画、立体表現などの中からより専門性の高い領域に分かれて制作を行い、4年次に自己の表現活動を卒業制作または卒業論文の形にして発表します。

2. カリキュラム編成の特徴

- (1) 実技を学ぶ造形表現A（1年次 造形表現基礎ⅠA、2年次 造形表現基礎ⅡA、3年次 造形表現研究ⅠA）は、絵画、立体表現、コンピュータ実習の3つの柱で構成されています。美術の多様な表現について、基礎から独自の表現による作品制作までをめざします。
- (2) 造形表現B（1年次 造形表現基礎ⅠB、2年次 造形表現基礎ⅡB、3年次 造形表現研究ⅠB）では、他専攻の実技体験を通して幅広い表現方法を学ぶだけでなく、独自の表現を追究する専門性を高めます。
- (3) 2・3年次の美術教育に関する専門科目には、美術教育の理論を学ぶ講義と教育現場で必要な実践的指導力を身に付ける演習があり、教師に求められる豊かな人間性、コミュニケーション能力など総合的な人間力を高めることをめざします。

教育目標

美術教育専攻では、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論に関する幅広い知識と技術を兼ね備え、美術教育で社会に広く貢献できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次から3年次の前半にかけて、絵画、彫刻、デザイン、工芸のそれぞれの領域における作品制作に取り組み、基礎的な知識と技術・手法を幅広く学ぶ。その際、自専攻の課題のみならず、学科内他専攻および他学科の課題を体験することで、絵画、彫刻、デザイン、工芸のそれぞれの領域における表現方法や知識に触れ、技術・手法を深める。
- ・ 2年次からは、美術教育・美術理論のゼミに所属し、美術教育および美術による社会への貢献について理解を深め、美術教育に関する専門性を高めていく。
- ・ 3・4年次では、絵画、彫刻、デザイン、工芸の中から各自が志望する領域について、専門性を高め、自己の表現を模索する。
- ・ 4年次では、専門的知識と技術を習熟し、習得した幅広い教養と知識、技術の総まとめとして、自己の表現活動を卒業制作または卒業論文の形にまとめ上げる。

芸術学部 美術学科 美術教育専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座	2	講義				
		必 女子美の教養	2	講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	演習				
	語学力							
学科共通科目	必修	必 西洋美術史概説	2	講義	必 美術で生きる	2	講義	
		必 日本美術史概説	2	講義				
		必 東洋美術史概説	2	講義				
			6			2		
	選択必修				アート・プラクティスⅠ	2	6 (注3)	演習
					アート・プラクティスⅡ	2		講義
					アート・アクティビティ	2		講義
					色彩文化概論	2		講義
					配色調和論	2		講義
					視覚心理学	2		講義
					カラーキャリアⅠ	2		講義
					カラーキャリアⅡ	2		講義
					文化資源学	2		講義
					ヴィジュアルスタディーズA	2		講義
					ヴィジュアルスタディーズB	2		講義
				デザイン批評A	2	講義		
			デザイン批評B	2	講義			
			芸術人類学	2	講義			
			芸術民俗学	2	講義			
			芸術政策と法	2	講義			
			創作活動と法	2	講義			
				6				
選択		* 美術学科オープン実技A (油彩画)	2	実技	* 美術学科オープン実技B (油彩画)	2	実技	
		* 美術学科オープン実技A (グループワーク)	2	実技	* 美術学科オープン実技B (古典技法)	2	実技	
		* 美術学科オープン実技A (リトグラフ)	2	実技	* 美術学科オープン実技B (インクレスション)	2	実技	
		* 美術学科オープン実技A (日本画)	2	実技	* 美術学科オープン実技B (銅版画)	2	実技	
		* 美術学科オープン実技A (彫塑)	2	実技	* 美術学科オープン実技B (日本画)	2	実技	
		* 美術学科オープン実技A (立体)	2	実技	* 美術学科オープン実技B (彫塑)	2	実技	
		美術学科オープン演習A (素描(基礎)1)	2	演習	美術学科オープン演習B (素描)	2	演習	
		美術学科オープン演習A (素描(基礎)2)	2	演習	美術学科オープン演習B (パネル制作)	1	演習	
		美術学科オープン演習A (プリント)	2	演習	美術学科オープン演習B (紙)	1	演習	
		美術学科オープン演習A (日本画)	2	演習	美術学科オープン演習B (日本画)	2	演習	
		美術学科オープン演習A (繊維)	2	演習	美術学科オープン演習B (編集・デザイン)	2	演習	
		美術学科オープン演習A (CGa)	2	演習	美術学科オープン演習B (メディア)	2	演習	
		美術学科オープン演習A (編集・デザイン)	2	演習	美術学科オープン演習B (CGb)	2	演習	
		美術学科オープン演習A (メディア)	2	演習	美術学科オープン演習B (製本)	2	演習	
		美術学科オープン演習A (英語でつくる1)	2	演習	美術学科オープン演習B (絵画材料)	2	演習	
				美術学科オープン演習B (英語でつくる2)	2	演習		
	絵画素材論A	1	講義	(1~4年次)				
	絵画素材論B	1	講義					
				芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習		
				ミュージアムエデュケーション演習	2	演習		
				教職絵画	1	実技		
				教職彫刻	1			
専攻・領域 専門科目	必修	* 造形表現基礎ⅠAa	3	実技	* 造形表現基礎ⅡAa	4	実技	
		* 造形表現基礎ⅠAb	3	実技	* 造形表現基礎ⅡAb	1	実技	
		* 造形表現基礎ⅠAc	1	実技	* 造形表現基礎ⅡAc	1	実技	
		* 造形表現基礎ⅠB	2	実技	* 造形表現基礎ⅡB	2	実技	
		* デッサンⅠ	2	実技	* デッサンⅡ	2	実技	
					美術科教育内容指導論A	2	講義	
					美術教育ゼミA	2	演習	
			11		14			
選択必修				デザイン・工芸論A	2	2	講義	
				デザイン・工芸論B	2			
						2		

- 注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 6単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、5単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*…専門科目時間帯(実技時間帯) 必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
美術教育論A	2	講義				10	94
	2						
(2~4年次)						6 (注3)	
						31	63
						15 (注4)	
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
美術教育論B	2	講義					
アート修復基礎論	2	講義					
教職デザイン	1	実技					
教職工芸	1	実技					
* 造形表現研究ⅠAa	4	実技	* 造形表現研究Ⅱ	8	演習	61	63
* 造形表現研究ⅠAb	1	実技	* 卒業研究	10	演習		
* 造形表現研究ⅠAc	1	実技					
* 造形表現研究ⅠB	2	実技					
* デッサンⅢ	2	実技					
* デザイン・工芸選択実技A	2	実技					
美術教育演習	2	演習					
美術科教育内容指導論B	2	講義					
美術教育ゼミB	2	演習					
	18			18			
						2 (注5)	
合計						124	

注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。
 教免一「教職絵画」「教職彫刻」「教職デザイン」「教職工芸」は指定専攻の教職課程履修者のみ履修できる。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 美術学科 美術教育専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科共通科目	必修	必 西洋美術史概説	2	講義				
		必 日本美術史概説	2	講義				
		必 東洋美術史概説	2	講義				
	選択必修			6				
						アート・プラクティスⅠ	2	演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
						アート・プラクティスⅡ	2	
						アート・アクティビティA	2	
						アート・アクティビティB	2	
						色彩文化概論	2	
						配色調和論	2	
						視覚心理学	2	
						カラーキャリアⅠ	2	
						カラーキャリアⅡ	2	
						技法史	2	
						文化資源学	2	
				ヴィジュアルスタディーズA	2			
				ヴィジュアルスタディーズB	2			
				デザイン批評A	2			
				デザイン批評B	2			
				芸術人類学	2			
				芸術民俗学	2			
				芸術政策と法	2			
				創作活動と法	2			
					8			
学科専門科目	*	美術選択実技A (油彩画)	2	実技	* 美術選択実技B (古典技法)	2	実技	
		美術選択実技A (リトグラフ)	2	実技	* 美術選択実技B (銅版画)	2	実技	
		美術選択実技A (日本画)	2	実技	* 美術選択実技B (彫塑)	2	実技	
		美術選択実技A (彫塑)	2	実技	美術選択演習B (素描/描写)	2	演習	
		美術選択実技A (立体)	2	実技	美術選択演習B (パネル作製)	1	演習	
		美術選択演習A (素描/描写)	2	演習	美術選択演習B (紙)	1	演習	
	美術選択演習A	美術選択演習A (パネル作製)	1	演習	美術選択演習B (日本画)	2	演習	
		美術選択演習A (紙)	1	演習	美術選択演習B (金工/ジュエリー)	2	演習	
		美術選択演習A (日本画)	2	演習	美術選択演習B (繊維/フェルト)	2	演習	
		美術選択演習A (金工/ジュエリー)	2	演習	美術選択演習B (写真)	2	演習	
		美術選択演習A (繊維/フェルト)	2	演習	美術選択演習B (メイブ)	2	演習	
		美術選択演習A (CG)	2	演習	美術選択演習B (製本)	2	演習	
		美術選択演習A (写真)	2	演習	美術選択演習B (3D・CG初級)	1	演習	
		美術選択演習A (メイブ)	2	演習	美術選択演習B (3D・CG中級)	1	演習	
		美術選択演習A	2	演習	石彫	1	演習	
絵画素材論A	1	講義	(1~4年次)					
絵画素材論B	1	講義						
				芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習		
専攻・領域 専門科目	*	造形表現基礎ⅠAa	3	実技	* 造形表現基礎ⅡAa	4	実技	
		造形表現基礎ⅠAb	1	実技	* 造形表現基礎ⅡAb	1	実技	
		造形表現基礎ⅠAc	1	実技	* 造形表現基礎ⅡAc	1	実技	
		造形表現基礎ⅠB	2	実技	* 造形表現基礎ⅡB	2	実技	
		デッサンⅠ	2	実技	* デッサンⅡ	2	実技	
		デザイン・工芸選択実技B	2	実技	美術教育演習A	2	演習	
					美術科教育内容指導論A	2	講義	
						14		
	選択必修				デザイン・工芸論A	2	} 2 講義	
					デザイン・工芸論B	2		
					2			

- 注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、5単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*…専門科目時間帯(実技時間帯) 必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
美術教育論A	2	講義				8	33
	2						
(2～4年次)						8 (注3)	94
						17 (注4)	
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
(2～4年次)							61
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)				
美術教育論B	2	講義					
* 造形表現研究ⅠAa	4	実技	* 造形表現研究Ⅱ	8	演習	59	
* 造形表現研究ⅠAb	1	実技	* 卒業研究	10	演習		
* 造形表現研究ⅠAc	1	実技					
* 造形表現研究ⅠB	2	実技					
* デッサンⅢ	2	実技					
* デザイン・工芸選択実技A	2	実技					
美術教育演習B	2	演習					
美術科教育内容指導論B	2	講義					
	16			18			
							2
合計						124	

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
 履修方法については研究室の指示に従うこと。

美術学科 国際芸術文化専攻

1. 教育内容

国際芸術文化専攻では、美術大学ならではの多文化理解の授業を通じて主体的な思考力を身につけ、多文化共生社会を担う国際教養人を育成することを目指します。

4年間を通して世界の芸術文化に関する基礎知識を学ぶだけでなく、コンピュータスキルや語学の習得のほか、カタログの編集作業など様々なグループワークの中で、自身の意見や学んだ内容を他者に伝えるスキルを習得します。

2年次からは、「日本美術史」、「西洋美術史」、「芸術人類学」、「芸術表象」、「芸術と法」、「色彩学」、「アート表現」の7分野からゼミを選択し、自身の興味関心に沿って多角的かつ段階的に理論の探究を深めていきます。（2025年度入学生より「アジア文化学」が開設され8分野になります。）

また、国際芸術文化専攻の教育における大きな柱は、国内外で実施する研修です。急激に変化していく社会情勢の中、従来の固定観念にとらわれずに多様な文化や価値観を理解するためには、日本を含めた世界の芸術文化を自身で体験・経験し、国際的な視点で物事を考察できる視野を養う必要があります。よって国際芸術専攻では、協定校と綿密にプランを立てたうえでアジア研修やヨーロッパ研修を実施し、希望者に対してはその後の留学までサポートします。

自らが学び体験すること。理論と実践、この二つを柱として、芸術と人間・社会との関わりを実体験に基づいて学んでいきます。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次では世界の芸術・文化を学ぶための基礎力を養います。1年次は芸術を通して「教養」を身につけてゆくための準備期間であり、世界各国の文化を広く学ぶことでこれまでの自分の視点から脱却し、客観的な視点で広く自らの文化を見る力を身に付けます。そして国内研修、東アジア研修を通して日本国内・アジアの芸術と文化に直接触れ、文化の流れとつながりを学びます。

2年次では芸術を通して世の中を知るための方法論を学びます。社会・思想・歴史・視覚などあらゆる角度から芸術を捉え、様々な事象と芸術との関連性を見出し研究するための手法を学びます。後期からはゼミで専門性を高め、また欧米研修によって西洋文化における芸術の在り方も直接体験します。

3年次は自らが芸術を探求するための方法を深めていきます。1・2年次で学んできた知識をもとに、芸術そのものを探求していきます。芸術の持つ意味を読み解くために作品の成り立ちや仕組みを学び、自分の専門性を活かした方法論に立脚して探求していきます。

4年次は芸術と社会との接点を見出し、芸術を生み出した人間を理解します。自らのテーマを定め、これまで学んできた方法論に基づいてオリジナリティの高い研究をまとめていきます。

美術学科 国際芸術文化専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	国際芸術文化専攻では国内外の文化理解授業、文献研究、実験や研修などの体験を通して、芸術と人間・社会とのかかわりを理論的に研究し、またディスカッション等の方法論も学び、多様性社会において芸術を通して人間・社会に広く貢献できる人材、国際的教養人の育成を教育目標とする。
--------------------------------------	--

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
	美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、文化芸術に関する基礎的理論を学び、ゼミナール、バイリンガル授業で語学力、研究力を高めながら、内外研修を通して芸術と人間・社会とのかかわりを実体験から学ぶカリキュラムを編成します。	
美術学科 国際芸術文化専攻 専門科目	【知識・理解】 (教養力・専門性)	美術をはじめ様々な文化の側面や歴史、多様性を理解し、他文化への関心と国際感覚を養い、精神的視野を広げる科目を配置する。	1 年次 【講】 多文化理解基礎 I 【講】 日本文化研修 A 【講】 海外芸術研修 I A 【演】 海外芸術研修 I B 1 年次～4 年次 【講】 デザイン・工芸論 A、デザイン工芸論 B 2 年次 【講】 多文化理解基礎 II 【講】 日本文化研修 B 【演】 海外芸術研修 II A 2 年次～4 年次 【講】 印刷概論 【講】 工芸史 A、工芸史 B 3 年次 【演】 多文化理解演習
	【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性)	現代社会において芸術・アートと関わる人間としての自覚を持ち、国内外の現代アートに関連する活動や芸術と法律の関係、芸術と科学との関係など、生涯にわたって考え、学ぶ力を養うための科目を配置する。	2 年次 【講】 芸術文化基礎 II A 【演】 芸術文化ゼミ I 3 年次 【演】 芸術文化ゼミ II 4 年次 【演】 芸術文化ゼミ III
	【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力)	各分野に共通して求められる研究を理論的に進める方法について学びながら、自身の研究として深め、確立するための論理性や洞察力を養う科目を配置する。	2 年次 【演】 芸術文化ゼミ I 3 年次 【演】 芸術文化ゼミ II 4 年次 【演】 芸術文化ゼミ III 【演】 卒業研究
	【技能・表現】 (創造力・獨創性・対話力)	各分野で学んだ歴史、芸術理論、人文科学、社会科学、自然科学の知識をもとに自己の表現活動を独自性のある制作または論文として創り上げる力を養うための科目を配置する。	1 年次 【講】 芸術文化基礎 I A 【講】 芸術文化基礎 I B 【演】 グローバルコミュニケーション I 2 年次 【講】 芸術文化基礎 II B 【演】 グローバルコミュニケーション II 【演】 海外芸術研修 II B 3 年次 【演】 グローバルコミュニケーション III 4 年次 【演】 グローバルコミュニケーション IV

芸術学部 美術学科 国際芸術文化専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次					
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	演習						
	語学力									
学科共通科目	必修	必 西洋美術史概説	2	講義	必 美術で生きる	2	講義			
		必 日本美術史概説	2	講義						
		必 東洋美術史概説	2	講義						
	選択必修			6			2			
						アート・プラクティスⅠ	2	2 { 演習 講義		
						アート・プラクティスⅡ	2			
						アート・アクティビティ	2			
						色彩文化概論	2	2 { 講義		
						配色調和論	2			
						視覚心理学	2			
					カラーキャリアⅠ	2	2 { 講義			
					カラーキャリアⅡ	2				
					文化資源学	2				
					ヴィジュアルスタディーズA	2	2 { 講義			
					ヴィジュアルスタディーズB	2				
					デザイン批評A	2				
					デザイン批評B	2	2 { 講義			
					芸術人類学	2				
					芸術民俗学	2				
					芸術政策と法	2	2 { 講義			
				創作活動と法	2					
						8				
選択	*	美術学科オープン実技A (油彩画)	2	実技	美術学科オープン実技B (油彩画)	2	実技			
		美術学科オープン実技A (グループワーク)	2	実技	美術学科オープン実技B (古典技法)	2	実技			
		美術学科オープン実技A (リトグラフ)	2	実技	美術学科オープン実技B (イラストレーション)	2	実技			
		美術学科オープン実技A (日本画)	2	実技	美術学科オープン実技B (銅版画)	2	実技			
		美術学科オープン実技A (彫塑)	2	実技	美術学科オープン実技B (日本画)	2	実技			
					美術学科オープン実技A (立体)	2	実技	美術学科オープン実技B (彫塑)	2	実技
	美術学科オープン演習A	美術学科オープン演習A (素描(基礎)1)	2	演習	美術学科オープン演習B (素描)	2	演習			
		美術学科オープン演習A (素描(基礎)2)	2	演習	美術学科オープン演習B (パネル制作)	1	演習			
		美術学科オープン演習A (プリント)	2	演習	美術学科オープン演習B (紙)	1	演習			
		美術学科オープン演習A (日本画)	2	演習	美術学科オープン演習B (日本画)	2	演習			
美術学科オープン演習A (繊維)		2	演習	美術学科オープン演習B (編集・デザイン)	2	演習				
美術学科オープン演習A (CGa)	2	演習	美術学科オープン演習B (メイイ)	2	演習					
美術学科オープン演習A (編集・デザイン)	2	演習	美術学科オープン演習B (CGb)	2	演習					
美術学科オープン演習A (メイイ)	2	演習	美術学科オープン演習B (製本)	2	演習					
美術学科オープン演習A (英語でつくる1)	2	演習	美術学科オープン演習B (絵画材料)	2	演習					
				美術学科オープン演習B (英語でつくる2)	2	演習				
		絵画素材論A	1	講義	(1~4年次)					
		絵画素材論B	1	講義						
					芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習			
					ミュージアムエデュケーション演習	2	演習			
					美術教育オープンゼミA	2	演習			
					教職絵画	1	実技			
					教職彫刻	1	実技			
専攻・領域 専門科目	必修	* 芸術文化基礎ⅠA	2	講義	* 芸術文化基礎ⅡA	2	講義			
		* 芸術文化基礎ⅠB	2	講義	* 芸術文化基礎ⅡB	2	講義			
		* 多文化理解基礎Ⅰ	2	講義	* 多文化理解基礎Ⅱ	2	講義			
		* グローバルコミュニケーションⅠ	2	演習	* グローバルコミュニケーションⅡ	2	演習			
		* 海外芸術研修ⅠA	2	講義	* 海外芸術研修ⅡA	2	演習			
	* 海外芸術研修ⅠB	2	演習	* 海外芸術研修ⅡB	6	演習				
	* 日本文化研修A	2	講義	* 日本文化研修B	2	講義				
				14		芸術文化ゼミⅠ	2	演習		
	選択必修		デザイン・工芸論A	2	講義	(1~4年次)				
			デザイン・工芸論B	2	講義					
					工芸史A (染織)	2	講義			
					工芸史B (陶ガラス)	2	講義			

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から4単位以上必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注3. 各科目区分から2単位以上必修とし、合計8単位以上修得すること。また、8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、

*…専門科目時間帯(実技時間帯) 必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
必 古美術研究	2	演習				10	
						2	
						6 (注2)	
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)			12	40
	4						
(2～4年次)						8 (注3)	
						20 (注4)	94
(2～4年次)							
美術教育論A 美術教育論B アート修復基礎論	2 2 2	講義 講義 講義	(3～4年次)				
美術教育オープンゼミB 教職デザイン 教職工芸	2 1 1	演習 実技 実技	芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
* グローバルコミュニケーションⅢ * 多文化理解演習 芸術文化ゼミⅡ	2 2 4	演習 演習 演習	* グローバルコミュニケーションⅣ * 卒業研究 芸術文化ゼミⅢ	2 4 4	演習 演習 演習	52	
	8			10			
(2～4年次)						54	
						2 (注5)	
合計						124	

修得した単位は、8単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。

教免一「教職絵画」「教職彫刻」「教職デザイン」「教職工芸」は指定専攻の教職課程履修者のみ履修できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 美術学科 国際芸術文化専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	演習				
	語学力							
学科共通科目	必修	必 西洋美術史概説 必 日本美術史概説 必 東洋美術史概説	2 2 2	講義 講義 講義	必 美術で生きる	2	講義	
			6			2		
	選択必修				アート・プラクティスⅠ アート・プラクティスⅡ アート・アクティビティ 色彩文化概論 配色調和論 視覚心理学 カラーキャリアⅠ カラーキャリアⅡ 文化資源学 ヴィジュアルスタディーズA ヴィジュアルスタディーズB デザイン批評A デザイン批評B 芸術人類学 芸術民俗学 芸術政策と法 創作活動と法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
						2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
						2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
						2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
学科専門科目	必修	* 美術学科オープン実技A (油彩画) * 美術学科オープン実技A (グループワーク) * 美術学科オープン実技A (リトグラフ) * 美術学科オープン実技A (日本画) * 美術学科オープン実技A (彫塑) * 美術学科オープン実技A (立体)	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 実技	* 美術学科オープン実技B (油彩画) * 美術学科オープン実技B (古典技法) * 美術学科オープン実技B (イラストレーション) * 美術学科オープン実技B (銅版画) * 美術学科オープン実技B (日本画) * 美術学科オープン実技B (彫塑)	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 実技	
		美術学科オープン演習A (素描(基礎)1) 美術学科オープン演習A (素描(基礎)2) 美術学科オープン演習A (プリント) 美術学科オープン演習A (日本画) 美術学科オープン演習A (繊維) 美術学科オープン演習A (CGa) 美術学科オープン演習A (編集・デザイン) 美術学科オープン演習A (メイイ) 美術学科オープン演習A (英語でつくる1)	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	美術学科オープン演習B (素描) 美術学科オープン演習B (パネル制作) 美術学科オープン演習B (紙) 美術学科オープン演習B (日本画) 美術学科オープン演習B (編集・デザイン) 美術学科オープン演習B (メイイ) 美術学科オープン演習B (CGb) 美術学科オープン演習B (製本) 美術学科オープン演習B (絵画材料) 美術学科オープン演習B (英語でつくる2)	2 1 1 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	
		絵画素材論A 絵画素材論B	1 1	講義 講義	(1~4年次)			
					芸術文化オープンゼミⅠ ミュージアムエデュケーション演習	2 2	演習 演習	
					美術教育オープンゼミA 教職絵画 教職彫刻	2 1 1	演習 実技 実技	
	専攻・領域 専門科目	必修	* 芸術文化基礎ⅠA * 芸術文化基礎ⅠB * 多文化理解基礎Ⅰ * グローバルコミュニケーションⅠ * 海外芸術研修ⅠA * 海外芸術研修ⅠB * 日本文化研修A	2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義	* 芸術文化基礎ⅡA * 芸術文化基礎ⅡB * 多文化理解基礎Ⅱ * グローバルコミュニケーションⅡ * 海外芸術研修ⅡA * 海外芸術研修ⅡB * 日本文化研修B * 日本文化研修Ⅰ * 芸術文化ゼミⅠ	2 2 2 2 2 2 6 2 2	講義 講義 講義 演習 講義 演習 演習 講義 演習
				14			20	
		選択必修	デザイン・工芸論A デザイン・工芸論B	2 2	講義 講義	(1~4年次)		
						印刷概論 工芸史A (染織) 工芸史B (陶ガラス)	2 2 2	講義 講義 講義

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から4単位以上必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注3. 各科目区分から2単位以上必修とし、合計8単位以上修得すること。また、8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、

*…専門科目時間帯(実技時間帯) 必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
必 古美術研究	2	演習				10	
						2	
						6 (注2)	
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)			12	40
	4						
(2～4年次)						8 (注3)	
						20 (注4)	94
(2～4年次)							
美術教育論A 美術教育論B アート修復基礎論	2 2 2	講義 講義 講義	(3～4年次)				
美術教育オープンゼミB 教職デザイン 教職工芸	2 1 1	演習 実技 実技	芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
* グローバルコミュニケーションⅢ * 多文化理解演習 芸術文化ゼミⅡ	2 2 4	演習 演習 演習	* グローバルコミュニケーションⅣ * 卒業研究 芸術文化ゼミⅢ	2 4 4	演習 演習 演習	52	
	8			10			
(2～4年次)						54	
						2 (注5)	
合 計						124	

修得した単位は、8単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。

教免一「教職絵画」「教職彫刻」「教職デザイン」「教職工芸」は指定専攻の教職課程履修者のみ履修できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 美術学科 国際芸術文化専攻 カリキュラム表

科目区分	1 年 次			2 年 次					
	科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	演習					
	語学力								
学科共通科目	必修	必 西洋美術史概説	2	講義	必 美術で生きる	2	講義		
		必 日本美術史概説	2	講義					
		必 東洋美術史概説	2	講義					
	選択必修			6			2		
						アート・プラクティス I	2	2 (注3)	演習 演習 講義
						アート・プラクティス II	2		
						アート・アクティビティ	2		
						色彩文化概論	2	2 (注3)	講義 講義 講義
						配色調和論	2		
						視覚心理学	2		
						カラーキャリア I	2	2 (注3)	講義 講義 講義
						カラーキャリア II	2		
						文化資源学	2		
						ヴィジュアルスタディーズ A	2	2 (注3)	講義 講義 講義
						ヴィジュアルスタディーズ B	2		
				デザイン批評 A	2				
				デザイン批評 B	2	2 (注3)	講義 講義 講義		
				芸術人類学	2				
				芸術民俗学	2				
				芸術政策と法	2	2 (注3)	講義 講義		
				創作活動と法	2				
						8			
		* 美術学科オープン実技 A (油彩画)	2	実技	* 美術学科オープン実技 B (油彩画)	2	実技		
		* 美術学科オープン実技 A (グループワーク)	2	実技	* 美術学科オープン実技 B (古典技法)	2	実技		
		* 美術学科オープン実技 A (リトグラフ)	2	実技	* 美術学科オープン実技 B (インスタレーション)	2	実技		
		* 美術学科オープン実技 A (日本画)	2	実技	* 美術学科オープン実技 B (銅版画)	2	実技		
		* 美術学科オープン実技 A (彫塑)	2	実技	* 美術学科オープン実技 B (日本画)	2	実技		
		* 美術学科オープン実技 A (立体)	2	実技	* 美術学科オープン実技 B (彫塑)	2	実技		
		美術学科オープン演習 A (素描 (基礎) 1)	2	演習	美術学科オープン演習 B (素描)	2	演習		
		美術学科オープン演習 A (素描 (基礎) 2)	2	演習	美術学科オープン演習 B (パネル制作)	1	演習		
		美術学科オープン演習 A (プリント)	2	演習	美術学科オープン演習 B (紙)	1	演習		
		美術学科オープン演習 A (日本画)	2	演習	美術学科オープン演習 B (日本画)	2	演習		
		美術学科オープン演習 A (繊維)	2	演習	美術学科オープン演習 B (編集・デザイン)	2	演習		
		美術学科オープン演習 A (CGa)	2	演習	美術学科オープン演習 B (メイイ)	2	演習		
		美術学科オープン演習 A (編集・デザイン)	2	演習	美術学科オープン演習 B (CGb)	2	演習		
		美術学科オープン演習 A (メイイ)	2	演習	美術学科オープン演習 B (製本)	2	演習		
		美術学科オープン演習 A (英語でつくる 1)	2	演習	美術学科オープン演習 B (絵画材料)	2	演習		
		美術学科オープン演習 A (英語でつくる 2)	2	演習	美術学科オープン演習 B (英語でつくる 2)	2	演習		
		絵画素材論 A	1	講義	(1~4年次)				
		絵画素材論 B	1	講義					
					芸術文化オープンゼミ I	2	演習		
					ミュージアムエデュケーション演習	2	演習		
					美術教育オープンゼミ A	2	演習		
					教職絵画	1	実技		
					教職彫刻	1	実技		
専攻・領域 専門科目	必修	* 芸術文化基礎 I A	2	講義	* 芸術文化基礎 II A	2	講義		
		* 芸術文化基礎 I B	2	講義	* 芸術文化基礎 II B	2	講義		
		* 多文化理解基礎 I	2	講義	* 多文化理解基礎 II	2	講義		
		* グローバルコミュニケーション I	2	演習	* グローバルコミュニケーション II	2	演習		
		* 海外芸術研修 I A	2	講義	* 海外芸術研修 II A	2	演習		
	* 海外芸術研修 I B	2	演習	* 海外芸術研修 II B	6	演習			
	* 日本文化研修 A	2	講義	* 日本文化研修 B	2	講義			
				14		* 芸術文化ゼミ I	2	演習	
	選択必修						20		
						(1~4年次)			
					印刷概論	2	講義		
					工芸史 A (染織)	2	講義		
					工芸史 B (陶ガラス)	2	講義		

注 1. 外国人留学生は「日本語 A」1 単位、「日本語 B」1 単位の 2 単位を必修とし、合計 6 単位以上を修得すること。
 注 2. 英語系から 4 単位以上必修とし、合計 6 単位以上を修得すること。
 注 3. 各科目区分から 2 単位以上必修とし、合計 8 単位以上修得すること。また、8 単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注 4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、

*…専門科目時間帯(実技時間帯) 必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
必 古美術研究	2	演習				10	
						2	
						6 (注2)	
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)			12	40
	4						
(2～4年次)						8 (注3)	94
						20 (注4)	
(2～4年次)							54
美術教育論A 美術教育論B アート修復基礎論	2 2 2	講義 講義 講義	(3～4年次)				
美術教育オープンゼミB 教職デザイン 教職工芸	2 1 1	演習 実技 実技	芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
* グローバルコミュニケーションⅢ * 多文化理解演習	2 2	演習 演習	* グローバルコミュニケーションⅣ * 卒業研究	2 4	演習 演習	44	
	4			6			
芸術文化ゼミⅡ(西洋美術史) 芸術文化ゼミⅡ(日本美術史) 芸術文化ゼミⅡ(色彩学) 芸術文化ゼミⅡ(芸術表象) 芸術文化ゼミⅡ(芸術人類学) 芸術文化ゼミⅡ(芸術と法) 芸術文化ゼミⅡ(アート表現)	4 4 4 4 4 4 4	} 4 演習	芸術文化ゼミⅢ(西洋美術史) 芸術文化ゼミⅢ(日本美術史) 芸術文化ゼミⅢ(色彩学) 芸術文化ゼミⅢ(芸術表象) 芸術文化ゼミⅢ(芸術人類学) 芸術文化ゼミⅢ(芸術と法) 芸術文化ゼミⅢ(アート表現)	4 4 4 4 4 4 4	} 4 演習	8 (注5)	10
	4			4		4	
	4			4		4	
	4			4		4	
	4			4		4	
	4			4		4	
	4			4		4	
(2～4年次)						2 (注5)	
合 計						124	

修得した単位は、8単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。

教免一「教職絵画」「教職彫刻」「教職デザイン」「教職工芸」は指定専攻の教職課程履修者のみ履修できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

美術学科 芸術文化専攻

1. 教育内容

芸術文化専攻では3つの視点から芸術を学んでいきます。ひとつは芸術表象、芸術を理論から考え、ときに実際に体験しながら深めていきます。芸術の意味がわかるためには、そのもととなる社会や文化を理解することが絶対に必要です。どのような人が、何を感じ、何を考えて表現・デザインするのか、芸術の意味をていねいに深く掘り下げます。

次は色彩学・視覚科学で、美術の方法や表現効果を人間の心の働きや成り立ちをもとに考えていきます。人は視覚的な動物といわれていますが、人の存在と美術の成り立ちには深い関係があります。人間の脳が美術を生み出し、育ててきた理由とあり方を学んでいきます。

最後は美術史で、美術のあり方を古代から現在までの時間の流れの中で考えていきます。「見ること」と「知ること」、そして「作ること」にかかわる造形は、人間の可能性を考える際に重要な基本となります。長い歴史のなかでさまざまに展開してきた造形を通して、現在の私たちがどう存在し、どう進んでいくのかを考えていきます。

これら3つの視点を総合的に学んだのち、各視点に対応する3つのコースに分かれて専門性に磨きをかけてゆきます。また、ダブルコース制度により、各コースで学んでいる分野とは別にそれ以外の分野の学習成果を認証され、各所属の専門分野の枠をこえて、自分の興味・関心に基づいて自主的に学んでいくことが出来ます。ダブルコース制度で選択できる分野は上記3分野以外に、芸術人類学、芸術と法が加わります。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次では世界の芸術・文化を学ぶための基礎力を養います。1年次は芸術を通して「教養」を身につけてゆくための準備期間であり、世界各国の文化を広く学ぶことでこれまでの自分の視点から脱却し、客観的な視点で広く自らの文化を見る力を身に付けます。そして国内研修、東アジア研修を通して日本国内・アジアの芸術と文化に直接触れ、文化の流れとつながりを学びます。

2年次では芸術を通して世の中を知るための方法論を学びます。社会・思想・歴史・視覚などあらゆる角度から芸術を捉え、様々な事象と芸術との関連性を見出し研究するための手法を学びます。後期からはゼミで専門性を高め、また欧米研修によって西洋文化における芸術の在り方も直接体験します。

3年次は自らが芸術を探求するための方法を深めていきます。1・2年次で学んできた知識をもとに、芸術そのものを探求していきます。芸術の持つ意味を読み解くために作品の成り立ちや仕組みを学び、自分の専門性を活かした方法論に立脚して探求していきます。

4年次は芸術と社会との接点を見出し、芸術を生み出した人間を理解します。自らのテーマを定め、これまで学んできた方法論に基づいてオリジナリティの高い研究をまとめていきます。

教育目標

芸術文化専攻では文献研究、実験や研修などの体験を通して、芸術と人間・社会とのかかわりを理論的に研究し、またディスカッション等の方法論も学び、グローバル化に適切に対応できる教養人、芸術を通して人間・社会に広く貢献できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・1・2年次では基本的概念の理解と語学、研究法などの基礎知識を習得し、内外研修を通して文化と芸術との関係を学ぶ。
- ・3年次では自らの3コースから、自らの研究方法を選択し、コース毎にその具体的な方法論を学ぶ。同時に芸術と人間・社会とのかかわりに関する知見を深め、卒業研究の準備を整える。
- ・4年次ではこれまでに学んできた現象・方法論などの知識を活用し、自らの視点に基づいた独創的研究を進めると同時に、社会に出て活動する方向性を定める。

芸術学部 美術学科 芸術文化専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通 科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	2	演習	(1~2年次)			
	語学力								
学科 専門 科目	学科 共通 科目	必 修	必 西洋美術史概説	2	講義				
			必 日本美術史概説	2	講義				
			必 東洋美術史概説	2	講義				
		選 択 必 修			6				
							アート・プラクティス I	2	演習 (注3)
							アート・プラクティス II	2	
							アート・アクティビティ A	2	
							アート・アクティビティ B	2	講義
							色彩文化概論	2	
							配色調和論	2	講義
					視覚心理学	2			
					カラーキャリア I	2	講義 (注3)		
					カラーキャリア II	2			
					技法史	2	講義		
					文化資源学	2			
				ヴィジュアルスタディーズ A	2	講義 (注3)			
				ヴィジュアルスタディーズ B	2				
				デザイン批評 A	2	講義			
				デザイン批評 B	2				
				芸術人類学	2	講義 (注3)			
				芸術民俗学	2				
				芸術政策と法	2	講義			
				創作活動と法	2				
						8			
	選 択	*	美術選択実技 A (油彩画)	2	実技	* 美術選択実技 B (古典技法)	2	実技	
				美術選択実技 A (リトグラフ)	2	実技	* 美術選択実技 B (銅版画)	2	実技
				美術選択実技 A (日本画)	2	実技	* 美術選択実技 B (彫塑)	2	実技
				美術選択実技 A (彫塑)	2	実技	美術選択演習 B (素描/描写)	2	演習
				美術選択実技 A (立体)	2	実技	美術選択演習 B (パネル作製)	1	演習
				美術選択演習 A (素描/描写)	2	演習	美術選択演習 B (紙)	1	演習
				美術選択演習 A (パネル作製)	1	演習	美術選択演習 B (日本画)	2	演習
				美術選択演習 A (紙)	1	演習	美術選択演習 B (金工/ジュエリー)	2	演習
				美術選択演習 A (日本画)	2	演習	美術選択演習 B (繊維/フェルト)	2	演習
				美術選択演習 A (金工/ジュエリー)	2	演習	美術選択演習 B (写真)	2	演習
				美術選択演習 A (繊維/フェルト)	2	演習	美術選択演習 B (メイイ)	2	演習
				美術選択演習 A (CG)	2	演習	美術選択演習 B (製本)	2	演習
				美術選択演習 A (写真)	2	演習	美術選択演習 B (3D・CG初級)	1	演習
				美術選択演習 A (メイイ)	2	演習	美術選択演習 B (3D・CG中級)	1	演習
						石彫	1	演習	
			絵画素材論 A	1	講義	(1~4年次)			
			絵画素材論 B	1	講義				
						芸術文化オープンゼミ I	2	演習	
専攻・領域 専門 科目	必 修	* 芸術文化基礎 I A	2	講義	* 芸術文化基礎 II A	2	講義		
		* 芸術文化基礎 I B	2	講義	* 芸術文化基礎 II B	2	講義		
		* 芸術文化基礎 I C	2	講義	* 芸術文化基礎 II C	2	講義		
		* グローバルコミュニケーション I	2	演習	* グローバルコミュニケーション II	2	演習		
		* 海外芸術研修 I A	2	講義	* 海外芸術研修 II A	2	講義		
		* 海外芸術研修 I B	2	演習	* 海外芸術研修 II B	6	演習		
	* 日本文化研修 A	2	講義	* 日本文化研修 B	2	講義			
				14		* 芸術文化ゼミ I	20	演習	
	選 択 必 修								
			デザイン・工芸論 A	2	講義	(1~4年次)			
			デザイン・工芸論 B	2	講義				
						印刷概論	2	講義	
						工芸史 A (染織)	2	講義	
						工芸史 B (陶ガラス)	2	講義	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から4単位以上必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注3. 各科目区分から2単位以上必修とし、合計10単位以上修得すること。また、10単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することがで

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
必 古美術研究	2	演習				10	
						2	
						4 (注2)	
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)			10	44
	4						
(2～4年次)						10 (注3)	94
						24 (注4)	
				芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習	
(2～4年次)						40	50
美術教育論A	2	講義	(3～4年次)				
美術教育論B	2	講義					
* グローバルコミュニケーションⅢ	2	演習	* 卒業研究	4	演習		
	2			4			
芸術文化ゼミⅡ (芸術表象)	4	} 4 演習	芸術文化ゼミⅢ (芸術表象)	4	} 4 演習	8 (注5)	
芸術文化ゼミⅡ (美術史)	4		芸術文化ゼミⅢ (美術史)	4			
芸術文化ゼミⅡ (色彩)	4		芸術文化ゼミⅢ (色彩)	4			
	4			4		10	
(2～4年次)						2 (注5)	
合計						124	

き、修得した単位は、8単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

デザイン・工芸学科

1. 教育内容

デザイン・工芸学科では、社会における人と人とのコミュニケーション、人とモノの関わり、人と環境のあるべき姿の考察、および独創的な創作活動の実践を行います。そのために専攻する各デザイン分野と工芸分野に関する基礎的な知識と技能・技法を習得し、豊かな感性や創造的な発想力をもって、実践的な企画や表現として実現する力を身につけます。また、専攻を超えた横断的な幅広い視野・技術・感性を実体験から養い、柔軟な思考をもって他分野との連携をはかり、時代に即応し活躍できる人材を養成することを目標とした教育内容となっています。

2. カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、デザイン・工芸に関する分野を幅広く学ぶ科目群です。デザイン・工芸選択実技A、デザイン・工芸選択実技B、デザイン・工芸連携プロジェクトA～Dは、専攻横断型、専攻連携型の実技科目です。他に横断的な理論的知識を学ぶ科目としては、必修科目のデザイン・工芸論A、デザイン・工芸論Bのほか、デザイン図法、印刷概論、プロダクトデザイン概論、環境デザイン概論、素材演習A～F、工芸史A、工芸史Bなどのデザイン・工芸に関する基礎的な講義・演習科目があり、各自が学習計画をたてて選択履修します。

デザイン・工芸学科 教育目標・人材の養成に関する目的	デザイン・工芸学科では、多様性を尊重する社会に対応すべく、ヴィジュアルコミュニケーション、プロダクト、環境、工芸の領域で幅広い視野・技術・感性を実践する専門性に裏打ちされた独創力と領域の境界を跨いだ俯瞰的な発想力により、多角的かつ国際的な思考力とコミュニケーション力、マネジメント力を持ったクリエイターの育成を目指します。
-------------------------------	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
デザイン・工芸学科 専門科目（学科共通科目）	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、他専攻との横断的実技を経験することで、デザインと工芸分野を中心とした幅広い知識や国際感覚、コミュニケーション力を身につけ、専門領域での表現を広げ、反映できるカリキュラムを編成します。	/	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識を習得・理解し、領域を横断的に活用できる能力を身に付ける科目を配置する。	1年次 【講】 デザイン・工芸論 A 【講】 デザイン・工芸論 B 【講】 デザイン図法 1～3年次 【講】 デザインと法 【講】 現代造形論 2年次 【講】 ヴィジュアルデザイン概論 【講】 プロダクトデザイン概論 【講】 環境デザイン概論 【講】 工芸史 A 【講】 工芸史 B 2～4年次 【講】 建築生産 I 4年 【講】 建築生産 II
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	演習や研究を通して、幅広い知識や技法を理解し、関心を深めることで、専門分野についての意識や感覚、各自の将来への展開を自覚し高める科目を配置する。	1～3年次 【演】 色彩計画演習 【演】 素材演習 A 【演】 素材演習 B 【演】 素材演習 C 【演】 素材演習 D 【演】 素材演習 E 【演】 素材演習 F 【講】 日本服装史 【講】 文様史 【講】 伝統染織文化論 【講】 テキスタイル表現論 【講】 写真史 2年次 【演】 エコロジカルプランニング演習 【演】 ライティング演習 2～4年次 【講】 建築材料学 【講】 建築法規
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェッショナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	社会と表現活動との関わりや、明確に伝達するための理論や技術を習得し、社会で実践する能力を高める科目を配置する。	1～3年次 【演】 コンピュータプレゼン演習 A 【演】 コンピュータプレゼン演習 B 【講】 広告論 2・3年次 【演】 映像表現演習 A 【演】 映像表現演習 B 【演】 英語プレゼンテーション
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことにより、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	デザイン・工芸の領域と社会の関係性を学際的に学び、理解をすることで、社会や創作活動で実践にかかわる能力を高める科目を配置する。	1～3年次 【演】 バリアフリー演習 【講】 マーケティング論 【講】 人間工学論 【講】 デザイン心理学 【講】 デザインサーベイ論
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	デザイン・工芸の領域における幅広い技能を横断的に学び、深めることで、自身の表現の場を拡げるとともに、社会活動・創作活動において実践する能力を養う科目を配置する。	1年次 【実】 デザイン・工芸選択実技 A 【実】 デザイン・工芸選択実技 B 1～3年次 【講】 展示計画論 【講】 空間演出論 【演】 造形演習 A 【演】 造形演習 B 【演】 造形演習 C 【演】 造形演習 D 2年次 【演】 写真演習 3年次 【演】 デザイン・工芸連携プロジェクト 4年次 【講】 構造計画 【講】 建築設備

「デザイン・工芸選択実技 A・B」

「デザイン・工芸選択実技 A・B」は、デザイン・工芸学科の必修科目になります。以下の履修できる科目を確認して選択してください。

なお、「デザイン・工芸選択実技 A・B」は抽選科目になりますので、必ず抽選申込締切日までにポータルサイトで抽選の希望登録をしてください。

年次	科目	コース名	当該科目・コースが教員免許状(美術)取得に必要な専攻	教免法上の区分注	抽選申込締切
1	デザイン・工芸 選択実技 A	平面シルクスクリーン	プロダクトデザイン、工芸	絵画	4/8 10:00 まで
		平面写真			
		平面タイポグラフィ			
		平面グラフィック			
		立体箱のデザイン			
		立体バターナイフ			
		空間			
		染			
		織			
		ガラス			
	デザイン・工芸 選択実技 B	ヴィジュアル(タイポグラフィ)×プロダクト(紙立体)			
		ヴィジュアル(写真)×プロダクト(紙立体)			
		ヴィジュアル(グラフィック)×環境(ディスプレイ)			
		ヴィジュアル(写真・コラージュ)×工芸(マシン刺繍)			
		ヴィジュアル(イラストレーション)×工芸(ハンドステッチ)			
		工芸(陶芸)×ヴィジュアル(グラフィックデザイン)			
		プロダクト(型成型)×工芸(陶芸)			
		プロダクト(モノ)×環境(場)			
		環境(インテリア)×工芸(織)			

注: 教職課程履修者は、教免法上の各区分に指定された科目を履修すること(詳細は「教職課程履修の手引」を参照すること)。

デザイン・工芸学科

1. 教育内容

デザイン・工芸学科では、人と人とのコミュニケーション・人とモノの関わり・人と環境のあるべき姿の考察、および独創的な創作活動の実践を行います。そして幅広い視野・技術・感性を実体験から養い、柔軟な思考に基づき、時代に即応し活躍できる人材を養成します。そのために専攻する各デザイン分野と工芸分野に関する基礎的な知識と基本的な技能・技法を習得するとともに、豊かな感性や創造的な発想力、豊かな表現力の養成、柔軟な着想力、実践的な企画力を身につけることを教育目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、デザイン・工芸に関する幅広い基礎を学ぶ科目群です。デザイン・工芸選択実技A、デザイン・工芸選択実技Bは、各専攻における横断的に実技を学ぶ科目です。他に横断的な理論的知識を学ぶ科目としては、必修科目のデザイン・工芸論A、デザイン・工芸論Bのほか、デザイン図法、印刷概論、プロダクトデザイン概論、環境デザイン概論、素材演習A～F、工芸史A、工芸史Bなどのデザイン・工芸に関する基礎的な講義・演習科目があり、各自が学習計画をたてて選択履修します。

教育目標

デザイン・工芸学科は、人と人とのコミュニケーション・人とモノの関わり・人と環境のあるべき姿の考察、及び独創的な創作活動の実践を通して、幅広い視野・技術・感性を養い、柔軟な思考に基づき時代に即応し活躍できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、デザインと工芸分野を中心とした幅広い知識やプレゼンテーション・スキルを身につけ、他専攻の横断的実技を経験することで自らの特性や個性、能力を見つめ直し、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成する。

デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻

1. 教育内容

ヴィジュアルデザイン専攻では多様化する時代に応じ、的確で新しいヴィジュアルコミュニケーションの可能性を探求します。

具体的にはグラフィックデザインを中心に、タイポグラフィ、イラストレーション、写真、印刷、映像、Web、パッケージデザイン、TVCM、アニメーション、キャラクターデザイン、ブランディング、モーショングラフィック、編集、プレゼンテーション、広告におけるアートディレクション等、さらに新たな媒体における表現を見据えた多岐にわたる授業が用意されています。

それぞれの授業ではアナログやデジタルにかかわらず、表現の核心を追求します。社会でコミュニケーションが大きな意味を持つ中で、「ヴィジュアルデザイン」は非常に有効かつ豊かな手段です。社会の変化に対応しつつ時代の息づかいを敏感に吸収し、自らの創造力で新しいヴィジュアルデザインを提示できるクリエイターを育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

- (1) 1年次では、ヴィジュアルコミュニケーションに重要な「色とかたち」「文字とことば」を軸に様々な素材、表現に触れながら、ものの見方、捉え方において多角的な視点を持つ観察力を養います。選択実技では専攻間を横断した実技を学び、制作における基礎能力を養います。
- (2) 2年次を通して行われるヴィジュアルデザイン基礎演習では、ヴィジュアルデザインに必要な基礎を習得します。単にスキルのみを習得するのではなく、観察、発見、発想、検証、表現といったプロセスを、実技体験をする中から理解しクリエイターとしての基盤を構築します。また、表現演習では多様な表現方法や情報を学び、基礎能力を広げていきます。
- (3) 3年次からのヴィジュアルデザイン演習では、専門的なヴィジュアルデザインを学びます。前期は「グラフィックデザイン」と「アートディレクション」の2コースのどちらかを選択します。「グラフィックデザイン」ではグラフィックデザイナーとしての専門性と能力向上を目指し、「アートディレクション」ではグラフィックデザインのスキルを基にアートディレクターとしての幅広いコミュニケーション力、問題解決力を身につけます。後期はさらに細分化された専門性の高い授業が幅広く用意され、その中から選択することによって個々の目標を明確に実現し、卒業後の進路につながることのできるカリキュラムになっています。
- (4) 4年次では、前期はこれまでの学習をふまえた専門領域から2つを選択し、興味のあるデザイン分野をより深く体験、研究して後期の卒業制作へと繋げていきます。

デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	ヴィジュアルデザイン専攻では、デザインの基礎・理論・本質を理解し、グラフィックデザインを中心に多様性を尊重する社会に対応し、その過程で国際的な視野と客観的な視点、デザインによる問題解決能力などを向上させ、変化に柔軟に適應しうるクリエイターを育成する。
---	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	ヴィジュアルデザイン領域における制作の基礎となる知識を学び、教養を身につけ、技術を習得できる科目を配置する。	1年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 I - A 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 I - B 【演習】表現演習 I - A 【演習】表現演習 I - B 2年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 II - A 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 II - B 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 II - C 【演習】表現演習 II - A 【演習】表現演習 II - B
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	表現の探究と思考を深めつつ、ヴィジュアルデザインおよび周辺領域への関わりを理解し、実践するための科目を配置する。	1年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 I - C 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 I - D 2年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 II - D 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 II - E
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェッショナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	ヴィジュアルデザインの理論と実践を通し、自身の考えや表現が、社会と関わり繋がっていくことを意識して模索するための科目を配置する。	3年次 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - A 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - B 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - C 【演習】表現演習 III - A 【演習】表現演習 III - B
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	ヴィジュアルデザインと関わる多岐にわたる表現を研究、体験しながら視野を広げ、独創的な創作活動と客観的な論理的思考、学際的な応用力を身につけるための科目を配置する。	3年次 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - D 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - E 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - F 4年次 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 II - A 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 II - B
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	具体的な実技の体得や、課外活動を体験し、総合的な視点で創作を考え自身の表現の幅を広げることができ科目を配置する。	2年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 II - F 4年次 【実技】卒業制作

デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻

1. 教育内容

ヴィジュアルデザイン専攻では多様化する時代に応じ、的確で新しいヴィジュアルコミュニケーションの可能性を探求します。

具体的にはグラフィックデザインを中心に、タイポグラフィ、イラストレーション、写真、印刷、映像、Web、パッケージデザイン、TVCM、アニメーション、キャラクターデザイン、ブランディング、モーショングラフィック、編集、プレゼンテーション、広告におけるアートディレクション等、さらに新たな媒体における表現を見据えた多岐にわたる授業が用意されています。

それぞれの授業ではアナログやデジタルにかかわらず、表現の核心を追求します。社会でコミュニケーションが大きな意味を持つ中で、「ヴィジュアルデザイン」は非常に有効かつ豊かな手段です。社会の変化に対応しつつ時代の息づかいを敏感に吸収し、自らの創造力で新しいヴィジュアルデザインを提示できるクリエイターを育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

- (1) 1年次では、ヴィジュアルコミュニケーションに重要な「色とかたち」「文字とことば」を軸に様々な素材、表現に触れながら、ものの見方、捉え方において多角的な視点を持つ観察力を養います。選択実技では専攻間を横断した実技を学び、制作における基礎能力を養います。
- (2) 2年次を通して行われるヴィジュアルデザイン基礎演習では、ヴィジュアルデザインに必要な基礎を習得します。単にスキルのみを習得するのではなく、観察、発見、発想、検証、表現といったプロセスを、実技体験をする中から理解しクリエイターとしての基盤を構築します。また、表現演習では多様な表現方法や情報を学び、基礎能力を広げていきます。
- (3) 3年次からのヴィジュアルデザイン演習では、専門的なヴィジュアルデザインを学びます。前期は「グラフィックデザイン」と「アートディレクション」の2コースのどちらかを選択します。「グラフィックデザイン」ではグラフィックデザイナーとしての専門性と能力向上を目指し、「アートディレクション」ではグラフィックデザインのスキルを基にアートディレクターとしての幅広いコミュニケーション力、問題解決力を身につけます。後期はさらに細分化された専門性の高い授業が幅広く用意され、その中から選択することによって個々の目標を明確に実現し、卒業後の進路につながることできるカリキュラムになっています。
- (4) 4年次では、前期はこれまでの学習をふまえた専門領域から2つを選択し、興味のあるデザイン分野をより深く体験、研究して後期の卒業制作へと繋げていきます。

教育目標

ヴィジュアルデザイン専攻では、デザインの基礎・造形理論・美の本質を理解し、グラフィックによるデザインを中心に関連分野の幅広いスキルを習得し、その過程で、客観的な視点や、デザインによる問題解決能力などを向上させ、社会の変化に対応し、的確で新鮮なヴィジュアルコミュニケーションができる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次はデザインの基礎を学ぶ。
- ・ 2年次はヴィジュアルデザインに必要なスキルを学び、より専門的な基礎を習得する。
- ・ 3年次はこれまでに習得したデザインの基礎知識を応用・展開してオリジナリティのある作品およびヴィジュアルデザインの可能性を追求する。
- ・ 4年次は各ゼミに分かれて、各自が専門表現の可能性を追求しながらテーマを設定し、4年間の集大成として卒業制作を制作する。

芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座	2	講義			
		必 女子美の教養	2	講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
	語学力						
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	部 印刷概論	2	講義
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技	部 ヴィジュアルデザイン概論	2	講義
		デザイン・工芸論A	2	講義			
		デザイン・工芸論B	2	講義			
			8			4	
	選択	デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習	1	演習
					ライティング演習	1	演習
					プロダクトデザイン概論	2	講義
					環境デザイン概論	2	講義
					工芸史A（染織）	2	講義
				工芸史B（陶ガラス）	2	講義	
選択	コンピュータプレゼン演習A	2	演習	バリアフリー演習	1	演習	
	コンピュータプレゼン演習B	2	演習	人間工学論	2	講義	
	色彩計画演習	2	演習	デザインと法	2	講義	
	素材演習A	2	演習	展示計画論	2	講義	
	素材演習B	2	演習	デザイン心理学	2	講義	
	素材演習C	2	演習	デザインサーベイ論	2	講義	
	素材演習D	2	演習	部 インテリアデザイン史	2	講義	
	素材演習E	2	演習	部 環境論	2	講義	
	素材演習F	2	演習	服装史	2	講義	
				マーケティング論	2	講義	
			映像表現演習A	2	演習		
			映像表現演習B	2	演習		
			写真演習	2	演習		
			英語プレゼンテーション	2	演習		
			建築材料学	2	講義		
			建築生産 I	1	講義		
			建築法規	1	講義		
			造形演習A	2	演習		
			造形演習B	2	演習		
			造形演習C	2	演習		
			造形演習D	2	演習		
			（履修年次指定なし）				
専攻・領域 専門科目	必修	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-A	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-A	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-B	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-B	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-C	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-C	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-D	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-D	2	演習
		* 表現演習 I-A	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-E	2	演習
		* 表現演習 I-B	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-F	2	演習
					* 表現演習 II-A	2	演習
			* 表現演習 II-B	2	演習		
		14		16			

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 * 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
 履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	94
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
文様史	2	講義	(1～4年次)				
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
(2～4年次)						18 (注3)	
(2～4年次)							
デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3～4年次)				
デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-A	2	演習	* 卒業制作	10	実技	64	64
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-B	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-A	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-C	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-B	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-D	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-E	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-F	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-A	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-B	2	演習					
	16			18			
合計						124	

芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座	2	講義			
		必 女子美の教養	2	講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
	語学力						
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	部 印刷概論	2	講義
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技	部 ヴィジュアルデザイン概論	2	講義
		デザイン・工芸論A	2	講義			
		デザイン・工芸論B	2	講義			
			8			4	
	選択	デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習	1	演習
					ライティング演習	1	演習
					プロダクトデザイン概論	2	講義
					環境デザイン概論	2	講義
					工芸史A（染織）	2	講義
					工芸史B（陶ガラス）	2	講義
		コンピュータプレゼン演習A	2	演習	バリアフリー演習	1	演習
コンピュータプレゼン演習B		2	演習	人間工学論	2	講義	
色彩計画演習	2	演習	デザインと法	2	講義		
素材演習A	2	演習	展示計画論	2	講義		
素材演習B	2	演習	デザイン心理学	2	講義		
素材演習C	2	演習	デザインサーベイ論	2	講義		
素材演習D	2	演習	部 インテリアデザイン史	2	講義		
素材演習E	2	演習	部 環境論	2	講義		
素材演習F	2	演習	日本服装史	2	講義		
			マーケティング論	2	講義		
			映像表現演習A	2	演習		
			映像表現演習B	2	演習		
			写真演習	2	演習		
			英語プレゼンテーション	2	演習		
			建築材料学	2	講義		
			建築生産 I	1	講義		
			建築法規	1	講義		
			造形演習A	2	演習	(履修年次指定なし)	
			造形演習B	2	演習		
			造形演習C	2	演習		
			造形演習D	2	演習		
専攻・領域 専門科目	必修	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-A	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-A	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-B	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-B	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-C	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-C	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-D	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-D	2	演習
		* 表現演習 I-A	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-E	2	演習
		* 表現演習 I-B	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-F	2	演習
					* 表現演習 II-A	2	演習
					* 表現演習 II-B	2	演習
		14		16			

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
 履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	94
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
文様史	2	講義	(1～4年次)				
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
(2～4年次)						18 (注3)	
(2～4年次)							
デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3～4年次)				
デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-A	2	演習	* 卒業制作	10	実技	64	64
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-B	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-A	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-C	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-B	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-D	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-E	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-F	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-A	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-B	2	演習					
	16			18			
合計						124	

芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
	語学力						
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	部 印刷概論	2	講義
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技	部 ヴィジュアルデザイン概論	2	講義
		デザイン・工芸論A	2	講義			
		デザイン・工芸論B	2	講義			
			8			4	
	選択	デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 プロダクトデザイン概論 環境デザイン概論 工芸史A (染織) 工芸史B (陶ガラス)	1 1 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義
		コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B	2 2	演習 演習	バリアフリー演習 人間工学論	1 2	演習 講義
		色彩計画演習	2	演習	デザインと法	2	講義
		素材演習A	2	演習	展示計画論	2	講義
		素材演習B	2	演習	デザイン心理学	2	講義
素材演習C		2	演習	デザインサーベイ論	2	講義	
素材演習D	2	演習	部 インテリアデザイン史	2	講義		
素材演習E	2	演習	部 環境論	2	講義		
素材演習F	2	演習	部 日本服装史	2	講義		
				マーケティング論 映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産 I 建築法規	2 2 2 2 2 2 1 1	講義 演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義	
	造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	(履修年次指定なし)			
専攻・領域 専門科目	必修	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-A	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-A	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-B	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-B	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-C	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-C	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-D	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-D	2	演習
		* 表現演習 I-A	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-E	2	演習
		* 表現演習 I-B	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-F	2	演習
					* 表現演習 II-A * 表現演習 II-B	2 2	演習 演習
		14			16		

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 * 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
 履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	30
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義	18 (注3)	
文様史	2	講義	(1～4年次)			18 (注3)	30
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論 部 写真史	2 2	講義 講義					
(2～4年次)							94
(2～4年次)							
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-A	2	演習	* 卒業制作	10	実技	64	64
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-B	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-A	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-C	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-B	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-D	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-E	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-F	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-A	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-B	2	演習					
	16			18			
合計						124	

デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻

1. 教育内容

近年デザインは社会の様々な分野で求められ、デザインが果たす役割は広がっています。プロダクトデザイン専攻では、ものづくりを起点に人の豊かな生活、かわいい・楽しいなど感性に届けるデザイン、私たちを取り巻く社会の課題解決まで広い視野を育てます。4年間の授業プログラムは、観察する力を養い、素材や技術の学びを通して身近なモノの成り立ちや美しさを理解する基礎演習から始まり、他専攻と領域を横断するデザインを経験できるプログラムを構成しています。2年次では、文化やライフスタイルなど人を取り巻く情報とモノとの関係から発想する力を身につけます。3年次では「かわいい」を探究する雑貨、企業とのコラボレーションなど、プロの思考技術に近づき臨場感ある授業へステップアップして実践力を高めます。最終学年では、身に付けた力を総合的に活かして社会が抱える課題の解決という広い視座のデザインを学びます。このように現代社会のニーズに対応する多様な力を段階的に養うカリキュラムを構築しています。また3年次からの実技課題は課題テーマを選んで受講する選択授業となり、少人数クラスの充実した指導体制です。知識や技術の習得だけではなく、個性を尊重した学びを提供します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

【観察する・考える・つくる】

デザインの基礎となる観察力・表現力・立体感覚を養います。スケッチやモデル制作、CG演習、表現演習、デザイン図法など多角的に表現技法を習得します。実技課題は、様々な素材の特徴を学び制作する過程で、「つくること」の視点を通して「身の回りのプロダクトがどのように作られているのか」という外への気づきを学びます。

2年次

【調べる・つなげる・つくる】

1年次に引き続き表現演習、CG演習でさらに表現技術を高めるとともに、プロダクトデザイン概論、プロダクトデザイン史等の座学授業から専門的な知識を学びます。実技授業ではモノを取り巻く情報を調べ、人と物との関係性に向き合います。「ブランディング」「アクセサリー」「木工玩具」等のデザインを通してコンセプト、ストーリーを立てる思考力、それを的確にモノで表現する実行力を習得します。

3年次

【コトを深掘り・実践力をつける】

選択授業による少人数制になり、テーマを深掘りしてアウトプットすることを習得します。かわいい雑貨など、女子美らしいテーマをはじめ、企業とのコラボレーションを中心に課題を構成し、社会との接点を増やすことで刺激を受け自発的に学ぶ力と実践力を養います。

4年次

【社会に目を向け総合力を発揮する】

第1課題では社会課題をテーマとしたデザインに取り組むことで、人や社会に貢献するデザインのあり方を学び、卒業制作に取り組みます。社会を俯瞰しデザインの多様な役割を深めた上で、4年間の学びの集大成として作品の研究制作に挑戦します。

デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻教育目標・ 人材の養成に関する目的	プロダクトデザイン専攻では、社会において柔軟なデザイン活動ができるよう、学内外での実体験を通して、プロダクトデザイン本来の意味を理解し、専門領域としての基礎技術である「発想力」・「技術力」・「表現力」を習得した上で、各自の個性を生かし、高い美意識やデザイン能力を有する人材の育成を教育目標とする。
--	--

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	プロダクトデザイン領域における基礎的な知識を習得・理解し、立体物を表現する技術や能力を身に付ける科目を配置する。
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	思考の探究、表現の研究を通して、プロダクトデザインの領域を幅広く理解し、関心を深め、実践するための科目を配置する。
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェッショナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	プロダクトデザインの専門領域を中心に関心を深めていきながら、周辺領域の知識や応用能力、社会性を身につけ、社会で実践する能力を高める科目を配置する。
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	プロダクトデザインの領域と社会の関係性を学び、理解をすることで、社会性のあるテーマに対し、条件を整理・分析し、幅広くデザイン表現に活用する力を養う科目を配置する。
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	プロダクトデザインの専門領域の技能を学び、深めることで、自身の表現の場を拡げるとともに、社会活動・創作活動において実践する能力を養う科目を配置する。
			1 年次 【演】プロダクトデザイン基礎演習 A 【演】プロダクトデザイン基礎演習 B 【演】プロダクトデザイン基礎演習 C 【演】プロダクトデザイン基礎演習 D 【演】プロダクトデザイン基礎演習 E 【演】プロダクトデザイン基礎演習 F 【演】CG演習 I 【演】表現演習 I 2 年次 【演】CG演習 II 【演】表現演習 II 【講】プロダクトデザイン史 3 年次 【演】3D - CG演習
			2 年次 【演】プロダクトデザイン演習 A 【演】プロダクトデザイン演習 B 【演】プロダクトデザイン演習 C 【演】プロダクトデザイン演習 D 【演】プロダクトデザイン演習 E 【演】プロダクトデザイン演習 F
			3 年次 【実】プロダクトデザイン I A a 【実】プロダクトデザイン I A b 【実】プロダクトデザイン I B a 【実】プロダクトデザイン I B b 【実】プロダクトデザイン I C a 【実】プロダクトデザイン I C b 【実】プロダクトデザイン I D a 【実】プロダクトデザイン I D
			4 年次 【実】プロダクトデザイン II A a 【実】プロダクトデザイン II A b
			4 年次 【実】プロダクトデザイン II B a 【実】プロダクトデザイン II B b 【実】卒業制作

デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻

1. 教育内容

近年デザインは社会の様々な分野で求められ、デザインが果たす役割は広がっています。プロダクトデザイン専攻では、ものづくりを起点に人の豊かな生活、かわいい・楽しいなど感性に届けるデザイン、私たちを取り巻く社会の課題解決まで広い視野を育てます。4年間の授業プログラムは、観察する力を養い、素材や技術の学びを通して身近なモノの成り立ちや美しさを理解する基礎演習から始まります。2年次では、文化やライフスタイルなど人を取り巻く情報とモノとの関係から発想する力を身につけます。3年次では「かわいい」を探求する雑貨、企業とのコラボレーションなど、プロの思考技術に近づき臨場感ある授業へステップアップして実践力を高めます。最終学年では、身に付けた力を総合的に活かして社会が抱える課題の解決という広い視座のデザインを学びます。このように現代社会のニーズに対応する多様な力を段階的に養うカリキュラムを構築しています。また3年次からの実技課題は課題テーマを選んで受講する選択授業となり、少人数クラスの充実した指導体制です。知識や技術の習得だけではない、個性を尊重した学びを提供します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

【観察する・考える・つくる】

デザインの基礎となる観察力・表現力・立体感覚を養います。スケッチやモデル制作、CG演習、表現演習、デザイン図法など多角的に表現技法を習得します。実技課題は、様々な素材の特徴を学び制作する過程で、「つくること」の視点を通して「身の回りのプロダクトがどのように作られているのか」という外への気付きを学びます。

2年次

【調べる・つなげる・つくる】

1年次に引き続き表現演習、CG演習でさらに表現技術を高めるとともに、プロダクトデザイン概論、プロダクトデザイン史等の座学授業から専門的な知識を学びます。実技授業ではモノを取り巻く情報を調べ、人と物との関係性に向き合います。「ブランディング」「アクセサリー」「木工玩具」等のデザインを通してコンセプト、ストーリーを立てる思考力、それを的確にモノで表現する実行力を習得します。

3年次

【コトを深掘り・実践力をつける】

選択授業による少人数制になり、テーマを深掘りしてアウトプットすることを習得します。かわいい雑貨など、女子美らしいテーマをはじめ、企業とのコラボレーションを中心に課題を構成し、社会との接点を増やすことで刺激を受け自発的に学ぶ力と実践力を養います。

4年次

【社会に目を向け総合力を発揮する】

第1課題では社会課題をテーマとしたデザインに取り組むことで、人や社会に貢献するデザインのあり方を学び、卒業制作に取り組めます。社会を俯瞰しデザインの多様な役割を深めた上で、4年間の学びの集大成として作品の研究制作に挑戦します。

教育目標

プロダクトデザイン専攻では、社会において柔軟なデザイン活動ができるよう、学内外での実体験を通して、プロダクトデザイン本来の意味を理解し、専門領域としての基礎技術である「発想力」・「技術力」・「表現力」を習得した上で、各自の個性を生かし、高い美意識やデザイン能力を有する人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、「体験からの発見」とし、各種の素材を中心にした課題から、プロダクトデザインの基礎を学ぶ。
- ・ 2年次は、「モノとコトを知る」とし、各種の専門基礎的な課題から、デザインプロセスを体験し、モノやコトの本質を探求する。
- ・ 3年次は「発想からの創造」とし、様々な製品デザインの実技課題を通し、多様なプロジェクトに対応できるデザイン能力を習得する。
- ・ 4年次は「社会性と個のデザイン力の確認」とし、社会に視点を向け、自己の個性やデザイン力を再確認する。卒業制作では4年間の集大成として魅力ある作品制作を行う。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	30
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
服装史	2	講義	(1～4年次)				
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
						18 (注3)	
(2～4年次)							
(2～4年次)							
デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3～4年次)				
デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習					
* 3D-CG演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	46	
	2			10		64	
* プロダクトデザインⅠA a	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡA a	3	} 3 実技	18	
* プロダクトデザインⅠA b	3		* プロダクトデザインⅡA b	3			
* プロダクトデザインⅠB a	3		* プロダクトデザインⅡB a	3			
* プロダクトデザインⅠB b	3	* プロダクトデザインⅡB b	3				
* プロダクトデザインⅠC a	3	} 3 実技			} 3 実技		
* プロダクトデザインⅠC b	3						
* プロダクトデザインⅠD a	3						
* プロダクトデザインⅠD b	3						
	12			6			
合 計						124	

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計		
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態			
						4	30	
						6 (注1)		
						10		
						2		
						4 (注2)		
						12	30	
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義			
日本服装史	2	講義	(1～4年次)					
文様史	2	講義						
伝統染織文化論	2	講義						
テキスタイル表現論	2	講義						
空間演出論	2	講義						
現代造形論	2	講義						
広告論	2	講義						
部 写真史	2	講義						
						18 (注3)		
(2～4年次)							94	
(2～4年次)								
デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3～4年次)					
デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習						
デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習						
デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習						
* 3D-CG演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	46		
	2			10		64		
* プロダクトデザインⅠA a	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡA a	3	} 3 実技	18		
* プロダクトデザインⅠA b	3		* プロダクトデザインⅡA b	3				
* プロダクトデザインⅠB a	3		* プロダクトデザインⅡB a	3				
* プロダクトデザインⅠB b	3	* プロダクトデザインⅡB b	3					
* プロダクトデザインⅠC a	3	} 3 実技			} 3 実技			
* プロダクトデザインⅠC b	3							
* プロダクトデザインⅠD a	3							
* プロダクトデザインⅠD b	3							
	12			6				
合計						124		

芸術学部 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす								
	語学力								
学科 専門科目	学科 共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A * デザイン・工芸選択実技B デザイン図法 デザイン・工芸論A デザイン・工芸論B	2 2 2 2 2	実技 実技 講義 講義 講義	プロダクトデザイン概論	2	講義	
			選択	エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 印刷概論 ヴィジュアルデザイン概論 環境デザイン概論 工芸史A (染織) 工芸史B (陶ガラス)			部	1 1 2 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義
				コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B 色彩計画演習 素材演習A 素材演習B 素材演習C 素材演習D 素材演習E 素材演習F	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	部	1 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
				映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産 I 建築法規				2 2 2 2 2 1 1	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義
				造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習			
								(履修年次指定なし)	
	専攻・領域 専門科目	必修	* プロダクトデザイン基礎演習A * プロダクトデザイン基礎演習B * プロダクトデザイン基礎演習C * プロダクトデザイン基礎演習D * プロダクトデザイン基礎演習E * プロダクトデザイン基礎演習F * CG演習 I * 表現演習 I	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		* プロダクトデザイン演習A * プロダクトデザイン演習B * プロダクトデザイン演習C * プロダクトデザイン演習D * プロダクトデザイン演習E * プロダクトデザイン演習F * CG演習 II * 表現演習 II プロダクトデザイン史	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 講義
				16			18		
	専攻・領域 専門科目	選択							
				0				0	

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。

注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。

注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

* 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	94
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
日本服装史	2	講義	(1～4年次)				
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
(2～4年次)						18 (注3)	
(2～4年次)							
* 3D-CG演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	46	
	2			10		64	
* プロダクトデザインⅠA a	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡA a	3	} 3 実技	18	
* プロダクトデザインⅠA b	3		* プロダクトデザインⅡA b	3			
* プロダクトデザインⅠB a	3		* プロダクトデザインⅡB a	3			
* プロダクトデザインⅠB b	3	* プロダクトデザインⅡB b	3				
* プロダクトデザインⅠC a	3	} 3 実技			} 3 実技		
* プロダクトデザインⅠC b	3						
* プロダクトデザインⅠD a	3						
* プロダクトデザインⅠD b	3	} 3 実技			} 3 実技		
	12						
				6	合計	124	

デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

1. 教育内容

本専攻は、ボーダレス化の進む現代社会において、国際的な価値観と多様性を持った先端的なクリエイターの育成を目的としています。そのために幅広いデザイン・工芸領域から基礎知識を習得した上で、環境デザインの専門領域の学習を進めていきます。

また本専攻では、美大生としての感性を生かした空間デザイナーを目指す学生のための授業と、一級・二級建築士等の資格などを目指す学生のための授業両方が開設されており、自らの感性と志望にあったカリキュラムを選択・計画し、環境デザインの専門性を深めていきます。

夢の実現を目指し、広い視野から物事を探求する力やデザイン現場でのプレゼンテーション能力を磨くと同時に、企業研修等を通して社会で働くための実践力も身に付けることを目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

デザインの基礎的な課題（平面・立体・空間）をとおして、空間デザインの発想力を学ぶと同時に、デザイン・工芸領域の科目を自由に選択し、基礎的な知識と技能を学びます。

2年次

環境デザインの基礎授業として、家具・ディスプレイデザイン・インテリア・庭・公園など内部・外部空間を様々な材料使ってデザインすることを学びます。

3年次

住宅系・商業系・街路景観系など、広い環境デザイン領域から、自らの志望にあった課題を選択・計画し、専門性を深めます。また希望者は企業研修等でデザインの現場を体験します。

4年次

前期は、自らの志望を更に深めるための課題を行い、後期は、テーマを自由に選択し4年間の集大成として卒業制作をします。専門領域の研究室でのゼミ形式授業です。

※デザイン・工芸学科環境デザイン専攻では、在学中に修得した科目によって、次の受験資格を取得できます。

- ・一級建築士受験資格（要必須科目）
- ・二級建築士受験資格（要必須科目）
- ・木造建築士受験資格（要必須科目）
- ・インテリアプランナー登録資格（要必須科目）
- ・商業施設士受験資格（要必須科目）

デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	環境デザイン専攻では、地域社会、あるいは地球規模環境において、創造的なデザイン活動ができるよう、国際的視野、異領域理解能力、そしてコミュニケーション能力を養い、社会の一員としてデザイン活動できる人材の育成を教育目標とする。
---	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、環境デザインに必要な知識、技術、応用能力を身に付け、幅広く空間デザインに取り組むことで、国際感覚とコミュニケーション力を養い、専門領域における表現力を涵養するカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	環境デザインの領域における基礎的な知識を習得・理解し、2次元、3次元での空間表現技術や能力を身に付ける科目を配置する。
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	演習や研究を通して、環境デザインの領域を幅広く理解し関心を深め、表現力やコミュニケーション力を高める科目を配置する。
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェッショナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	環境デザインの専門領域を中心に関心を深めていきながら、幅広い領域の知識や応用能力と社会性を身につけ、社会で実践する意欲と態度を高める科目を配置する。
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	環境デザインの領域と社会の関係性を学び、理解をすることで、社会性のあるテーマに対し、条件を整理・分析し、それをデザイン表現に活用する力を養う科目を配置する。
【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	環境デザインの専門領域の技能を学び、深めることで、自身の独創力を高めるとともに、社会活動・創作活動において実践する能力を養う科目を配置する。	

デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

1. 教育内容

本専攻は、ボーダレス化の進む現代社会において、国際的な価値観と多様性を持った先端的なクリエイターの育成を目的にしています。そのために幅広いデザイン・工芸領域から基礎知識を習得した上で、環境デザインの専門領域の学習を進めていきます。

また本専攻では、美大生としての感性を生かした空間デザイナーを目指す学生のための授業と、一級・二級建築士等の資格などを目指す学生のための授業両方が開設されており、自らの感性と志望にあったカリキュラムを選択・計画し、環境デザインの専門性を深めていきます。

夢の実現を目指し、広い視野から物事を探求する力やデザイン現場でのプレゼンテーション能力を磨くと同時に、企業研修等を通して社会で働くための実践力も身に付けることを目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

デザインの基礎的な課題（平面・立体・空間）をとおして、空間デザインの発想力を学ぶと同時に、デザイン・工芸領域の科目を自由に選択し、基礎的な知識と技能を学びます。

2年次

環境デザインの基礎授業として、家具・ディスプレイデザイン・インテリア・庭・公園など内部・外部空間を様々な材料使ってデザインすることを学びます。

3年次

住宅系・商業系・街路景観系など、広い環境デザイン領域から、自らの志望にあった課題を選択・計画し、専門性を深めます。また希望者は企業研修等でデザインの現場を体験します。

4年次

前期は、自らの志望を更に深めるための課題を行い、後期は、テーマを自由に選択し4年間の集大成として卒業制作をします。専門領域の研究室でのゼミ形式授業です。

※デザイン・工芸学科環境デザイン専攻では、在学中に修得した科目によって、次の受験資格を取得できます。

- ・一級建築士受験資格（要必須科目）
- ・二級建築士受験資格（要必須科目）
- ・木造建築士受験資格（要必須科目）
- ・インテリアプランナー登録資格（要必須科目）
- ・商業施設士受験資格（要必須科目）

教育目標

環境デザイン専攻では、地域社会、あるいは全地球的な環境において、創造的なデザイン活動ができるよう、国際的な視野、異領域理解能力、そしてコミュニケーション能力を養い、社会の一員としてデザイン活動できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次では、「環境デザインとは何か」「空間をデザインすることとは」を学ぶ。
- ・ 2年次では、環境デザインに必要なスケール感覚や素材、技術等の基礎を学びながら、さまざまな幅広い環境デザインの領域があることを学ぶ。そして、さらに深めたい専門領域を選択する。
- ・ 3年次では、選択した専門領域を中心に深めていきながら、周辺の領域の知識や応用能力を身につけていく。また、学外発表や研修を通して社会性を身につけていく。
- ・ 4年次では、それまでに習得した知識、技術、および感性を基に、より高度で社会性のあるテーマを各自設定し、条件を整理・分析の上、幅広い表現のデザイン作品を制作する。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	30
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
服装史	2	講義	(1～4年次)				
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
						18 (注3)	
			(2～4年次)				
			(2～4年次)				
			デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3～4年次)	
			デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習		
			デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習		
			デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習		
* 構造演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	45	
* プレゼン演習Ⅱ	2	演習					
	4			10			
* 環境デザインⅠA a	2	} 2 実技	* 環境デザインⅡA a	4	} 4 実技	64	
* 環境デザインⅠA b	2						
* 環境デザインⅠB a	2	} 2 実技	* 環境デザインⅡA b	4	} 4 実技		
* 環境デザインⅠB b	2						
* 環境デザインⅠC a	2	} 2 実技	* 環境デザインⅡB a	4	} 4 実技		
* 環境デザインⅠC b	2						
* 環境デザインⅠD a	2	} 2 実技	* 環境デザインⅡB b	4	} 4 実技		
* 環境デザインⅠD b	2						
* 環境デザインⅠE a	3	} 3 実技			19		
* 環境デザインⅠE b	3						
	11			8			
合 計						124	

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	30
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
日本服装史	2	講義	(1～4年次)				
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部写真史	2	講義					
						18 (注3)	
(2～4年次)							
(2～4年次)							
デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3～4年次)				
デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習					
* 構造演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	45	
* プレゼン演習Ⅱ	2	演習					
	4			10			
* 環境デザインⅠA a	2	} 2 実技	* 環境デザインⅡA a	4	} 4 実技	64	
* 環境デザインⅠA b	2		* 環境デザインⅡA b	4			
* 環境デザインⅠB a	2	} 2 実技	* 環境デザインⅡB a	4	} 4 実技		
* 環境デザインⅠB b	2		* 環境デザインⅡB b	4			
* 環境デザインⅠC a	2	} 2 実技			} 2 実技		
* 環境デザインⅠC b	2						
* 環境デザインⅠD a	2	} 2 実技			} 2 実技		
* 環境デザインⅠD b	2						
* 環境デザインⅠE a	3	} 3 実技			} 3 実技		
* 環境デザインⅠE b	3						
	11			8			
合 計						124	

一級建築士

免許登録要件取得の履修方法

免許登録要件を得るために下記科目を修得する必要があります。修得単位数によって免許登録時の実務経験の最短年数が異なります。

	科目名	履修学年	単位数
① 建築設計製図 (7単位以上)	① 製図演習	1	2
	① CAD演習	2	2
	① 環境デザイン演習 A	2	2
	① 環境デザインIB a	3	2
	① 環境デザインIE a	3	3
② 建築計画 (7単位以上)	② 環境デザイン概論	2	2
	② プレゼン演習 I	2	2
	② インテリアデザイン史	1～3	2
	② バリアフリー演習	1～3	1
③ 建築環境工学 (2単位以上)	③ エコロジカルプランニング演習	2	1
	③ ライティング演習	2	1
④ 建築設備 (2単位以上)	④ 建築設備	4	2
⑤ 構造力学 (4単位以上)	⑤ 構造演習	3	2
	⑤ 構造計画	4	2
⑥ 建築一般構造 (3単位以上)	⑥ 環境デザイン演習 B	2	3
⑦ 建築材料 (2単位以上)	⑦ 建築材料学	2～4	2
⑧ 建築生産 (2単位以上)	⑧ 建築生産 I	2～4	1
	⑧ 建築生産 II	4	1
⑨ 建築法規 (1単位以上)	⑨ 建築法規	2～4	1
⑩ その他 (適宜)	⑩ 環境デザイン基礎演習 B	1	2
	⑩ 環境デザイン演習 D	2	2
	⑩ 環境デザインIC a	3	2
	⑩ 環境デザインID a	3	2
	⑩ 環境デザインII A a	4	4
	⑩ 環境デザインII B a	4	4
総単位数 (①～⑩の単位数合計)			50

免許登録要件 実務経験の 最短年数 3年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 4年の場合
↓必修 30単位	↓必修 30単位
①より 7単位以上 修得	①より 7単位以上 修得
②より 7単位以上 修得	②より 7単位以上 修得
③より 2単位以上 修得	③より 2単位以上 修得
④より 2単位以上 修得	④より 2単位以上 修得
⑤より 4単位以上 修得	⑤より 4単位以上 修得
⑥より 3単位以上 修得	⑥より 3単位以上 修得
⑦より 2単位以上 修得	⑦より 2単位以上 修得
⑧より 2単位以上 修得	⑧より 2単位以上 修得
⑨より 1単位以上 修得	⑨より 1単位以上 修得
左記科目を50単位修得する必要あり (必修30単位+他20単位)	
左記科目を40単位修得する必要あり (必修30単位+他10単位)	

二級・木造建築士

免許登録要件取得の履修方法

免許登録要件を得るために下記科目を修得する必要があります。修得単位数によって免許登録時の実務経験の最短年数が異なります。

科目名	履修学年	単位数	免許登録要件 実務経験の 最短年数 0年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 1年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 2年の場合
			↓必修 10単位	↓必修 10単位	↓必修 10単位
① 建築設計 製図 (3単位以上)	① 製図演習	1	①より 3単位以上 修得	①より 3単位以上 修得	①より 3単位以上 修得
	① CAD演習	2			
	① 環境デザイン演習 A	2			
	① 環境デザインI B a	3			
	① 環境デザインI E a	3			
② 建築計画 ③ 建築環境工学 ④ 建築設備 (2単位以上)	② 環境デザイン概論	2	②③④より 2単位以上 修得	②③④より 2単位以上 修得	②③④より 2単位以上 修得
	② プレゼン演習 I	2			
	② インテリアデザイン史	1～3			
	② バリアフリー演習	1～3			
	③ エコロジカルプランニング演習	2			
	③ ライティング演習	2			
	④ 建築設備	4			
⑤ 構造力学 ⑥ 建築一般構造 ⑦ 建築材料 (3単位以上)	⑤ 構造演習	3	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得
	⑤ 構造計画	4			
	⑥ 環境デザイン演習 B	2			
	⑦ 建築材料学	2～4			
⑧ 建築生産 (1単位以上)	⑧ 建築生産 I	2～4	⑧より 1単位以上 修得	⑧より 1単位以上 修得	⑧より 1単位以上 修得
	⑧ 建築生産 II	4			
⑨ 建築法規 (1単位以上)	⑨ 建築法規	2～4	⑨より 1単位以上 修得	⑨より 1単位以上 修得	⑨より 1単位以上 修得
⑩ その他 (適宜)	⑩ 環境デザイン基礎演習 B	1	左記科目を 40単位修得する 必要あり (必修10単位+他 30単位)	左記科目を 30単位修得する 必要あり (必修10単位+他 20単位)	左記科目を 20単位修得する 必要あり (必修10単位+他 10単位)
	⑩ 環境デザイン演習 D	2			
	⑩ 環境デザインI C a	3			
	⑩ 環境デザインI D a	3			
	⑩ 環境デザインII A a	4			
	⑩ 環境デザインII B a	4			
総単位数 (①～⑩の単位数合計)		50			

一級建築士

免許登録要件取得の履修方法

免許登録要件を得るために下記科目を修得する必要があります。修得単位数によって免許登録時の実務経験の最短年数が異なります。

	科目名	履修学年	単位数
① 建築設計 製図 (7 単位以上)	① 製図演習	2	2
	① CAD演習	2	2
	① 環境デザイン演習 A	2	2
	① 環境デザインIB a	3	2
	① 環境デザインIE a	3	3
② 建築計画 (7 単位以上)	② 環境デザイン概論	2	2
	② プレゼン演習 I	2	2
	② インテリアデザイン史	1～3	2
	② バリアフリー演習	1～3	1
③ 建築環境工学 (2 単位以上)	③ エコロジカルプランニング演習	2	1
	③ ライティング演習	2	1
④ 建築設備 (2 単位以上)	④ 建築設備	4	2
⑤ 構造力学 (4 単位以上)	⑤ 構造演習	3	2
	⑤ 構造計画	4	2
⑥ 建築一般構造 (3 単位以上)	⑥ 環境デザイン演習 B	2	3
⑦ 建築材料 (2 単位以上)	⑦ 建築材料学	2～4	2
⑧ 建築生産 (2 単位以上)	⑧ 建築生産 I	2～4	1
	⑧ 建築生産 II	4	1
⑨ 建築法規 (1 単位以上)	⑨ 建築法規	2～4	1
⑩ その他 (適宜)	⑩ 環境デザイン基礎演習 B	1	2
	⑩ 環境デザイン演習 D	2	2
	⑩ 環境デザインIC a	3	2
	⑩ 環境デザインID a	3	2
	⑩ 環境デザインII A a	4	4
	⑩ 環境デザインII B a	4	4
総単位数 (①～⑩の単位数合計)			50

免許登録要件 実務経験の 最短年数 3 年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 4 年の場合
↓必修 30 単位	↓必修 30 単位
①より 7 単位以上 修得	①より 7 単位以上 修得
②より 7 単位以上 修得	②より 7 単位以上 修得
③より 2 単位以上 修得	③より 2 単位以上 修得
④より 2 単位以上 修得	④より 2 単位以上 修得
⑤より 4 単位以上 修得	⑤より 4 単位以上 修得
⑥より 3 単位以上 修得	⑥より 3 単位以上 修得
⑦より 2 単位以上 修得	⑦より 2 単位以上 修得
⑧より 2 単位以上 修得	⑧より 2 単位以上 修得
⑨より 1 単位以上 修得	⑨より 1 単位以上 修得
左記科目を 50 単位修得する必要あり (必修 30 単位 + 他 20 単位)	
左記科目を 40 単位修得する必要あり (必修 30 単位 + 他 10 単位)	

二級・木造建築士

免許登録要件取得の履修方法

免許登録要件を得るために下記科目を修得する必要があります。修得単位数によって免許登録時の実務経験の最短年数が異なります。

科目名	履修学年	単位数	免許登録要件 実務経験の 最短年数 0年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 1年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 2年の場合
			↓必修 10単位	↓必修 10単位	↓必修 10単位
① 建築設計製図 (3単位以上)	① 製図演習	2	①より 3単位以上 修得	①より 3単位以上 修得	①より 3単位以上 修得
	① CAD演習	2			
	① 環境デザイン演習 A	2			
	① 環境デザインI B a	3			
	① 環境デザインI E a	3			
② 建築計画 ③ 建築環境工学 ④ 建築設備 (2単位以上)	② 環境デザイン概論	2	②③④より 2単位以上 修得	②③④より 2単位以上 修得	②③④より 2単位以上 修得
	② プレゼン演習 I	2			
	② インテリアデザイン史	1～3			
	② バリアフリー演習	1～3			
	③ エコロジカルプランニング演習	2			
	③ ライティング演習	2			
	④ 建築設備	4			
⑤ 構造力学 ⑥ 建築一般構造 ⑦ 建築材料 (3単位以上)	⑤ 構造演習	3	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得
	⑤ 構造計画	4			
	⑥ 環境デザイン演習 B	2			
	⑦ 建築材料学	2～4			
⑧ 建築生産 (1単位以上)	⑧ 建築生産 I	2～4	⑧より 1単位以上 修得	⑧より 1単位以上 修得	⑧より 1単位以上 修得
	⑧ 建築生産 II	4			
⑨ 建築法規 (1単位以上)	⑨ 建築法規	2～4	⑨より 1単位以上 修得	⑨より 1単位以上 修得	⑨より 1単位以上 修得
⑩ その他 (適宜)	⑩ 環境デザイン基礎演習 B	1	左記科目を 40単位修得する 必要あり (必修10単位+他30単位)	左記科目を 30単位修得する 必要あり (必修10単位+他20単位)	左記科目を 20単位修得する 必要あり (必修10単位+他10単位)
	⑩ 環境デザイン演習 D	2			
	⑩ 環境デザインIC a	3			
	⑩ 環境デザインID a	3			
	⑩ 環境デザインII A a	4			
	⑩ 環境デザインII B a	4			
総単位数 (①～⑩の単位数合計)		50			

デザイン・工芸学科 工芸専攻

1. 教育内容

工芸は、人々の心や生活を豊かにするための造形芸術です。作り手は、技と自らの意思により、素材の特徴を生かしたものの作りが求められます。ものづくりの原点といえる領域であり、その表現や解釈は多様です。デジタル化が進む現代において、伝統を受け継ぎながらも新しい価値を生み出す可能性を持っています。

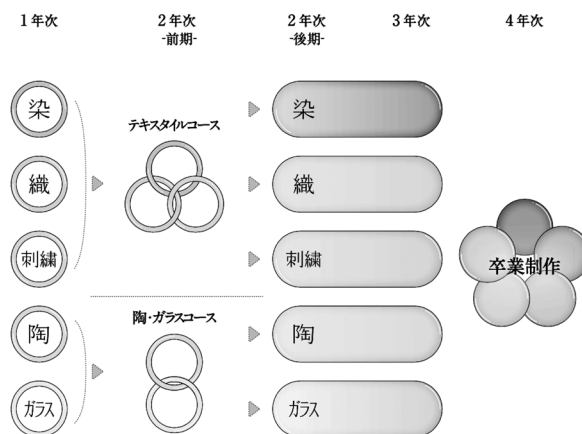
工芸専攻では、確かな技術と知識を習得し、伝統工芸から現代アートまで、生活・環境のため時代に即応した工芸作品を創造できる発想力・表現力を身につけます。また自らの手で根気よくものを作り上げていくことの大切さを学びながら、豊かな感性を育てていきます。工芸とデザインの双方を学び、専攻の垣根を超えた授業によって、これからの手仕事の可能性を見出し、柔軟な思考で新しい創作を開拓できる人材を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

●段階的なカリキュラム

工芸専攻では染・織・刺繍・陶・ガラスの5つの分野の工芸素材を扱います。

- 1年次 工芸基礎造形においてデッサンと立体の基礎を学びます。合わせてそれぞれの分野で扱う素材に触れ、技法の基礎を学ぶことによって素材の特性を理解します。
- 2年次前期 「テキスタイルコース」または「陶・ガラスコース」のいずれかを選択し、専門的な知識と技術・制作方法を学び、素材への理解を深めます。
- 2年次後期 染・織・刺繍・陶・ガラスの専門分野に分かれて学びます。
- 3年次 時間をかけて知識と技術を積み上げていくことで幅広く、かつ深く創作活動を展開していきます。
- 4年次 4年間の学びの集大成として独自のテーマに基づく卒業制作に取り組みます。



●多彩な授業科目

工芸専攻では、伝統の継承と、現代の創作のバランスを考慮した多彩な授業科目により、生活に根ざした工芸から表現を追求した美術まで、自由な創作活動が可能となります。また学外研修・工房見学・特別講師による講義・学外展等、新しい企画を加えて学生の創作意欲を刺激するとともに、社会との接点を見出していきます。

【必修または選択必修科目】

- 1年次：CG 演習、デザイン・工芸論、デザイン・工芸選択実技
- 2年次：工芸史、材料学
- 3年次：プレゼンテーション演習

【学科共通科目】

造形演習、現代造形論、空間演出論、文様史、テキスタイル表現論、伝統染織文化論、服装史など。

テキスタイルコース

染：型染め、注染、絞り染め、スクリーン捺染など、伝統から現代までの染色技法を学び、「布」の表現の可能性を広げ、独自の表現を追求します。

織：絣などの伝統技術からテキスタイルアートまで、繊維素材を用いた自由な表現を展開します。

刺繍：伝統的な日本刺繍を基本にマシン刺繍や海外の刺繍などを学び、ステッチによる独創的な創作を目指します。

陶・ガラスコース

陶：電動ろくろや多様な成型技法で粘土と釉（うわぐすり）などの素材を高温で焼成することにより造形表現を迫ります。

ガラス：吹きガラスやキルンワークなどの技法を用いて、ガラスの特性を生かした新しいガラス造形を展開します。

デザイン・工芸学科 工芸専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	工芸専攻では、伝統工芸から現代アートまで、時代に即した創作への発想力と表現力を身につけ、専門的な知識や高い技術力を備え、幅広く新しい視点で工芸を捉えることができる人材の育成を教育目標とする。
---------------------------------------	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
デザイン・工芸学科 工芸専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、豊かな発想力と表現力、技術力を育むカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	初歩的な工芸制作の基礎となる知識と技術を学び、かつ広く教養を身に付ける科目を配置する。
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	専門の実技以外に関心を広げていくことで、工芸分野についての表現の探求と思考を深める科目を配置する。
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	多様化する社会に柔軟に対応していけるコミュニケーション力を高める科目を配置する。
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	素材に対する知識と技術を身に付け、自身の表現の幅を広げ、作品に展開できる科目を配置する。

デザイン・工芸学科 工芸専攻

1. 教育内容

工芸は、人々の心や生活を豊かにするための造形芸術です。作り手は、技と自らの意思により、素材の特徴を生かしたものの作りが求められます。ものづくりの原点といえる領域であり、その表現や解釈は多様です。デジタル化が進む現代において、伝統を受け継ぎながらも新しい価値を生み出す可能性を持っています。

工芸専攻では、確かな技術と知識を習得し、伝統工芸から現代アートまで、生活・環境のため時代に即応した工芸作品を創造できる発想力・表現力を身につけます。また自らの手で根気よくものを作り上げていくことの大切さを学びながら、豊かな感性を育てていきます。工芸技術とデザインの双方を学び、手仕事と機械生産の可能性と限界を見極め、次世代の作家・デザイナーとして、柔軟な思考で新しい創作を開拓できる人材を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

●段階的なカリキュラム

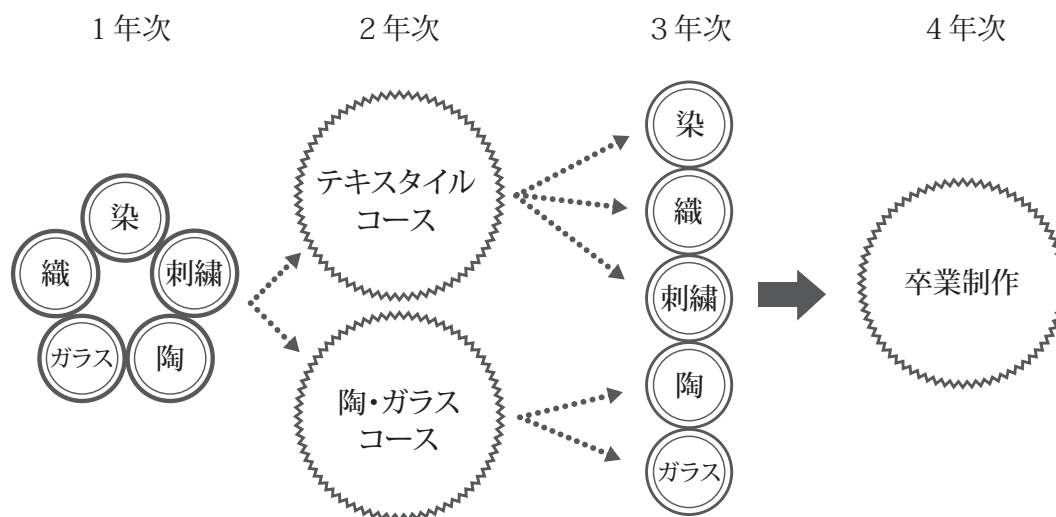
工芸専攻では染・織・刺繍・陶・ガラスの5つの分野の工芸素材を扱います。

1年次では、工芸基礎造形においてデッサンと立体の基礎を学びます。合わせてそれぞれの分野で扱う素材に触れ、技法の基礎を学ぶことによって素材の特性を理解します。

2年次で「テキスタイルコース」または「陶・ガラスコース」のいずれかを選択し、専門的な知識と技術・制作方法を学び、素材への理解を深めます。

3年次からは、それぞれのコースでさらに染・織・刺繍・陶・ガラスの専門分野に分かれて学びます。時間をかけて知識と技術を積み上げていくことで幅広く、かつ深く創作活動を展開していきます。

さらに4年次では、学びの集大成として独自のテーマに基づく卒業制作に取り組みます。



●多彩な授業科目

工芸専攻では、伝統の継承と、現代の創作のバランスを考慮した多彩な授業科目により、生活に根ざした工芸から表現を追求した美術まで、自由な創作活動が可能となります。また学外研修・工房見学・特別講師による講義・学外展等、新しい企画を加えて学生の創作意欲を刺激するとともに、社会との接点を見出していきます。

【必修または選択必修科目】

- 1年次：CG 演習、デザイン・工芸論、デザイン・工芸選択実技
- 2年次：工芸史、材料学
- 3年次：プレゼンテーション演習

【学科共通科目】

造形演習、現代造形論、空間演出論、文様史、テキスタイル表現論、伝統染織文化論、日本服装史など。

テキスタイルコース

- 染：型染め、注染、絞り染、シルクスクリーンなど、伝統から現代までの染色技法を学び、「布」のデザインの可能性を広げます。
- 織：拵などの伝統技術からテキスタイルアートまで、繊維素材を用いた自由な表現を展開します。
- 刺繍：伝統的な日本刺繍を基本にマシン刺繍や海外の刺繍などを学び、ステッチによる独創的な創作を目指します。

陶・ガラスコース

- 陶：電動ろくろや多様な成型技法で粘土と釉（うわぐすり）などの素材を高温で焼成することにより造形表現を迫ります。
- ガラス：吹きガラスやキルンワークなどの技法を用いて、ガラスの特性を生かした新しいガラス造形を展開します。

教育目標

工芸専攻では、伝統工芸から現代アートまで、時代に即した創作への発想力と表現力を身につけ、専門的な知識や高い技術力を備え、幅広く新しい視点で工芸を捉えることができる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・1年次は染・織・刺繍・陶・ガラスの五分野の体験を通して、工芸素材の特性を理解する。
- ・2年次はテキスタイルコース、陶・ガラスコースに分かれ、専門的な技術・技法を習得し、素材への理解を深め、応用力・表現力を高める。
- ・3年次からは5つの分野に分かれ、専門性を高め、幅広く深い創作活動を展開していく。
- ・4年次はそれまでに習得した専門知識と技術を基に、独自の発想により集大成としての卒業作品を制作する。卒業作品は、公の場で発表し、その成果を社会に問う。

芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技				
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技				
		デザイン・工芸論A	2	講義				
		デザイン・工芸論B	2	講義				
			8			0		
	選択必修				工芸史A（染織） 工芸史B（陶ガラス）	2 2	講義 講義	2 (注3)
				0				2
	選択		デザイン図法	2	講義	部 エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 印刷概論 ヴィジュアルデザイン概論 プロダクトデザイン概論 環境デザイン概論	1 1 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義
			コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B 色彩計画演習 素材演習A 素材演習B 素材演習C 素材演習D 素材演習E 素材演習F	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	部 バリアフリー演習 マーケティング論 人間工学論 デザインと法 展示計画論 デザイン心理学 デザインサーベイ論 部 インテリアデザイン史 部 環境論	1 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
						映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産 I 建築法規	2 2 2 2 2 1 1	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義
			造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習			
								(履修年次指定なし 注5)
専攻・領域 専門科目	必修	* 工芸基礎（染） * 工芸基礎（織） * 工芸基礎（刺繍） * 工芸基礎（陶） * 工芸基礎（ガラス） * CG演習	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 演習	▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース * テキスタイル(染・織・刺繍) * 染 I * 織 I * 刺繍 I 材料学A（繊維）	7 7 7 7 4	実技 実技 実技 講義	7 7 7 4 18
					▼陶・ガラスコース * 陶・ガラス * 陶 I * ガラス I 材料学B（陶ガラス）	7 7 7 4	実技 実技 講義	7 7 4 18
			12					
専攻・領域 専門科目	選択必修							
			0					0

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. テキスタイルコースは「工芸史A（染織）」を、陶・ガラスコースは「工芸史B（陶ガラス）」を選択履修すること。
 2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位数	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						8	30
						2	
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		94
服装史	2	講義	(1～4年次)				
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部写真史	2	講義					
(2～4年次)						20 (注4)	
(2～4年次)							
デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3～4年次)				
デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習					
プレゼンテーション演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	42	
	2			10		64	
▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース			▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース			22	
* 染ⅡA	7	} 14 実技 実技 実技 実技 実技	* 染Ⅲ	8	} 8 実技 実技 実技	22	
* 染ⅡB	7		* 織Ⅲ	8			
* 織ⅡA	7		* 刺繍Ⅲ	8			
* 織ⅡB	7						
* 刺繍ⅡA	7						
* 刺繍ⅡB	7						
	14			8			
▼陶・ガラスコース			▼陶・ガラスコース				
* 陶ⅡA	7	} 14 実技 実技 実技 実技	* 陶Ⅲ	8	} 8 実技 実技		
* 陶ⅡB	7		* ガラスⅢ	8			
* ガラスⅡA	7						
* ガラスⅡB	7						
	14			8			
合計						124	

注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. テキスタイルコースは「造形演習A・B」を2年次、陶・ガラスコースは「造形演習C・D」を2年次に履修することが望ましい。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						8	30
						2	
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		94
日本服装史	2	講義	(1~4年次)				
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部写真史	2	講義					
(2~4年次)						20 (注4)	
(2~4年次)							
デザイン・工芸連携プロジェクトA	1	演習	(3~4年次)				
デザイン・工芸連携プロジェクトB	2	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトC	3	演習					
デザイン・工芸連携プロジェクトD	4	演習					
プレゼンテーション演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	42	
	2			10			
▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース			▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース			64	
* 染ⅡA	7	} 14 実技	* 染Ⅲ	8	} 8 実技	22	
* 染ⅡB	7		* 織Ⅲ	8			
* 織ⅡA	7		* 刺繍Ⅲ	8			
* 織ⅡB	7						
* 刺繍ⅡA	7						
* 刺繍ⅡB	7						
	14			8			
▼陶・ガラスコース			▼陶・ガラスコース				
* 陶ⅡA	7	} 14 実技	* 陶Ⅲ	8	} 8 実技		
* 陶ⅡB	7		* ガラスⅢ	8			
* ガラスⅡA	7						
* ガラスⅡB	7						
	14			8			
合 計						124	

注4. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. テキスタイルコースは「造形演習A・B」を2年次、陶・ガラスコースは「造形演習C・D」を2年次に履修することが望ましい。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす								
	語学力								
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A * デザイン・工芸選択実技B デザイン・工芸論A デザイン・工芸論B	2 2 2 2	実技 実技 講義 講義					
		選択必修			工芸史A (染織) 工芸史B (陶ガラス)	2 2	2 2 (注3)	講義 講義	
	選択	デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 部 印刷概論 部 ヴィジュアルデザイン概論 部 プロダクトデザイン概論 部 環境デザイン概論	1 1 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義	
		コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B 色彩計画演習 素材演習A 素材演習B 素材演習C 素材演習D 素材演習E 素材演習F	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	バリアフリー演習 マーケティング論 人間工学論 デザインと法 展示計画論 デザイン心理学 デザインサーベイ論 部 インテリアデザイン史 部 環境論	1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
					映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産 I 建築法規	2 2 2 2 2 1 1	2 2 2 2 2 1 1	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義	
		造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	(履修年次指定なし 注5)				
		必修	* 工芸基礎 (染) * 工芸基礎 (織) * 工芸基礎 (刺繍) * 工芸基礎 (陶) * 工芸基礎 (ガラス) * CG演習	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 演習	▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース * 染 I * 織 I * 刺繍 I 材料学A (繊維)	5 5 4 4	5 5 4 4	実技 実技 実技 講義
			▼陶・ガラスコース * 陶 I * ガラス I 材料学B (陶ガラス)	7 7 4	7 7 4	実技 実技 講義			
		選択必修							
			専攻・領域 専門科目						
			0			0			

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. テキスタイルコースは「工芸史A (染織)」を、陶・ガラスコースは「工芸史B (陶ガラス)」を選択履修すること。
 2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						8	30
						2	
			構造計画 建築設備 建築生産 II	2 2 1	講義 講義 講義		
日本服装史 文様史 伝統染織文化論 テキスタイル表現論 空間演出論 現代造形論 広告論 部 写真史	2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	(1~4年次)			20 (注4)	94
(2~4年次)							
(2~4年次)							
プレゼンテーション演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	42	64
	2			10			
▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース * 染 II A * 染 II B * 織 II A * 織 II B * 刺繍 II A * 刺繍 II B	7 7 7 7 7 7	実技 実技 実技 実技 実技 実技	▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース * 染 III * 織 III * 刺繍 III	8 8 8	実技 実技 実技	22	124
▼陶・ガラスコース * 陶 II A * 陶 II B * ガラス II A * ガラス II B	7 7 7 7	実技 実技 実技 実技	▼陶・ガラスコース * 陶 III * ガラス III	8 8	実技 実技		
				合計		124	

注4. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. テキスタイルコースは「造形演習A・B」を2年次、陶・ガラスコースは「造形演習C・D」を2年次に履修することが望ましい。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

アート・デザイン表現学科

1. 教育内容

アート・デザイン表現学科は、アートとデザインの領域を横断、融合し、他分野との中間領域を開拓しながら、独創的な発想力と表現力を培うことを教育目標としています。時代の変化に柔軟に対応できる深い知識と斬新な感性を育み、コミュニケーション能力に長け、国際社会の幅広い分野で創造的に活躍できる人材を育成します。芸術表現や造形表現に関する知識と基本的な技能や技法を習得し、人間生活や人間環境に関する基礎的な知識の理解、創造性や独自性のある表現力、芸術関連分野と社会を結ぶ実践的な企画力や管理・運営能力、共同制作能力を身に付け、人間中心の視点からアートとデザインを捉え、時代の変化に柔軟に対応し、多様化する社会の幅広い分野で活躍できる人材や専門家を養成します。

2. カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、アートとデザインに関する基礎を学ぶための導入科目として、「アート・デザイン基礎演習A」、「宇宙・人間・アート」、「アート・デザイン表現論」を必修科目として配置します。各領域に対する基本的な理解を深めるための科目として、「アート・デザイン表現演習I」を配置し、領域間コラボレーションを行う「アート・デザイン表現演習II」、また5領域全体でプロジェクトに取り組む「アート・デザイン表現演習III」を必修科目としています。アート・デザイン表現学科のカリキュラムの大きな特徴として、学科共通科目を1年次から3年次に渡って実施します。1年次では、領域に分かれ各専門領域の基礎を学びます。2年次では、他領域の専門科目を学ぶことができる演習科目があります。3年次では、コミュニケーションとコラボレーションを重視した領域間、学科全体で実施する演習科目を配置し、領域を超えた中間領域が開拓できるカリキュラム編成になっています。

アート・デザイン表現学科 教育目標・人材の養成に関する目的	アート・デザイン表現学科は、アートとデザインの領域を横断、融合し、他分野との中間領域を開拓しながら、独創的な発想力と表現力を培うことを教育目標としている。人間中心の視点からアートとデザインを捉え、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識としなやかな感性を持ち、多様化する社会の幅広い分野で活躍できる人材や専門家の養成を目的とする。
----------------------------------	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目 (学科共通科目)	
アート・デザイン表現学科	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	アートとデザインに関する基本となる知識と、時代に沿った様々な技術や技法を理解し、アートとデザイン分野における幅広い活用について理解する科目を配置する。	1年次 【講】 宇宙・人間・アート 【講】 アート・デザイン表現論 【演】 アート・デザイン表現基礎演習 A 【選演】 アート・デザイン表現基礎演習 B 【選演】 アート・デザイン表現基礎演習 C 【選演】 アート・デザイン表現基礎演習 D
	【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。	アートとデザインを中心に他領域、他分野とのコラボレーションを通して、専門領域のみならず様々な立場の人と協働しながら発想力、表現力、実践力を養うための科目を配置する。	3年次 【演】 アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】 アート・デザイン表現演習Ⅲ
		時代を経ても変わらない人間の本質と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメンソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	人間中心の視点に立ち、環境やテクノロジーの変化を捉え対応することができる能力を身に付け、創造的、独創的な発想力を養うための科目を配置する。	
	【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	5領域の様々な融合分野と多様な他分野との中間領域を創出し、環境や社会の変化に柔軟に対応できる思考力、判断力を養うための科目を配置する。	3年次 【選演】 アート・デザイン表現演習Ⅲ
【技能・表現】 (創作力・実装力)	領域横断型の実践的な学びを通して、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	5領域の其々の特性を理解し、表現のための技法を習得し、多様な分野との中間領域を開拓し創造的な活動に活用できる科目を配置する。	2年次 【選演】 アート・デザイン表現演習Ⅰ	

アート・デザイン表現学科

1. 教育内容

アート・デザイン表現学科では、女性の感性を生かし、アートとデザインの領域を横断、融合して、クリエイティブな発想力と独創的な表現力を培うことを教育の目標としています。時代の変化に柔軟に対応できる深い知識と斬新な感性を育み、コミュニケーション能力に長け、国際社会の幅広い分野で創造的に活躍できる人材を育成します。芸術表現や造形表現に関する知識と基本的な技能や技法を習得するとともに、人間生活や人間環境に関する基礎的な知識の理解、創造性や独自性のあるビジュアル表現力、芸術関連分野における人間と社会を結ぶ実践的な企画力や管理・運営能力、共同制作能力を、都心のメリットを最大限に生かしながら養成します。

2. カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、アートとデザインに関する基礎を学ぶ科目群であり、各領域を学ぶための導入科目として、「アート・デザイン表現基礎演習A・B・C・D」、「宇宙・人間・アート」、「アート表現論」を必修科目として配置するとともに、各領域に対する基本的な理解を深めるための科目として、「アート・デザイン表現演習Ⅰ」、「アート・デザイン表現演習Ⅱ」を必修科目としています。

アート・デザイン表現学科のカリキュラムの大きな特徴として、学科共通科目を1年次から3年次に渡って実施します。まず1年次では、領域に分かれ専門教育に入る前に、アートとデザインに関する基礎を学びます。2年次では、コミュニケーションを重視した学科全体で実施する演習科目、3年次では、他領域の専門科目を学ぶことができる演習科目があります。カリキュラムの上でもコミュニケーションとコラボレーションを重視した編成になっています。

教育目標

アート・デザイン表現学科は、ヒューマンティリーの視点からアートとデザインを捉え、双方の領域を横断・融合した活動を通して、斬新な感性とクリエイティブな発想、独創的な表現力を養い、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識、コミュニケーション能力を持った、国際社会の幅広い分野で創造的に活躍できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、各領域のカリキュラムと学科共通科目を通して、アートとデザインに関する基礎を学ぶとともに、コミュニケーションとコラボレーションをキーワードとし、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成する。

アート・デザイン表現学科 メディア表現領域

1. 教育内容

メディア表現領域の授業では、メディア表現の多様な素養とアートとデザイン分野における幅広い知識を学びます。他領域、他分野とのプロジェクトやコラボレーションに取り組み、発想力やコミュニケーション力を鍛え、表現力、実践力を養います。新しい知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、先端的なテクノロジーや表現ツールを活用して、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けます。様々な分野との中間領域の開拓や創造的な活動に発展させることができる教育を行い、独創的な表現ができるアーティスト、デザイナー、クリエイターを育成することを目標にします。

2. カリキュラム編成の特徴

メディア表現領域では、アートとデザインの基礎を重視した上で、先端的なテクノロジーを活用した表現の教育を行うと共に、アート・デザイン・エンターテインメントの各分野での表現に必要な専門科目でカリキュラムを構成しています。

1年次では、「アート・デザイン表現基礎演習A」でICT活用の基礎とコンプライアンスについて学んだ後、メディア表現の基礎となる様々な技術や表現を学びます。「メディア表現演習01」で実写を中心とした映像表現、「メディア表現演習02」でグラフィックデザインの基礎と各種発想法を、「メディア表現演習03」では音楽・SE・声などメディア作品に重要な要素であるサウンド制作を行い、「メディア表現演習04」でリアル空間のマテリアルやスケール感を理解した上で「メディア表現演習05」仮想空間の概念を学び3DCGでの空間表現を行いリアルとバーチャルを繋げます。また「メディア表現演習06」ではUI/UXデザインを含むスクリーンベースのデザインを行い、「メディア表現演習07」プログラムを学び、インタラクティブな体験型コンテンツを制作します。

2年次では、「メディア表現演習08」で様々なアニメーション表現を行い、「メディア表現演習09」でキャラクターデザインと商品企画を、そして「メディア表現演習10」「メディア表現演習11」「メディア表現演習12」では新たな学びと共に領域を超えた複合的な表現にチャレンジします。

3年次では、「アート・デザイン表現演習Ⅱ」「アート・デザイン表現演習Ⅲ」「プロジェクト&コラボレーション演習」各授業で、他領域や、企業や他大学、地域などとコラボレーションを通して、実践力とコミュニケーション力を養います。「メディアクリエイション演習01」「メディアクリエイション演習02」「メディアクリエイション演習03」では、各自の専門性を高め、4年次は集大成となる「卒業制作」を行います。

アート・デザイン表現学科 メディア表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	メディア表現領域では、人間の感覚を理解し、グローバルに変わり続けるメディア環境の中で適切な情報・表現を選び使う能力を養い、多様な表現への挑戦と時代や社会の状況に対応できるクリエイティブな人材の育成を教育目標とする。
--	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
アート・デザイン表現学科 メディア表現領域 専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。	メディア表現領域においては、教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	メディア表現の多様な素養とアートとデザイン分野における幅広い知識を学び、メディア表現を行う上で必要となる表現技術・技法を学ぶ科目を配置する。
	【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。	メディア表現領域ならではの表現技法を活かし、他領域、他分野とのプロジェクトやコラボレーションに取り組み、発想力やコミュニケーション力を鍛え、表現力を高め、実践力を養うための科目を配置する。
	【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	新しい知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、先端的なテクノロジーや表現ツールを活用して、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けるための科目を配置する。
	【技能・表現】 (創作力・実装力)	領域横断型の実践的な学びを通して、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	メディア表現の多様性を理解し、人間中心の視点からテクノロジーを自在に活用できる力を養い、多様な分野との中間領域を開拓し創造的な活動に活用できる科目を配置する。

アート・デザイン表現学科 メディア表現領域

1. 教育内容

メディア表現領域では、時代を敏感に感じ、社会の様々な変化に柔軟に対応でき、創造的で表現力のある人材を育成していきます。物語性のあるアニメーション、キャラクターデザイン、ゲームなどのコンテンツ作りや映像制作、スクリーンベースの広告デザイン、アートアニメーション、先端テクノロジーを用いたインタラクティブな作品制作を通して多様なメディア表現力を身につけていきます。企業や研究所と連携した現実のプロジェクトでの実践的な経験を通して社会で求められるクリエイティビティを理解し、国際社会の中でグローバルに活躍できるメディアクリエイターとして次世代のアートとデザインをリードできる斬新な発想と感性を持った表現者を養成することを目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

メディア表現領域では、アートとデザインの基礎を重視した上で、先端的なメディア・テクノロジーを前提とした教育を行うと共に、メディアデザインとメディアアートに必要な専門科目でカリキュラムを構成しています。

1年次では、アート・デザイン表現学科共通科目「アート・デザイン表現基礎演習A・B・C・D」によって絵画や立体、デザインや工芸を学び、「コミュニケーションデザイン演習A」でWebデザイン、「コミュニケーションデザイン演習B」で紙を媒体としたグラフィックデザイン、「映像基礎演習」で実写を中心とした映像の基本を身に付け、「空間基礎演習」で空間のスケール感を理解することによってメディア表現の基礎を習得します。

2年次以降は、ストーリーを重視したアニメーションやサウンドデザイン、キャラクターデザイン、グラフィックデザイン、Web制作、インタラクティブ表現の基礎を理解し、マネジメント、プロデュース、演出などの理論を学びます。また、プロジェクトを通してコラボレーションの方法プレゼンテーションの手法を身につけると同時に、実社会で必要なデジタル知的財産の問題やコンテンツプロデュースやメディアマネージメントなどについても考えていきます。メディア表現を理論と実践から学び、発想を重視したメディアデザインの企画や表現、独創的なメディアアート作品制作など各自のオリジナルな表現を追究し、卒業制作で集大成します。

教育目標

メディア表現領域では、人間の五感を理解し、人間生活の原点を考え、グローバルに変わり続けるメディア環境の中で適切な情報・表現を選び使う能力を養い、様々な表現への挑戦と時代や社会の状況に対応できるクリエイティブな人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、コミュニケーションデザイン、実写を中心とした映像、スケール感を理解する空間などメディア表現の基礎を習得する。
- ・ 2年次は、ストーリーを重視したアニメーション、サウンドデザイン、キャラクターデザイン、Webなどの広告デザイン、インタラクティブ表現など多様なメディア表現を理解し身につける。
- ・ 3年次は、各自の将来を展望し、メディアデザイン、メディアアート表現を深く追究する。また、実社会とのプロジェクトを通してクリエイティブな提案を行うことで、コラボレーション手法を身につけ、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 4年次は、発想を重視したメディアデザインの企画や表現、独創的なメディアアート作品制作など各自のオリジナル表現を追究する。ゼミに分かれて、各自が設定したテーマに最適な表現手法を選択・融合して卒業制作を行う。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 メディア表現領域 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部共通科目	ファンデーション	必女子美基礎講座 必女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす								
	語学力								
学科専門科目	必修	*アート・デザイン表現基礎演習A 宇宙・人間・アート アート・デザイン表現論 メディア概論	2 2 2 2	演習 講義 講義 講義	*アート・デザイン表現演習 I デジタル知的財産概論	2 2	演習 講義		
			8			4			
		選択必修				メディア映像概論 ノンリニアナラティブ メディアアート概論 キャラクター文化論 国際交流文化概論A 国際交流文化概論B	2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義	
							8		
	選択		*アート・デザイン表現基礎演習B *アート・デザイン表現基礎演習C *アート・デザイン表現基礎演習D ヒーリング表現概論 ウェルビーイングとアート論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論 スペース表現概論 空間芸術史 知覚・感覚概論 ミュージアムスタディ概論 クリエイティブ・プロデュース概論	1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)			
						絵本芸術論 ファッションマネジメント・文化論 ミュージアムメディア概論	2 2 2	講義 講義 講義	
		専攻・領域 専門科目	必修	*メディア表現演習01 *メディア表現演習02 *メディア表現演習03 *メディア表現演習04 *メディア表現演習05 *メディア表現演習06 *メディア表現演習07	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	*メディア表現演習08 *メディア表現演習09 *メディア表現演習10 *メディア表現演習11 *メディア表現演習12 *メディアクリエイション基礎演習01 *メディアクリエイション基礎演習02	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習
					14			14	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。

注3. 4単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ * アート・デザイン表現演習Ⅲ	2 4	演習 演習				18	94
	6						
(2～4年次)							
メディア文化論特講	2	講義				12	
メディアマネジメント論	2	講義					
	(注3) 4						
						38	
						8 (注4)	
(2～4年次)							
エビデンスベース入門	2	講義	(3～4年次)			56	
心と身体の科学	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
空間思想論	2	講義					
* プロジェクト&コラボレーション演習	4	演習	* メディアクリエイション実習	5	実技 実技	56	
* メディアクリエイション演習01	2	演習	* 卒業制作	10			
* メディアクリエイション演習02	2	演習					
* メディアクリエイション演習03	5	演習					
	13			15			
合 計						124	

芸術学部 アート・デザイン表現学科 メディア表現領域 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
	語学力						
学科 共通科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 メディア概論	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I	2	演習
			14			2	
	選択必修				メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 キャラクター文化論 国際交流文化概論A 国際交流文化概論B	2 2 2 2 2 2	8 (注3) 講義
						8	
			ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義	(1~4年次)	
学科 専門科目	選択				カラーセラピー概論 絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論 伝統・先端 ファッション文化論 子ども発達論 現代文化概論 映像文化概論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
専攻・領域 専門科目	必修	* コミュニケーションデザイン演習A * コミュニケーションデザイン演習B * 映像基礎演習 * 空間基礎演習	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	* メディアアート演習 I * メディアデザイン演習 I * メディア空間演習 * アートアニメーション演習 * サウンドデザイン演習 * ストーリー表現演習 * キャラクターデザイン演習	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習
	選択必修		8			14	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 4単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注5. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ デジタル知的財産概論	2 2	演習 講義				20	40
	4						
メディア文化論特講 メディアマネジメント論 コンテンツプロデュース論	2 2 2	} 4 講義 (注4)				12	
	4						
(2～4年次)						8 (注5)	94
芸術療法概論 空間デザイン概論 アンケート調査・分析法 生態学 心とアートの心理学	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(3～4年次)				54
* メディアクリエイション演習 * プロジェクト&コラボレーション演習	5 4	演習 演習	* メディアクリエイション実習 * 卒業制作	7 10	実技 実技	48	
	9			17			
* メディアアート演習ⅡA * メディアアート演習ⅡB * メディアデザイン演習ⅡA * メディアデザイン演習ⅡB	6 6 6 6	} 6 演習				6	
	6						
合 計						124	

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域

1. 教育内容

ヒーリング表現領域では、アートとデザインを通じて、ウェルビーイング*を追求し、将来の豊かな社会を構想し、その実行に必要な専門的な知識、対話力、発想力、企画力を備え、表現に展開できる人材や専門家の育成を教育目標としています。

女子美術大学にアート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域が開設されたのは2010年のことです。社会に求められている「癒し」を、アートとデザインを通じて追求していく日本で初めての領域でした。癒しとは何か？アートとデザインは、何をすることができるのか？これらの問いに取り組みながら、教育・研究と実践を重ねてきました。

この間、「癒し」は消費物として一般化し、記号化し、社会に飽和していきました。「癒し」は多義性を帯び、その在り方、捉えられ方も、この世界と同じように変化していきます。医療、福祉、教育などの人と人が交わる場にアート・デザインを届ける「ヒーリングアート」。人とひと、人と社会の間に持たれる関係性をアートアクティビティーで育む「リレーショナルデザイン」。すべての人に開かれた「絵本表現」。アートとデザイン、双方の視点からアプローチする「ぬいぐるみ表現」。そして、これらのクリエイティブと伴走していく「キャラクターデザイン」と「イラストレーション」。

ヒーリング表現領域は、現象としての癒しへの洞察を深め、アートとデザインを通じて癒しの先にあるウェルビーイングを目指します。

*ウェルビーイング (well-being)：人が身体的、精神的、社会的に充足した状態。それが持続すること。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次]

アートとデザインの幅広い知識を学び、多様な素材と手法に触れ、「癒し」という概念を多角的に捉えていくための科目を設置します。

[2年次]

領域横断型の授業を通じて他領域への理解を深めながら、自律的に学び続けられる力を養う科目を設置します。

[3年次]

社会課題と自己課題を発見し、それに取り組んでいける柔軟な思考力、発想力、判断力を身に付ける科目を設置します。また、他領域との協働を通じて中間領域を開拓する科目を設置します。

[4年次]

ヒーリング表現領域の専門性に立って創造的な活動ができる科目を設置します。

また、ヒーリング表現領域の専門科目を設置します。これは実技系科目と相互補完していくものであり、知識を深め、理論的に考察を積み上げていく力を身につけるためのものです。

1年次開設科目：「ヒーリング表現概論」「ウェルビーイングとアート論」

2年次開設科目：「キャラクター文化論」「絵本芸術論」

3年次開設科目：「芸術社会論」「エビデンスベース入門」「芸術療法概論」

アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	ヒーリング表現領域では、アートとデザインを通じて、人がより良く生きることを追求し、将来の豊かな社会を構想し、その実行に必要な専門的な知識、対話力、発想力、企画力を備え、表現に展開できる人材や専門家の育成を教育目標とする。
---	--

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域 専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	アートとデザインの幅広い知識を学び、多様な素材と手法に触れ、「癒し」という概念を多角的に捉えていくための科目を設置する。	1 年次 【演】アート・デザイン表現基礎演習 A 【演】基礎ドローイング演習 【演】基礎マテリアル演習 【演】イラストレーション演習 I 【演】キャラクターデザイン演習 I 【講】ヒーリング表現概論 【講】アート・デザイン表現論 【講】宇宙・人間・アート 2 年次 【演】スタートアップ演習 【講】キャラクター文化論 【講】絵本芸術論 3 年次 【講】エビデンスベース入門 【講】芸術療法概論
	【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心を持ちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。 時代を経ても変わらない人間の本质と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメンソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	領域横断型プロジェクトやゼミナール形式の授業を通じて他領域への理解を深めながら、自律的に学び続けられる力を養う科目を設置する。	1 年次 【演】コミュニケーションデザイン演習 2 年次 【演】アート・デザイン表現演習 II 【演】イラストレーション演習 II 【演】キャラクターデザイン演習 II 【演】ヒーリング・アート演習 I 【演】絵本表現演習 I 【演】ぬいぐるみ表現演習 I 3 年次 【選演】ヒーリング・アート演習 II 【演】プロジェクトプロデュース演習
	【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	社会課題と自己課題を発見し、それに取り組んでいける柔軟な思考力、発想力、判断力を身に付ける科目を配置する。	1 年次 【講】ウェルビーイングとアート論 【演】ナラティブ発見演習 3 年次 【演】アート・デザイン表現演習 III 【選演】リレーショナルデザイン演習 【実】ヒーリング表現 I 【講】芸術社会論
	【技能・表現】 (創作力・実装力)	領域横断型の実践的な学びを通して、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	他領域との協働を通じて中間領域を開拓し、ヒーリング表現領域の専門性に立って創造的な活動ができる科目を配置する。	2 年次 【演】アート・デザイン表現演習 I 3 年次 【選演】絵本表現演習 II 【選演】ぬいぐるみ表現演習 II 4 年次 【実】ヒーリング表現 II A 【実】ヒーリング表現 II B 【実】ヒーリング表現 II C 【実】ヒーリング表現 II D 【実】ヒーリング表現 III A 【実】ヒーリング表現 III B 【実】ヒーリング表現 III C 【実】ヒーリング表現 III D 【実】卒業制作

アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域

1. 教育内容

「現代社会が何故、ヒーリングを求めているのか」、「現代人にとってヒーリングとは何か」ということを、アートとデザインそれぞれの視点で捉え、実技による創作と理論の両面から探求します。

今、私たちの生活の中で「癒し」という言葉が頻繁に使われています。それは見方を変えれば、ストレスが溜まりやすい社会状況が、深刻化している表れであるといえるでしょう。心地よい空間、潤いのある空間で生活を営むこと、リラックスできる環境をつくることは、私たちの生活において精神の安らぎを得るために不可欠な要素であり、そこにはアートやデザインの存在が大切な役割を果たしています。

ヒーリング表現領域では、現代のストレス社会で求められている「ヒーリング」をテーマに、キャラクターデザイン、絵本創作、絵画、壁画、コンピュータグラフィック、ぬいぐるみ、玩具・遊具のデザイン、ユニバーサルアートなどの作品制作や空間デザイン、アート・アクティビティのワークショップ、社会と連携した実践的なプロジェクトの体験を通して、アートとデザインが社会とどの様に関わり、そして役立てることが出来るのかを考えます。また、医療機関、介護福祉施設、そのほかの様々な公共機関、企業などとのコラボレーションにより、共同研究と共同開発も積極的に進めていきます。

そして、ソーシャル・インクルージョンの考えを踏まえ、ヒーリングや福祉を目的としながら、各自の得意な表現を活かして質の高い作品づくりが出来る人材と、公共空間でのヒーリング・アート、ヒーリング・デザインのコーディネイトが出来る企画力を持った人材を育成し、社会への進出をはかることを教育目標とします。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

前期では、アート・デザイン表現学科共通の基礎実技として、コンピュータグラフィックス、絵画、工芸、立体の基礎表現を学びます。後期では、壁画技法を主とした平面表現、木工を主とした立体素材の表現、キャラクターデザインの基礎を徹底して学びます。またワークショップから、ソーシャル・インクルージョンの考えを学ぶと同時に、コミュニケーション能力と問題解決の手法を習得します。

また、アート・デザイン表現の根源となる観察描写を通年で行います。

2年次

空間デザイン、コンピュータグラフィックスによるグラフィックデザイン、壁画制作の実践、絵本創作の基礎、装丁技法の実習から創作表現の基本を身につけていくと同時に、ヒーリングについて各自が独自の視点とテーマを持って考えていきます。

3年次

学外の様々なプロジェクトやワークショップに実際に取り組むことにより、社会との連携を実践的に学びます。グラフィック表現（キャラクターデザイン、絵本創作、壁画制作）と立体表現（パッケージデザイン、玩具のデザイン、ぬいぐるみ）の実技を選択し、そこから専門性を深めていきます。

4年次

前期では、グラフィック表現と立体・空間表現、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルアート、アート・アクティビティをベースとした専門実技を各自選択し、卒業制作の方向性を定めていきます。後期では、ゼミ形式による卒業制作に組み込み、4年間の学びの集大成として、独自のテーマに基づく研究成果の発表を行います。

※実技授業に加え、理論と知識を深めるため、ヒーリング表現領域の専門科目として、実技と関連した特色ある講義を開設します。

1年次は、「ヒーリング・デザイン概論」、「癒しの文化論」

2年次は、「キャラクター文化論」、「カラーセラピー概論」、「絵本芸術論」、「子どもの福祉デザイン概論」

3年次は、「芸術療法概論」、「空間デザイン概論」、「アンケート調査・分析法」など実技内容と関連した、専門性を深める講義を開設します。

このような授業体系を通じて、日常生活、社会生活の中で、人々が『癒し』を求める現代社会にあって、アートとデザインは何ができるのか？それを作品制作と理論研究から探っていきます。

教育目標

ヒーリング表現領域では、ヒーリングや福祉を目的としながら、専門的な理論、知識と技術、独自の発想力と創造力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけ、各自の得意な表現を活かして質の高い作品づくりができる人材、公共空間でのヒーリング・アート、ヒーリング・デザインのコーディネイトができる企画力を持った人材、アートアクティビティの実践能力を身につけた人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・1年次では、平面素材・立体素材の表現、キャラクター表現の基礎を徹底して学び、またアート・アクティビティのワークショップを通して、ソーシャル・インクルージョンの考えを学ぶと同時に、コミュニケーション能力と問題解決の手法を習得する。
- ・2年次は、空間デザイン、コンピュータグラフィックス、壁画制作技法、絵本創作の基礎、装丁技法の実習から創作表現の基本を身につけていくと同時に、ヒーリングについて各自が独自の視点とテーマを持って学習を進める。
- ・3年次は、学外の様々なプロジェクトに実際に取り組むことにより、社会との連携を実践的に学ぶ。グラフィック表現（キャラクターデザイン、絵本創作、壁画制作）と立体表現（形態表現、子供の道具、おもちゃのデザイン、ぬいぐるみ）の実技を選択し、そこから専門性を深めていく。
- ・4年次は、グラフィック表現と立体・空間表現、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルアート、アート・アクティビティをベースとした専門実技を各自選択し、プレゼンテーション能力を高めるための発表会を重ね、自己の専門性を高め、研究を追求する。ゼミ形式による卒業制作に組み、4年間の学びの集大成として、独自のテーマに基づく研究成果の発表を行う。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ	2	演習				28	
* アート・デザイン表現演習Ⅲ	4	演習					
エビデンスベース入門	2	講義					
芸術社会論	2	講義					
芸術療法概論	2	講義					
	12						
(2～4年次)						4	38
(2～4年次)						6 (注4)	94
メディア文化論特講	2	講義	(3～4年次)				
メディアマネージメント論	2	講義					
心と身体の科学	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
空間思想論	2	講義					
* ヒーリング表現Ⅰ	3	実技	* 卒業制作	10	実技	44	
* プロジェクトプロデュース演習	3	演習					
	6			10			
* 絵本表現演習Ⅱ	3	演習	* ヒーリング表現ⅡA	3	実技	12	56
* ぬいぐるみ表現演習Ⅱ	3		* ヒーリング表現ⅡB	3			
* リレーショナルデザイン演習	3		* ヒーリング表現ⅡC	3			
* ヒーリング・アート演習Ⅱ	3		* ヒーリング表現ⅡD	3			
	6		* ヒーリング表現ⅢA	3	実技		
			* ヒーリング表現ⅢB	3			
			* ヒーリング表現ⅢC	3			
			* ヒーリング表現ⅢD	3			
	6			6			
合計						124	

芸術学部 アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科 専門科目	学科 共通科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I キャラクター文化論 カラーセラピー概論	2 2 2	演習 講義 講義
		選択必修				絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論	2 2	} 2 講義 (注3) } 2 講義 (注4) 4
	選択	メディア概論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)			
	選択				メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 ファッション文化論 子ども発達論 現代文化概論 映像文化概論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
	専攻・領域 専門科目	必修	* 素材表現演習A * 素材表現演習B * キャラクター制作基礎演習 * ワークショップ演習	2 2 2 3	演習 演習 演習 演習	* ヒーリング・デザイン実習A * ヒーリング・デザイン実習B * 絵本制作基礎演習 * 装丁技法演習 * 壁画技法演習 * コンピュータグラフィックス演習	2 2 3 1 4 1	実技 実技 演習 演習 演習 演習
選択必修								

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

アート・デザイン表現学科 ファッション表現領域

1. 教育内容

本領域では、多様化する生活・コミュニティー空間、絶え間なく変化する社会で、人が豊かに生きるために、アートとデザインを通して衣服と素材における独自の表現力を探求していきます。そのために、アート・デザイン領域での衣服やテキスタイル・素材の基礎知識や技法を習得すると共に、考える力、思考力を培う学習を行います。また、企業や地域社会とのコラボレーションプロジェクト、他領域との協働授業を通して、ファッション領域の専門性を追求しながら、中間領域を展望することが出来るよう展開していきます。

社会に求められる創造力、独自性のある表現力としなやかな感性を持ち、新しい価値を創造できる人や専門家の育成することを目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

「手で考え、つくる」ことで創造的なプロセスを学び、フィジカルな制作体験を通して、衣服の概念の枠を広げていくための立体造形、素材の加工や構成技法を習得します。そして、ドローイングと衣服設計基礎を通して、衣服を身に纏う身体の観察を行い構造の理解を深めます。

2年次

表現力を拡張していくために、デジタルツール（2D/3D CAD、ファブリックプリンターほか）を用いて、衣服構成やテキスタイルデザインを学び、衣服の新たな可能性を探求します。また、クリエイティブプロデュース表現領域との共同演習ではプロジェクトマネジメントを学び、つくる力と同時に協働力・マネジメント力も養っていきます。

3年次

他領域との融合的な学びや、地域・施設・企業との連携プログラムやフィールドワークとプロジェクトを通じて、社会との接点を発見し、論理的な思考力や創造性を養います。また、身体表現の授を通して、作品における見せ方、伝え方の方法論を培います。

4年次

前期はアートとデザインのそれぞれの視点から専門・方向性を定め、各自の制作テーマを考察しながら思考を重ね、制作活動を行なっていきます。後期には卒業制作として、社会のニーズと個性を両立した独自性のある研究成果の発表を行います。

<p>アート・デザイン表現学科 ファッション表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的</p>	<p>ファッション表現領域では、暮らしを豊かにする衣服を「手を使って考え・創る」と同時に、進化するテクノロジーやメディアを用いた実践的な学びを通して、多様化する生活・コミュニティー空間、絶え間なく変化する社会に新しい価値を創造することが出来るクリエイターの育成を教育目標とする。</p>
---	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
<p>アート・デザイン表現学科 ファッション表現領域 専門科目</p>	<p>アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。</p>	<p>教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。</p>		
	<p>【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)</p>	<p>アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。</p>	<p>衣服構成、素材およびテキスタイル、身体と空間における基礎的知識と技能を学び、ファッションクリエイションを捉える科目を設置する。</p>	<p>1 年次 【講】 ファッション&テキスタイル概論 【講】 ファッションデザイン史 【講】 アート・デザイン表現論 【講】 宇宙・人間・アート 【演】 アート・デザイン表現基礎演習 A 【演】 感覚発達演習 【演】 造形基礎演習 【演】 素材基礎演習</p> <p>2 年次 【演】 ファッション構成演習 【演】 テキスタイル表現演習</p> <p>3 年次 【実】 ファッションテキスタイル</p>
	<p>【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)</p>	<p>アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。</p> <p>時代を経ても変わらない人間の本质と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。</p>	<p>他分野・領域との融合・横断の可能性を探求し、ファッション、テキスタイルの学びを深く追求する科目を設置する。</p>	<p>1 年次 【演】 ファッション表現演習 I 【演】 マテリアル表現演習</p> <p>2 年次 【講】 身体衣服論 【講】 ファッションマネジメント・文化論 【演】 アート・デザイン表現演習 I 【演】 サーフェスデザイン演習 【演】 プロジェクトマネジメント演習</p> <p>3 年次 【演】 アート・デザイン表現演習 II 【演】 アート・デザイン表現演習 III 【演】 プロジェクトプロデュース演習</p>
	<p>【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)</p>	<p>幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。</p>	<p>幅広い知識の収集、プロジェクトや研究活動を通して、多様な社会においてデザイン・クリエイティブ活動に必要なコミュニケーション能力、観察力、発想力、判断力を身に付ける科目を設置する。</p>	<p>2 年次 【演】 アート・デザイン表現演習 II 【演】 プロジェクトマネジメント演習</p> <p>3 年次 【講】 心とアートの心理学 【講】 心と身体の科学 【演】 パフォーマンス・コミュニケーション演習 【演】 プロジェクトプロデュース演習 【演】 アート・デザイン表現演習 III</p>
	<p>【技能・表現】 (創作力・実装力)</p>	<p>領域横断型の実践的な学びを通し、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。</p>	<p>専門性を追求しながら、他領域との協働を通して中間領域を展望し、講義や演習で得られた知識や技能を活かした表現力と実践力を身につける科目を配置する。</p>	<p>2 年次 【演】 ファッション表現演習 II</p> <p>3 年次 【演】 ファッションクリエイション 【演】 プロジェクトプロデュース演習</p> <p>4 年次 【実】 ファッションアート 【実】 卒業制作</p>

芸術学部 アート・デザイン表現学科 ファッション表現領域 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座	2	講義			
		必 女子美の教養	2	講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
語学力							
学科共通科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A	2	演習	* アート・デザイン表現演習 I	2	演習
		宇宙・人間・アート	2	講義	身体衣服論	2	講義
		アート・デザイン表現論	2	講義	ファッションマネジメント・文化論	2	講義
		ファッションデザイン史	2	講義			
		ファッション&テキスタイル概論	2	講義			
		10			6		
選択必修				国際交流文化概論A	2	} 2	講義
				国際交流文化概論B	2		講義
				デジタル知的財産概論	2	} 2	講義
				生活様式史	2		講義
				ノンリニアナラティブ	2		講義
						(注3)	
						4	
学科専門科目	選択	* アート・デザイン表現基礎演習B	1	演習	(1~4年次)		
		* アート・デザイン表現基礎演習C	1	演習			
		* アート・デザイン表現基礎演習D	1	演習			
		メディア概論	2	講義			
		ヒーリング表現概論	2	講義			
	ウェルビーイングとアート論	2	講義				
	スペース表現概論	2	講義				
	空間芸術史	2	講義				
	知覚・感覚概論	2	講義				
	ミュージアムスタディ概論	2	講義				
				メディア映像概論	2	講義	
				メディアアート概論	2	講義	
				キャラクター文化論	2	講義	
				絵本芸術論	2	講義	
				素材・構法論	2	講義	
				ミュージアムメディア概論	2	講義	
専攻・領域 専門科目	必修	* ファッション表現演習 I	2	演習	* ファッション構成演習	2	演習
		* マテリアル表現演習	2	演習	* テキスタイル表現演習	2	演習
		* 感覚発達演習	2	演習	* サーフェスデザイン演習	2	演習
		* 造形基礎演習	4	演習	* ファッションテクノロジー演習	2	演習
		* 素材基礎演習	4	演習	* プロジェクトマネジメント演習	2	演習
						* ファッション表現演習 II	3
			14			13	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 4単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 * 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ * アート・デザイン表現演習Ⅲ 心と身体の科学 心とアートの心理学	2 4 2 2	演習 演習 講義 講義				26	94
	10						
(2～4年次)						4	
						8 (注4)	38
(2～4年次)							
メディア文化論特講 メディアマネジメント論 芸術社会論 芸術療法概論 空間思想論	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義					
* ファッションテキスタイル * パフォーマンス・コミュニケーション演習 * ファッションクリエイション * プロジェクトプロデュース演習	5 2 3 3	実技 演習 演習 演習	* ファッションアート * 卒業制作	6 10	実技 実技	56	56
	13			16			
合 計						124	

アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現領域

1. 教育内容

ファッションテキスタイル領域では、社会に求められる衣服と素材、ファッションとテキスタイルの知識や技術を学ぶとともに、デザインやアート活動および制作を行います。また、空間、ことばと文字、伝統と先端、哲学、心理学、生態学などの、知識と技術、理論と体験の学びを通して、考える力、生きる力を養うとともに、独自の視点に立って研究する自発性を促し、次世代を担う人材育成を目指します。

女子美術大学は、1900年の創立以来一貫して衣服教育を行い、確固とした技術を伝えてきました。表現手段や形態は変わっても、社会との繋がりを重視した教育は今も受け継がれています。

アートとデザインは、人の心を豊かにするもの、幸せに生きるためのものと捉え、アートの持つ「人を幸せにする力」を衣服やテキスタイルで表現し、伝えます。また、本領域では、アートの思考をデザインで表現するトレーニングを行います。

東京都心にある利便性を生かし、地域や施設、産官学が連携してプロジェクト活動を行うとともに、共同研究、共同開発へと繋げ、企業や教育施設や地域施設へのユニフォームの提供など積極的に進めています。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次] 基礎課程（アート&デザインを学ぶ）

素材からデザイン・制作までの一連のクリエーションを学びます。植物や食材から染める技法を習得し、テキスタイルデザインから制作までを行います。さらに、染めた布を用いてスカート・シャツの設計・製図を学び、衣服制作へとつなげます。

[2年次] 基礎課程（アート&デザインを学ぶ）

作品の企画立案を行い、空間と衣服の関係を深めます。テキスタイルデザインでは、シルクスクリーンや、織りの技法を習得します。ファッションデザインではテキスタイルデザインで習得した技術を生かし、ワンピース・ジャケット制作、バッグ等の小物やアクセサリ制作を行い、パフォーマンスなどを取り入れた効果的な演出による作品発表を行います。

[3年次] 応用課程：専門領域を選ぶ

（各自が将来に生かす領域「アート」か「デザイン」を選び学ぶ）

ファッション+テキスタイルの応用演習・実習を行うことにより、より高度な表現技術を習得し、各自の専門性を深めます。アート・デザインクラス共通の「場を着る」とは何かというテーマを追求します。アートクラスは、考察とコンセプト立案、作品制作を通して、衣服造形活動について学び、デザインクラスは、「場と衣服」の関係を明らかにし、販売につながる製品としての作品を制作します。

[4年次] 応用課程、卒業制作

アートとデザインのそれぞれの視点から、各自が志向する研究領域をベースとしたプロジェクトを実践しながら、コンセプトから企画立案し、効果的な作品発表をするための演出・構成なども学びます。アートクラスは、ギャラリーやアートに関わる施設、地域社会とのコミュニケーションやエデュケーションを通して、各自制作テーマを考察しながら思考を重ね制作活動を行います。デザインクラスは、市場調査から作品企画の立案とプレゼンテーションを行い、作品制作へと繋がります。後期は4年間の集大成として独自性あるアートとデザイン作品の制作を行い、ショー、パフォーマンス、展示空間を効果的に演出し、発表します。

教育目標

ファッションテキスタイル表現領域では、企画から制作、効果的なプレゼンテーションができる力を養い、企業との連携や、人と触れ合うフィールドワークなどの体験を通して、実社会の中でアートとデザインが果たす役割や価値を学ぶことを通して、女性の感性を生かしたアートとデザインを追求するプロフェッショナルな人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、「食と衣」をテーマに、衣服表現に必要な天然の繊維と染料による素材制作や衣服制作の基礎知識と技術を学ぶ。
- ・ 2年次は、ファッションテキスタイルとしての専門領域の基礎知識と技術を習得する。「場と衣」「空間と衣」をテーマに身体・衣服との関係を追及し作品制作を行う。また、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、効果的な演出・構成を目指した発表を行う。
- ・ 3年次は、ファッション+テキスタイルの応用の演習および実習を行うことにより、考える力を引き出すとともに、高度な表現技術を習得し、各自のテーマの専門性を深めていく。地域社会、企業等のコラボレーションやプロジェクトに参加し、社会との実践的な活動を行う。
- ・ 4年次は、各自の専門性、可能性を追求した作品制作及び企業や外部とのコラボレーションやプロジェクト、ワークショップの活動に取り組み、4年間の集大成として研究成果の発表を行う。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現領域 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科 専門科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I 伝統・先端 ファッション文化論 必 子ども発達論	2 2 2 2	演習 講義 講義 講義	
		選択必修			国際交流文化概論A 国際交流文化概論B	2 2	2 2	講義 講義
	学科共通科目		メディア概論 ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)		
		選択			メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 キャラクター文化論 カラーセラピー概論 絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論 現代文化概論 映像文化概論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
専攻・領域 専門科目	必修	* 造形基礎演習 * 素材基礎演習	5 5	演習 演習	* ファッション演習A * ファッション演習B * テキスタイル演習A * テキスタイル演習B * 感覚発達演習 * 子ども発達演習 * コンピュータデザイン演習	3 3 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	
			10				16	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。

注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、3単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ 生態学 心とアートの心理学	2 2 2	演習 講義 講義				30	38
	6					2	
(2～4年次)						6 (注3)	94
メディア文化論特講 デジタル知的財産概論 メディアマネジメント論 コンテンツプロデュース論 芸術療法概論 空間デザイン概論 アンケート調査・分析法	2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	(3～4年次)				56
* ファッションテキスタイルⅠA * ファッションテキスタイルⅠB * アートディレクション演習	4 5 2	実技 実技 演習	* ファッションテキスタイルⅡ * 着物文化演習 * 卒業制作 身体衣服論	5 2 10 2	実技 演習 実技 講義		
	11			19			
合 計						124	

アート・デザイン表現学科 スペース表現領域

1. 教育内容

人間の様々な活動や休息の場所を心地よく豊かな空間にするには、そこにどんな人が居て、どんなことが起こるのか、どんな情報と出会うのか、といった一人一人の経験を想像しながら考えることが重要です。座った椅子の肌触りや、そこで聞こえる会話、音、音楽。かべに貼られたポスター。そういった様々な要素から人はそれぞれの経験を紡ぎ出します。

スペース表現領域では、こうした経験を構成する様々な要素について一つひとつアプローチしながら空間を考えます。建築、インテリア、都市計画といった、モノやハコを創る技術・知識を得るだけではなく、人にとって空間の経験とは一体なんなのか？を創造の原点とし、「人間の感覚」にフォーカスしながら、独自の視点で「空間の経験」を創造することのできる人を育てます。

2. カリキュラム編成の特徴

【1年次】

1年次前期では人間工学、製図、縮尺模型、バーチャルモデリングといった空間を取り扱う際の共通言語となる基礎的な概念や技法を習得します。その上で、後期からはスペース表現領域が柱とする「プリミティブスペース」「テンポラリースペース」「イマーシブスペース」の3つの空間の考え方について、それぞれ「観察と分析」「展示とパフォーマンス」「物語と仮想空間」をテーマに学びます。

【2年次】

2年次では1年次後期に触れた「プリミティブ」「テンポラリー」「イマーシブ」それぞれの空間概念についてさらに多様なテーマを設定し、演習やプロジェクトを通してより深く学んでゆきます。生命維持と深く結びつく原初的な空間から、コミュニティ空間、演劇や映像、アミューズメントパークなど、発展的な表現に触れながら、自らの専門性を模索していきます。

【3年次】

2年次までに習得した知識や技法を土台に、独自の表現と専門性を深めてゆきます。学内外の連携プロジェクトを通じて自分の表現が社会とどのように結びつくのか、実践的に考えていくことが重要です。さまざまな空間思想にも触れ、空間の捉え方について深い視点を養っていきます。後期からはゼミに所属し、卒業制作に向け自身の専門性を高めていきます。

【4年次】

4年次ではゼミやプロジェクトベースの演習を通じてそれぞれの専門性を深く追究していきます。特に4年間の集大成となる卒業制作では、自信が4年間を通して探求してきた社会を豊かに革新するための表現や視点について、造形、VR、インスタレーション、パフォーマンス、あるいは研究発表といったさまざまなアプローチで、社会に発信することが求められます。

アート・デザイン表現学科 スペース表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	スペース表現領域は新しい体系で空間の概念を捉え、歴史的な文脈や人間の本質と向き合いながら、多様な角度から空間の創造性を拡張し、豊かな社会を構想することのできるスペースクリエイター／プロデューサーの育成を教育目標とする。
--	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
アート・デザイン表現学科 スペース表現領域 専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	空間を取り扱うのに必要となる基礎的概念や技量（人間工学、製図、モデリング等）を習得し、スペース表現領域が柱とする「プリミティブスペース」「テンポラリースペース」「イマーシブスペース」の3つの空間概念について学ぶ科目を設置する。	1年次 【講】 スペース表現概論 【講】 空間芸術史 【講】 アート・デザイン表現論 【講】 宇宙・人間・アート 【講】 知覚・感覚概論 【演】 アート・デザイン表現基礎演習 A 【実】 スペース基礎Ⅰ（人間工学） 【実】 スペース基礎Ⅱ（製図） 【実】 スペース基礎Ⅲ（フィジカルモデリング） 【実】 スペース基礎Ⅳ（バーチャルモデリング） 【実】 プリミティブスペースⅠ 【実】 テンポラリースペースⅠ 【実】 イマーシブスペースⅠ
	【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。	領域横断型プロジェクトやゼミナール形式の授業を通して、課題に主体的に取り組む姿勢、多様な人々と協働する姿勢、複眼的に空間の概念を捉える力を養う科目を配置する。空間の概念を深め独創的な表現を追求することで自己実現を図る意欲と、将来を展望し自律的に学び続けることができる力を養う科目を配置する。	2年次 【講】 生活様式史 【演】 アート・デザイン表現演習Ⅰ 3年次 【演】 アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】 プロジェクトプロデュース演習 【実】 3年ゼミナール 4年次 【演】 プロジェクトプロデュース演習Ⅱ
	【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	空間の原初から未来について考察し理解を深めることにより、多様な角度から空間の創造性を思考、発想する力を養う科目を配置する。	2年次 【講】 ノンリニアナラティブ 【選講】 国際交流文化概論 A 【選講】 国際交流文化概論 B 【実】 ヒューマンスペースⅠ 3年次 【講】 芸術社会論 【実】 ヒューマンスペースⅡ 【実】 ヒューマンスペースⅢ
	【技能・表現】 (創作力・実装力)	領域横断型の実践的な学びを通して、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	専門性を深く研究しつつ、他分野との中間領域を展望することによって独自の表現力、表現技法を養うための科目を設置する。	2年次 【講】 素材・構法論 【実】 プリミティブスペースⅢ 【実】 テンポラリースペースⅢ 【実】 イマーシブスペースⅢ 3年次 【講】 空間思想論 【演】 アート・デザイン表現演習Ⅲ 4年次 【実】 4年ゼミナール 【実】 卒業制作

対象：2024年度入学生（24 ●●●●）～

芸術学部 アート・デザイン表現学科 スペース表現領域 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科 専門科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A 宇宙・人間・アート	2	演習	* アート・デザイン表現演習 I	2	演習	
		アート・デザイン表現理論	2	講義	素材・構法論	2	講義	
		スペース表現概論	2	講義	生活様式史	2	講義	
		空間芸術史	2	講義	ハンリニアナラティブ	2	講義	
		知覚・感覚概論	2	講義				
			12			8		
	選択必修					国際交流文化概論A 国際交流文化概論B	2 2	講義 講義 (注3)
							2	
	学科 共通科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習B	1	演習	(1～4年次)		
			* アート・デザイン表現基礎演習C	1	演習			
* アート・デザイン表現基礎演習D			1	演習				
メディア概論			2	講義				
ファッション&テキスタイル概論			2	講義				
選択	ファッションデザイン史	2	講義					
	ミュージアムスタディ概論	2	講義					
	クリエイティブ・プロデュース概論	2	講義					
					メディア映像概論	2	講義	
					メディアアート概論	2	講義	
				ミュージアムメディア概論	2	講義		
				身体衣服論	2	講義		
				ファッションマネジメント・文化論	2	講義		
				デジタル知的財産概論	2	講義		
専攻・領域 専門科目	必修	* スペース基礎Ⅰ(人間工学)	2	実技	* プリミティブスペースⅡ	2	実技	
		* スペース基礎Ⅱ(製図)	2	実技	* テンポラリースペースⅡ	2	実技	
		* スペース基礎Ⅲ(フィジカルモデリング)	2	実技	* イマーシブスペースⅡ	2	実技	
		* テンポラリースペースⅠ	2	実技	* プリミティブスペースⅢ	2	実技	
		* プリミティブスペースⅠ	2	実技	* テンポラリースペースⅢ	2	実技	
		* スペース基礎Ⅳ(バーチャルモデリング)	2	実技	* イマーシブスペースⅢ	2	実技	
		* イマーシブスペースⅠ	2	実技	* ヒューマンスペースⅠ	2	実技	
				14			14	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。

注3. 2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修時方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ * アート・デザイン表現演習Ⅲ 芸術社会論 空間思想論	2 4 2 2	演習 演習 講義 講義				30	40
	10						
						2	94
						8 (注4)	
(2～4年次)							
メディア文化論特講 メディアマネジメント論 心と身体の科学 心とアートの心理学	2 2 2 2	講義 講義 講義 講義	(3～4年次)				54
* ヒューマンスペースⅡ * ヒューマンスペースⅢ * プロジェクトプロデュース演習 * 3年ゼミナール	2 2 3 3	実技 実技 演習 実技	* 4年ゼミナール * プロジェクトプロデュース演習Ⅱ * 卒業制作	3 3 10	実技 演習 実技	54	
	10			16			
合計						124	

アート・デザイン表現学科 クリエイティブ・プロデュース表現領域

1. 教育内容

目まぐるしく変化する現代社会の中で、人々は、より良く生きるとは何か、そして幸せとは何かを探し、新しい生き方、新たな価値を求めています。美術、音楽、演劇、映像、デザインなど、ジャンルを問わず、優れた表現には人を幸せにする力が秘められています。そして、そうした作品を体感するクリエイティブな「場」をつくることもまた、世界中のたくさんの幸せを生み出していくことといえます。クリエイティブな「場」とは、「表現」する側とそれを受け止める「観客」がいて、はじめてその素晴らしさが姿を表す世界です。クリエイティブ・プロデュース表現領域では、美術を中心に、音楽、演劇、映像、デザインなど、さまざまな領域のジャンルについて「表現者」の立場でそれらの技法を身につけるとともに、「観客」の立場にも立ち、表現を世界につなぐことのできる担い手を育てる教育を行います。大切なのは、知性と感性、そして自由な発想をもってクリエイティブの可能性を広げる方法を自ら生み出すこと。苦しみや葛藤を喜びに変えるユーモアの力と発想力を育み、人間の幸福につながる場とは何かを理論と実践を通して学び、さまざまな表現を通じたコミュニケーションの手法と、それらを立体的につなげることのできる柔軟な感性と発想力を身につけ、クリエイションが生まれる場に寄り添いながら社会に開いていく、アートとデザインの可能性を拡張する表現者、プロデューサー、キュレーター、ファシリテーターを育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次] 自分自身を知る。表現の基礎を学ぶ。

アーティストの視点、作品への理解を深めることを目的に、美術に関する基礎的な技術と理論を学ぶとともに、音楽、演劇、パフォーマンス、空間表現、映像などの作品制作に挑むことで自分自身と深く向き合い、自己を客体化しセルフプロデュースできる力を養います。また、美術館、学芸員、ディレクターなどの役割と、その可能性についても追求していきます。

[2年次] 自分と他者との関係性を考える。

他領域の学生とのコラボレーションを通じて異なる考えや価値観に触れ、共に制作をしながら、自分と他者との関係性を考え、既成概念にとらわれない発想力を身につけるため、1年次の学びを基に、さらに専門性を深めます。また、展示技術を学ぶ演習科目や美術館以外のアートプロジェクトなどの今日的な社会的ニーズに呼応するためのマネジメントの基礎演習、また国際文化交流を通し、多様性を尊重する持続可能な社会づくりに対する意識を養います。

[3年次] 社会で協働する実践力を養う。

他領域の学生とのコラボレーションを通じて異なる考えや価値観に触れ、共に制作をしながら、アートイベント、コンサート、講演会などを実際に企画し形にすることで、プロデュースやマネジメントの実践力を養います。また、将来のキャリア形成を視野に入れ、学外の企業・組織やアーティストとの共同プロジェクトを通じ、実社会での活動に必要なプレゼンテーション能力やファシリテーション能力を身につける、実践的な授業を実施します。

[4年次] 表現の社会的意義、クリエイションを魅力的に伝える術を探求する。

音楽、演劇、パフォーマンス、空間表現、映像の領域を横断する表現を追求し、作品の意義と魅力を伝える術を追求する4年次。3年次までの学びの集大成として卒業制作・研究に取り組み、アーティスト、表現者と社会の架け橋となる場として、卒業制作展を総合プロデュースします。

<p>アート・デザイン表現学科 クリエイティブ・プロデュース表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的</p>	<p>クリエイティブ・プロデュース表現領域では、美術、音楽、演劇、映像など、アートとデザインにおけるあらゆるジャンルを横断する表現・知識・技術を身につけ、人々がより良く生きるための「場」と「多様な未来」をつくり出す、プロデューサー、キュレーター、マネージャーなど、総合力のあるクリエイターを育成します。</p>
---	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
アート・デザイン表現学科 クリエイティブ・プロデュース表現領域 専門科目	<p>アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。</p>	<p>教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。</p>		
	<p>【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)</p>	<p>アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。</p>	<p>美術、音楽、演劇、映像・メディアに関わる基礎理論と実技、プロデュースの基礎を学ぶとともに、多様な未来を育むための国際性の涵養と、コミュニケーション力を身につける科目を配置する。</p>	<p>1 年次 【演】アート・デザイン表現基礎演習 A 【演】音楽プロデュース演習 I 【演】映像&メディア演習 I 【演】舞台芸術プロデュース演習 I 【演】空間基礎演習 【演】ミュージアムスタディ演習 I 【演】ミュージアムエデュケーション演習 【講】ミュージアムスタディ概論 【講】アート・デザイン表現論 【講】宇宙・人間・アート</p> <p>2 年次 【演】プロジェクトマネジメント演習 【講】ミュージアム・メディア概論</p> <p>3 年次 【選講】ノンリニアナラティブ 【選講】心と身体の科学</p>
	<p>【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)</p>	<p>アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心を持ちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。</p>	<p>ミュージアム、アートセンター等での研修、また、領域を横断したプロジェクトの実践を通し、クリエイティブな環境づくりと、創造的活動による社会貢献のあり方を学ぶ科目を配置する。</p>	<p>1 年次 【演】クリエイティブ・プロデュース演習 I</p> <p>2 年次 【演】音楽プロデュース演習 II 【演】映像&メディア演習 II 【演】舞台芸術プロデュース演習 II 【演】ミュージアムスタディ演習 II</p> <p>3 年次 【演】アート・デザイン表現演習 II 【演】クリエイティブ・プロデュース実習</p>
	<p>【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)</p>	<p>時代を経ても変わらない人間の本质と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。</p>	<p>設定したテーマ、表現を深く追求し、研究(制作)および総合イベント(展覧会、公演等)の実践を学ぶ科目を配置する。</p>	<p>1 年次 【演】クリエイティブコミュニケーション演習 【講】クリエイティブ・プロデュース概論</p> <p>2 年次 【演】クリエイティブコミュニケーション演習 【講】国際交流文化概論 A 【講】国際交流文化概論 B 【選講】ウェルビーイングとアート論 【選講】芸術社会論</p> <p>3 年次 【演】クリエイティブ・プロデュース実習</p>
	<p>【技能・表現】 (創作力・実装力)</p>	<p>領域横断型の実践的な学びを通して、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。</p>	<p>プロデュースの専門性を深めながら、他領域とのコラボレーションによるプロジェクトを企画・実施し、多様な表現の可能性、社会貢献としてのプロデュースのあり方を、実践を通して学ぶ科目を配置する。</p>	<p>1 年次 【演】クリエイティブ・プロデュース演習 I</p> <p>2 年次 【演】アート・デザイン表現演習 I 【演】クリエイティブ・プロデュース演習 II</p> <p>3 年次 【演】アート・デザイン表現演習 III 【演】プロジェクトプロデュース演習</p> <p>4 年次 【実】総合プロデュース実習 【演】卒業研究</p>

対象：2024年度入学生（24 ●●●●）～

芸術学部 アート・デザイン表現学科 クリエイティブ・プロデュース表現領域 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす	必 アーティスト・イン・レジデンス概論	2	講義	(1～4年次)				
	語学力								
学科 専門科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A 宇宙・人間・アート アート・デザイン表現論 ミュージアムスタディ概論 クリエイティブ・プロデュース概論	2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I 国際交流文化概論A 国際交流文化概論B ミュージアムメディア概論	2 2 2 2	演習 講義 講義 講義		
			10		8				
		選択	* アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D メディア概論 ヒーリング表現概論 ウェルビーイングとアート論 ファッション&テキスタイル概論 ファッションデザイン史 空間芸術史 知覚・感覚概論	1 1 1 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)			
	専攻・領域 専門科目	必修	* 音楽プロデュース演習 I * 映像&メディア演習 I * 舞台芸術プロデュース演習 I * 空間基礎演習 * ミュージアムスタディ演習 I * ミュージアムエデュケーション演習 I * クリエイティブ・プロデュース演習 I	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	* 音楽プロデュース演習 II * 映像&メディア演習 II * 舞台芸術プロデュース演習 II * ミュージアムスタディ演習 II * プロジェクトマネジメント演習 * ミュージアムエデュケーション演習 II * クリエイティブ・プロデュース演習 II	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	
				14		14			

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、7単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ * アート・デザイン表現演習Ⅲ 芸術社会論	2 4 2	演習 演習 講義				26	40
	8						
(2～4年次)						14 (注3)	94
メディア文化論特講	2	講義	(3～4年次)				54
メディアマネジメント論	2	講義					
芸術療法概論	2	講義					
エビデンスベース入門	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
心と身体科学	2	講義					
空間思想論	2	講義					
* クリエイティブ・コミュニケーション演習Ⅰ	2	演習	* 総合プロデュース実習	5	実技	54	
* クリエイティブ・コミュニケーション演習Ⅱ	2	演習	* 卒業研究	10	演習		
* 国際コミュニケーション演習	2	演習					
* クリエイティブ・プロデュース実習	2	実習					
* プロジェクトプロデュース演習	3	演習					
	11			15			
合計						124	

アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域

1. 教育内容

アートとは、アーティストが「作品」を作るだけでなく、それを受け止める「観客」がいて、はじめてその素晴らしさが姿を表す世界です。アートプロデュース表現領域では、アーティストが生み出す優れた作品を広く世界に発信し、人間の幸福につながる、アートによる「社会貢献」の可能性を、理論と実践を通して追求していきます。

そのため、美術を中心に、音楽、演劇、映像など、さまざまな領域のジャンルについて「アーティスト」の立場でその表現技法を身につけるとともに、「観客」の立場に立ち、さまざまな表現を通じた発信、コミュニケーションの手法を学び、それらを立体的につなげ社会に開いていく技術を、実践を通して学びます。

例えば、美術作品を作ったり、見るのが好きで、同じように音楽を聴くことが好きな人は、どうしたらその2つの表現を結びつけ、さらに大きな喜び、驚きに変えていくのかを考える。子どもが好きな人ならば、子どもたちが毎日遊びに行きたくなるような美術館はどのようなものかを考える。日本独自の文化を、広く世界の人々と分かち合うためのプロジェクトを考える。そうした自由な発想を大切にしながら、総合力のあるアートプロデューサー、キュレーター、ファシリテーターとしての基礎を体得することを目指します。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次]

前期では、アート・デザイン表現学科共通の基礎実技として、コンピュータグラフィック、絵画、工芸、立体の基礎表現を学びます。後期では、空間表現、映像表現、Webデザインなど、プロデュースの発想力を支えるための表現技術を習得します。

[2年次]

美術、音楽、演劇、映像のアートプロデュースに関わる基礎的演習を行います。中でも、美術を通じた教育の場づくりについて、また、美術館以外のアートプロジェクトなど、今日的なアートへの社会的ニーズに呼応するための実践的なマネジメントの基礎を習得します。また、国際文化を学び、持続可能な多様性を尊重する意識を持つための授業など、幅広い学びの場を設けます。

[3年次]

2年次に学んだ理論と実践をさらに深めます。特に、美術館、アートフェスティバル等におけるキュレーション、展示技術を学ぶ演習科目など、将来のキャリア形成を視野に入れた実践的な授業を実施します。

[4年次]

前期では、3年次までに学んだ理論と実践を踏まえ、4年生全員で取り組む総合的なアートプロジェクトの企画・実施を行います。後期では、ゼミ形式による卒業制作・研究に取り組みます。一人一人の学びの集大成として、自身で設定した個別のテーマ、目標に基づいた作品制作、あるいはプロジェクト研究等の成果を、展覧会形式で発表します。

教育目標

アートプロデュース表現領域では、女性の視点に立ち、展覧会を中心に音楽、演劇、映像などに関わる、様々なアートプロデュースの基礎を学び、アートを通して、社会と人間をつなぐことを喜びとする社会貢献について理解を深め、複雑化・国際化する社会に対応できるアートプロデューサー、コーディネーター、ファシリテーターとなる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、美術に関する基本的知識・技術、アートプロデュースの基礎を学ぶ。
- ・ 2年次は、美術を中心に、音楽、演劇、映像に関わる基礎理論と実技を学び、あわせて様々な国の在日大使館とのコラボレーションとして、国際文化交流の演習を行い、国際的な視点に立ったアートプロデュースを学ぶ。
- ・ 3年次は、より専門性を深めながら、美術、音楽、演劇、映像を統合したイベントの企画立案し、社会貢献としてのアートプロデュースを学ぶ。
- ・ 4年次は、前期に3年次に企画した総合イベントを広く社会に発表し、後期は4年間の集大成として、卒業研究（制作）を行う。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科専門科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I 国際交流文化概論A 国際交流文化概論B * 現代文化概論 * 映像文化概論	2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義	
		メディア概論 ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(1~4年次)			
	選択				メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 キャラクター文化論 カラーセラピー概論 絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論 伝統・先端 ファッション文化論 子ども発達論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
専攻・領域 専門科目	必修	* コミュニケーションデザイン演習A * コミュニケーションデザイン演習B * 映像基礎演習 * 空間基礎演習	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	* アートプロデュース演習 I * アートマネジメント演習 I * ミュージアムスタディ演習 I * ミュージアム・エデュケーション演習 I * 音楽プロデュース演習 I * 舞台芸術プロデュース演習 I * アートコミュニケーション演習	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	
			8					14

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。

注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、7単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

* 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ	2	演習				28	42
	2						
(2～4年次)						14 (注3)	94
メディア文化論特講	2	講義	(3～4年次)				
デジタル知的財産概論	2	講義					
メディアマネジメント論	2	講義					
コンテンツプロデュース論	2	講義					
芸術療法概論	2	講義					
空間デザイン概論	2	講義					
アンケート調査・分析法	2	講義					
生態学	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
* アートプロデュース演習Ⅱ	2	演習	* 総合アートプロデュース実習	5	実技	52	52
* アートマネジメント演習Ⅱ	2	演習	* 卒業研究	10	演習		
* ミュージウムスタディ演習Ⅱ	2	演習					
* ミュージウム・エデュケーション演習Ⅱ	2	演習					
* 音楽プロデュース演習Ⅱ	2	演習					
* 舞台芸術プロデュース演習Ⅱ	2	演習					
* ヒーリング・アートプロジェクト演習	3	演習					
	15			15			
合計						124	

共創デザイン学科

1. 教育内容

複雑化し、変化し続ける社会課題に、一人の力、一つのスキルで解決に導くこと、新しい価値を創造することは難しく、多様な才能や個性を巻き込み「共に」ものごとを「創り上げていく力」が必要です。そして、多くの女性が持つ他者への共感力やしなやかなコミュニケーション力は、「共創」を生み出すための重要な基礎力と言えます。

共創デザイン学科では、多様な他者と共に構想し、共に成長しながら目標に導いていく「共創型リーダーシップ」を身に付けるための3つの特徴的な教育を行います。

創造力の基礎となるデザイン教育を踏まえた上で、多様な領域の人々と共創するための「共創教育」。そして、さまざまなライフイベントを乗り越えるための折れない心を育成する「ライフマネジメント教育」。さらに、これらの学びを統合し、応用しながら、ビジネスの現場で実践する力を身につける「産官学連携による実学」を行います。また、「共創教育」「ライフマネジメント教育」「産官学連携による実学」を1年生から循環させ、学んだことをすぐに実践する生きた教育を4年間通して積み上げます。

2. カリキュラム編成の特徴

(1) 共創教育

[1～2年次]

自ら創り出す力、周囲を巻き込む力を身につけるための基礎を養います。

デザイン全般、テクノロジー、マーケティングなどのベーシックカリキュラムである「共創デザイン演習I-A～G」「共創デザイン演習II-A～E」「共創デザイン選択演習II-A～D」を通して、多様なクリエイティビティの基礎となる創出力と開拓力を養い、共創の基本となる思考を可視化する力、コミュニケーション力やリーダーシップのための基礎力を身につけます。また、プロジェクトデザインの基礎カリキュラム「共創デザイン実践」を通して、共創型プロジェクトに参加するための技術や知識、マインドセットを幅広く習得します。さらに、多数の講義授業・演習授業を通して、自己ブランディングや、伝統文化・芸能、表現伝達のテクニックなど多様な知識を身につけます。

[3年次]

1～2年次で身につけた基礎力を踏まえ、3年次ではビジネス、ブランディング、マーケティング・プランニング、サービスデザイン、そして、複数のデザイン領域を統合して課題に取り組むクリエイティブインテグレーションなど、各自が将来を見据えて選択することができる複数のカリキュラムで専門性の向上を図ります。また、「知財・ファイナンス概論」を学ぶことで、独立した個人として社会で活動するための基礎力を身につけます。

[4年次]

冒頭の授業では、卒業制作・研究のための準備としてテーマを探究する時間を設け、その後、3年次までの学びを踏まえ、約1年間を通してゼミ形式による卒業制作・研究に取り組みます。各自の学びの集大成として、テーマ設定から制作・研究、発表までを主体的に実施します。作品制作のほか、主体的に社会とつながるプロジェクト実践、学んできたことをさらに深める研究など、多様な取り組み内容が考えられます。

(2) ライフマネジメント教育

1年次から4年間を通し、折れない心と自身を高め続けることのできるマインドを養います。「ライフマネジメント論」や、社会人教育との連携による「自律的キャリア教育」など、自信を持って社会に出ていくためのアイデンティティ形成のためのカリキュラムや、困難を乗り越えるための回復力や柔軟性を養い、ストレスの本質を理解することでストレスとの

上手な付き合い方を身につけるストレスマネジメントカリキュラムを実施します。さらに、失敗を恐れず、未知への一步を踏み出すことを楽しめるマインド。新たな機会や可能性を生み出す未来への楽観的な思考を身につけます。

(3) 産官学連携による実学

1年次から4年間を通し、社会・ビジネスの現場で生きていく力を養います。共創教育、ライフマネジメント教育の学びを踏まえて、それらを統合し、応用することを多種多様な企業や自治体との連携プロジェクトを経験しながら身に付けていきます。多様な連携プロジェクトは、企業や自治体の抱える課題や未来構想など、年次を追うごとに高度な内容に取り組み、社会貢献意識を高めると共に実力アップを図ります。

教育目標

共創デザイン学科は、伝達や用途などの目的や機能を理解し、デザインする能力をベースに、異分野の学びを身につけ、企業、自治体や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、社会に貢献する新しい価値を共に創り上げることのできる能力を備えた人材「共創型リーダー」の養成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
共創デザイン学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、学科共通科目を通して、デザインを軸に、ビジネス、テクノロジーを横断的に学び、実践型プロジェクトに取り組むことで、多様な人々と共創する力を身に付け、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成します。	
【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	デザイン分野における基本的な理論と技法に関する理解とともに、デザイン分野の職業に関する倫理や社会的意義について理解する科目を配置する。
【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	デザインの諸活動の実践により課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働して解決方法を創造する能力と態度を身に付けている。	デザイン活動を通して多様な立場の人々との協働作業を主導する姿勢、また、これらの協働により、高付加価値の商品やサービスを共に創り出す能力を養う科目を配置する。
【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	デザインの諸活動の実践を通して、生涯にわたり生じる様々なライフイベントや困難な課題を柔軟な思考と強靱な意思をもって乗り越え、自己成長を続けられる能力と態度を身に付けている。	デザイン活動の実践を通して、自己のアイデンティティを確立しその個性を磨き続ける意欲と、生涯にわたり自己成長を継続できる態度を養う科目を配置している。
【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)	デザインの理論や手法を始めとした知識・技能を総合して社会を洞察し、デザインで解決すべき課題を見出し、その解決策を構想する能力を身に付けている。	デザイン活動に必要な独自の観察力や洞察力を高める理論と技法の修得のもと、それらを総合して見出した課題に対して、適切かつ効果的なデザイン手法を活用する能力を養う科目を配置する。
【技能・表現】 (創出力・実装力)	デザインの理論や手法を始めとした知識・技能を総合的に活用し実践型の学びを通して、商品やサービスなどの新たな価値を創造する能力とより良い社会の実現に取り組むことができる態度を身に付けている。	産官学連携・地域連携等のプロジェクトの実施により多様な立場の人々との協働による高付加価値の商品企画や構想立案に関する体験を通して、講義や演習で得た知識と技能の総合化を図る科目を配置する。

共創デザイン学科
学科専門科目

芸術学部 共創デザイン学科 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次					
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養		講義 講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす									
	語学力									
学科専門科目	学科共通科目	必修	* 共創デザイン演習Ⅰ-A	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-A	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-B	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-B	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-C	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-C	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-D	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-D	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-E	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-E	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-F	2	演習	* 共創デザイン実践Ⅱ	2	実技		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-G	2	演習	行動デザイン論	2	講義		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-H	2	演習	コミュニケーション特論Ⅱ	2	講義		
			* 共創デザイン実践Ⅰ	2	実技	ライフマネジメント論Ⅱ-A	2	講義		
			共創デザイン概論	2	講義	ライフマネジメント論Ⅱ-B	2	講義		
ライフマネジメント論Ⅰ	2	講義								
ビジネスデザイン概論	2	講義								
コミュニケーション特論Ⅰ	2	講義								
			26				20			
	選択必修				* 共創デザイン選択演習Ⅱ-A	2	2	演習		
					* 共創デザイン選択演習Ⅱ-C	2				
						* 共創デザイン選択演習Ⅱ-B	2	2	演習	
						* 共創デザイン選択演習Ⅱ-D	2			
							4			
	選択	デザイン基礎集中演習	2	演習	共創デザイン演習Ⅱ-F	2	演習			
		ドローイング演習	2	演習						
		プログラミング演習	2	演習						
		インクルーシブデザイン論	2	講義						
		自律的キャリア教育	2	演習 (1~4年次)						
		産官学連携演習Ⅰ	2	演習						
		産官学連携実践	1	実技						
								人間工学(スペース&プロダクト)	2	講義
								コミュニケーション特論Ⅲ	2	講義
								感性異分野共創論Ⅰ	2	講義
				ソーシャルグッドネスデザイン論	2	講義				
				産官学連携演習Ⅱ	2	演習				
				留学認定科目A	2	講義				
				留学認定科目B	4	講義				
				留学認定科目C	6	講義				
				留学認定科目D	8	講義				
				留学認定科目E	10	講義				

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* 共創デザイン演習Ⅲ-A * 共創デザイン演習Ⅲ-B * 共創デザイン実践Ⅲ 知財・ファイナンシャル概論 ライフマネジメント論Ⅲ-A ライフマネジメント論Ⅲ-B ファンリテーション論	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 実技 講義 講義 講義	* 共創デザイン実践Ⅳ * 卒業研究	2 8	実技 実技	70	94
	14			10			
* 共創デザイン選択演習Ⅲ-A * 共創デザイン選択演習Ⅲ-B * 共創デザイン選択演習Ⅲ-C * 共創デザイン選択演習Ⅲ-D * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Aa * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ba * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ca * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Da * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ea * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ab * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Bb * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Cb * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Db * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Eb	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習				10	
	6						
			ライフマネジメント論Ⅳ-A ライフマネジメント論Ⅳ-B	2 2	講義 講義		
(2~4年次)						14 (注3)	
感性異分野共創論Ⅱ 産官学連携演習Ⅲ	2 2	講義 演習	(3~4年次)				
合 計						124	

注3. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は7単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

美術学科

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。学芸員養成課程は、1年次の「博物館概論」の単位を修得した者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。また、4年次の「博物館実習」は、履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが履修の条件となります。学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行います。希望者は必ず出席してください。

	授 業 科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	博物館概論 (アートを社会と生活に生かす) ※	2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	博物館教育論 2	いずれか 2単位	2	半期・選択必修
	ミュージアムエデュケーション演習 (学科共通科目) ※				半期・選択必修 美術学科 学科共通科目 選択科目
	博物館資料保存論	博物館資料保存論 2	いずれか 2単位	3	半期・選択必修
	アート修復基礎論 (学科共通科目) ※				半期・選択必修 美術学科 学科共通科目 選択科目
	博物館経営論	2	2	3	半期・必修
	博物館情報・メディア論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選 択 科 目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論 A		2		
	西洋美術史特論 B		2		
	西洋美術史特論 C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論 A		2		
	日本美術史特論 B		2		
	日本美術史特論 C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論 A		2		
	東洋美術史特論 B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

※修得した「博物館概論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。ただし、再履修は認められない。

※修得した「ミュージアムエデュケーション演習」「アート修復基礎論」は学科共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

美術学科、デザイン・工芸学科

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。学芸員養成課程は、1年次の「博物館概論」の単位を修得した者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。また、4年次の「博物館実習」は、履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが履修の条件となります。学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行います。希望者は必ず出席してください。

	授 業 科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	博物館概論 (アートを社会と生活に生かす)※	2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	3	半期・必修
	博物館経営論	2	2	3	半期・必修
	博物館情報・メディア論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

※修得した「博物館概論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。ただし、再履修は認められない。

アート・デザイン表現学科（メディア表現領域・ヒーリング表現領域・ファッション表現領域・スペース表現領域）

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。学芸員養成課程は、1年次の「ミュージアムスタディ概論」の単位を修得した者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。また、4年次の「博物館実習」は履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが条件となります。学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行います。希望者は必ず出席してください。なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論 (学科共通科目) ※	博物館概論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	ミュージアムメディア概論 (学科共通科目) ※	博物館情報・ メディア論 2	2	3	
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	クリエイティブ・プロデュース概論 (学科共通科目) ※	博物館経営論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	博物館資料保存論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

※「ミュージアムスタディ概論」「ミュージアムメディア概論」「クリエイティブ・プロデュース概論」は学科共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

アート・デザイン表現学科 (メディア表現領域・ヒーリング表現領域・ファッションテキスタイル表現領域)
学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。学芸員養成課程は、1年次の「ミュージアムスタディ概論」の単位を修得した者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。また、4年次の「博物館実習」は履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが条件となります。学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行います。希望者は必ず出席してください。なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論 (学科共通科目) ※	博物館概論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	映像文化概論 (学科共通科目) ※	博物館情報・ メディア論 2	2	3	
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	アートプロデュース概論 (学科共通科目) ※	博物館経営論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	博物館資料保存論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

※「ミュージアムスタディ概論」「映像文化概論」「アートプロデュース概論」は学科共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

アート・デザイン表現学科（クリエイティブ・プロデュース表現領域）

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。

クリエイティブ・プロデュース表現領域では、博物館に関する科目の大部分を卒業に必要な専門科目の中に組み込んでいます。なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	
	ミュージアムスタディ概論	博物館概論 2	2	1	クリエイティブ・プロデュース 表現領域 学科共通科目 必修科目
	クリエイティブ・プロデュース概論	博物館経営論 2	2	1	
	空間基礎演習	博物館展示論 2	2	1	クリエイティブ・プロデュース 表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	ミュージアムスタディ演習Ⅰ	博物館資料論 2	2	1	
	ミュージアムメディア概論	博物館情報・ メディア論 2	2	2	クリエイティブ・プロデュース 表現領域 学科共通科目 必修科目
	ミュージアムエデュケーション演習Ⅰ	博物館教育論 2	2	1	
	ミュージアムスタディ演習Ⅱ	博物館資料 保存論 2	2	2	クリエイティブ・プロデュース 表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	総合プロデュース実習	博物館実習 3	5	4	
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

アート・デザイン表現学科（アートプロデュース表現領域）

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。

アートプロデュース表現領域では、博物館に関する科目の大部分を卒業に必要な専門科目の中に組み込んでいます。なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	
	ミュージアムスタディ概論	博物館概論 2	2	1	アートプロデュース表現領域 学科共通科目 必修科目
	アートプロデュース概論	博物館経営論 2	2	1	
	空間基礎演習	博物館展示論 2	2	1	アートプロデュース表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	ミュージアムスタディ演習Ⅰ	博物館資料論 2	2	2	
	映像文化概論	博物館情報・ メディア論 2	2	2	アートプロデュース表現領域 学科共通科目 必修科目
	ミュージアム・エデュケーション演習Ⅰ	博物館教育論 2	2	2	
	ミュージアムスタディ演習Ⅱ	博物館資料 保存論 2	2	3	アートプロデュース表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	総合アートプロデュース実習	博物館実習 3	5	4	
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

ダブルコース（副専攻）について

美術学科及びデザイン・工芸学科の学生を対象にダブルコース（副専攻）を開設します。興味のある学生は、各コースの概要紹介及び履修方法等を確認してください。履修したいコースの科目を1・2年次に履修することをお奨めします。

●ダブルコース（副専攻）について

ダブルコース（副専攻）とは、各専攻で学んでいる芸術分野とは別に、もう1つの分野の学習成果をダブルコース（副専攻）として認証する制度です。各所属の専門分野の枠をこえて、自分の興味・関心に基づいて自主的に学んでいくものです。美術学科及びデザイン・工芸学科の学生はチャレンジすることができます。所属する専攻の芸術分野を第一に学ぶと同時に、その他の分野も学ぶことで、主専攻の補強、主専攻以外の強みの獲得につながり、新しい創造や発想を後押しする機会ともなります。本学ではダブルコース（副専攻）として右のコースを用意しています。

ダブルコース（副専攻）一覧

コース名
西洋美術史コース
日本美術史コース
色彩学コース
芸術表象コース
芸術人類学コース
芸術と法コース
アート表現コース (2024年度入学生～)
アジア文化学コース (2025年度入学生～)

●対象学生：美術学科及びデザイン・工芸学科の学生

●履修方法

ダブルコース（副専攻）から学びたいコースを選び、そのコースの芸術文化オープンゼミⅠ<2年次>（選択）、芸術文化オープンゼミⅡ<3年次>（コア科目）、芸術文化オープンゼミⅢ<4年次>（コア科目）を指定年次に修得するとともに、選択科目で指定された単位を1～4年次で修得してください。なお、履修登録はWeb履修登録期間に行なってください。また、抽選科目となりますので、抽選希望登録をする際は、下記履修上の注意をよく読み、自分の希望するゼミが履修可能かどうか確認をしてください。

●履修上の注意

芸術文化オープンゼミは、Ⅱ、Ⅲを通して同一コースを履修する必要があります。中には、Ⅰも同一コースを履修する必要があるものもあります。各コースの紹介、およびシラバスをよく読み履修してください。

※国際芸術文化専攻・芸術文化専攻の学生は、履修方法について研究室の指示に従ってください。

●修了条件

ダブルコース（副専攻）修了として認定されるためには次の3点を満たす必要があります。

- ①各コースで定められた修了要件を満たしていること
コア科目8単位＋選択科目8単位＝16単位以上の修得
- ②修了希望申請書を提出していること
- ③所属専攻で卒業が認定されること

たとえ各コースでの修了要件を満たしていても卒業できなければ修了とはなりません。また、修了要件を満たし、卒業できたとしても事前に「ダブルコース（副専攻）修了証交付願」を提出していない場合には修了として認定されません。

●修了希望申請書

ダブルコース（副専攻）修得には、4年次の定められた期間に「ダブルコース（副専攻）修了証交付願」を教育支援センターに提出する必要があります。これを提出していない学生は修了として認定されません。なお、認定された学生には「ダブルコース（副専攻）修了証」を発行します。

●注意事項

- ・ダブルコース（副専攻）の認証は本学独自の制度になります。
- ・ダブルコース（副専攻）修得のための必要科目に関しては、再試験の対象とはなりません。

●各コースの紹介

<西洋美術史コース>

西洋美術は人間の行為をイメージなどで再現することを目的としてきました。つまりそれは古代ギリシア・ローマ神話、聖書さらに歴史におけるある出来事に人間たちがどのようにかわりそしてまたどのような結末を迎えたのかを時代と空間を超え、今まさに誰が誰になにをしたのかを視覚的にリアルに再現し、鑑賞者をそれに追体験させることでした。したがって、西洋美術の歩みを辿ることは、人間とは何かを知ることにはほかなりません。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 西洋美術史特論A	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得
	学 西洋美術史特論B	2		
	学 芸術学(西洋美術史特論C)	2	4単位以上	
	学 現代美術論	2		
	学 美学	2		
	学・デ 印刷概論	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズA	2	2単位以上	
	美 ヴィジュアルスタディーズB	2		
	美 技法史(～2023年度入学生)	2		
	学 文化遺産学	2		
	美 芸術文化オープンゼミ I	2		
	美 芸術文化ゼミ I※	2		
	美 芸術人類学	2		
	美 創作活動と法	2		
美 色彩文化概論	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミ II (西洋美術史コース)	4	4単位	
	美 芸術文化オープンゼミ III (西洋美術史コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※…国際芸術文化専攻・芸術文化専攻のみ

<日本美術史コース>

美術史では、イメージの歴史とともに、人類の感性と知性にまつわる歴史を学びます。日本美術の学びは、研究を志す人だけでなく、実技を学ぶ人にとっても創作のヒントにとどまらず、日本文化のcoolな魅力の再発見や、今日の私たちのアイデンティティについて思いを巡らすことに繋がります。美術作品を鑑賞し、美術書を読んで自らの思考を言葉や文章で表現することは、感性と知性を具える社会人としての自己形成にも大いに役立つことでしょう。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 日本美術史特論A	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得
	学 日本美術史特論B	2		
	学 東洋美術史概論(東洋美術史概説)	2		
	学 東洋美術史特論(東洋美術史特論A)	2		
	学 日本近代美術論(日本美術史特論C)	2		
	学 芸術学(西洋美術史特論C)	2		
	デ 服装史(2026年度～入学生)	2		
	デ 日本服装史(～2025年度入学生)	2		
	デ 文様史	2		
	学 古美術研究	2	2単位以上	
	美 ヴィジュアルスタディーズA	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズB	2		
	美 技法史(～2023年度入学生)	2		
	学 文化遺産学	2		
	美 芸術文化オープンゼミ I	2		
	美 芸術文化ゼミ I※	2		
	美 芸術人類学	2		
	美 創作活動と法	2		
美 色彩文化概論	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミ II (日本美術史コース)	4	4単位	
	美 芸術文化オープンゼミ III (日本美術史コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※…国際芸術文化専攻・芸術文化専攻のみ

<色彩学コース>

色彩学では色彩や視覚に関わる分野を広く学びます。配色調和理論, カラーシステム, 色彩心理学, 色彩工学, そしてそれらの基礎学問などを身に付け、作品制作や将来の進学や就職に有用な勉強を進めます。また色彩検定やカラーコーディネーターなどの資格に挑戦する場合にも有効な勉強です。広い視点から学ぶことにより色彩の知識がより深まるばかりでなく、美術や色彩全般に対する理解がより深まることが期待されます。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学	色彩学AまたはB ※1	4	2単位以上
	学	造形心理学	2	
	学・デ	印刷概論	2	2単位以上
	デ	伝統染織文化論	2	
	美	ヴィジュアルスタディーズA	2	4単位以上
	美	ヴィジュアルスタディーズB	2	
	美	視覚心理学	2	
	美	配色調和論	2	
	美	色彩文化論	2	
	美	カラーキャリアI	2	
	美	カラーキャリアII	2	
	美	芸術人類学	2	
	美	創作活動と法	2	
	美	芸術文化オープンゼミI (色彩学コース) ※1	2	
美	芸術文化ゼミI ※2	2		
コア科目	美	芸術文化オープンゼミII (色彩学コース) ※3	4	4単位
	美	芸術文化オープンゼミIII (色彩学コース)	4	4単位

コア科目
8単位
+
選択科目
8単位以上
||
合計 16
単位以上
修得

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※1…2年次以降に「芸術文化オープンゼミI (色彩学コース)」の履修を希望する場合、「色彩学 (色彩学AまたはB)」「視覚心理学」「造形心理学」のいずれか一科目を履修する必要があります。
 ※2…国際芸術文化専攻・芸術文化専攻のみ
 ※3…「芸術文化オープンゼミII (色彩学コース)」を履修するためには、「芸術文化オープンゼミI (色彩学コース)」を修得済みである必要があります。

<芸術表象コース>

芸術表象では、現代のアートにかかわる理論や知識について学びます。また、ときに最新の理論を実際に実践してみることで、表現することの意味や、それをデザインすること、運営することに関する実際的な知を育みます。現代のアートは、「もの」の制作だけでなく、「こと」の創造を重視しています。こうした現代のアートのエッセンスは、将来、どのような分野であっても、アクティブに、創造的に活動しようと考えている人には役に立つことでしょう。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学	芸術学 (西洋美術史特論C)	2	2単位以上
	学	現代美術論	2	
	学	現代美学	2	
	美	アートプラクティスI	2	2単位以上
	美	アートプラクティスII	2	
	美	アートアクティビティA (~2023年度入学生)	2	2単位以上
	美	アートアクティビティB (~2023年度入学生)	2	
	美	アートアクティビティ (2024年度入学生~)	2	
	美	芸術文化オープンゼミI (芸術表象コース)	2	2単位以上
	美	芸術文化ゼミI ※1	2	
	美	デザイン批評A	2	
	美	デザイン批評B	2	
	美	ヴィジュアルスタディーズA	2	
	美	ヴィジュアルスタディーズB	2	
	美	芸術人類学	2	
	美	創作活動と法	2	
美	色彩文化概論	2		
コア科目	美	芸術文化オープンゼミII (芸術表象コース) ※2	4	
	美	芸術文化オープンゼミIII (芸術表象コース)	4	4単位

コア科目
8単位
+
選択科目
8単位以上
||
合計 16
単位以上
修得

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 ※1…国際芸術文化専攻・芸術文化専攻のみ
 ※2…「芸術文化オープンゼミII (芸術表象コース)」を履修するためには、「芸術文化オープンゼミI (芸術表象コース)」を修得済みである必要があります。

<芸術人類学コース>

芸術人類学は、文化人類学・民俗学の学問領域のなかで、芸術との関わりを重視する領域研究を指します。芸術は人類の定義にも関わる、人類にとって本質的な意味をもつものといっているのですが、そうした認識の上にたって、研究を進めます。生活文化のなかに芸術的側面を見いだそうとする姿勢が重要です。生活儀礼や祭りなど、現場に触れることもまた大切です。こうした具体例から芸術的なものを導きだしていく手法を学びます。

		科目名	単位	修得単位	
選択科目	学	文化人類学	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 II 合計16 単位以上 修得
	学	比較文化論	2		
	美	芸術人類学	2	2単位以上	
	美	芸術民俗学	2		
	学	言語学	2	2単位以上	
	学	コミュニケーション論	2		
	学	文化遺産学	2	2単位以上	
	美	芸術文化オープンゼミⅠ	2		
	美	芸術文化ゼミⅠ※	2		
	デ	工芸史A(染織)	2		
	デ	工芸史B(陶ガラス)	2		
	学・デ	印刷概論	2		
	デ	日本服装史(～2025年度入学生)	2		
	デ	服装史(2026年度入学生～)	2		
	デ	文様史	2		
デ	伝統染織文化論	2			
コア科目	美	芸術文化オープンゼミⅡ(芸術人類学コース)	4	4単位	
	美	芸術文化オープンゼミⅢ(芸術人類学コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※…国際芸術文化専攻・芸術文化専攻のみ

<芸術と法コース>

「芸術と法」では、まず創作活動に関わる法知識を学びます。著作権トラブル、意匠権取得の可否など、法的な問題に直面する可能性はますます増えています。アーティストとしてのみならず、サポートする立場（ギャラリスト、学芸員、弁理士、意匠調査官など）としても、卒業後大いに役立つことでしょう。また、社会のより多くの人が芸術と関わるようなルール（法）づくりについても創造する側から学びます。芸術・芸術家の持つ大きな力・役割を再認識することが目的です。

		科目名	単位	修得単位	
選択科目	美	芸術政策と法	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 II 合計16 単位以上 修得
	美	創作活動と法	2		
	学	法学	2	4単位以上	
	学	法学(日本国憲法)	2		
	学	アートと法入門	2		
	学	女性と法	2		
	デ	デザインと法	2		
	学	国際関係論	2		
	学	美学	2		
	学	現代美学	2		
	学	西洋美術史特論C	2		
	学	日本美術史特論C	2		
	学	現代美術論	2		
	学	デザイン史A	2		
	学・デ	環境論	2		
	学	文化遺産学	2		
	学	芸術文化政策論	2		
	学・デ	印刷概論	2		
美	芸術文化オープンゼミⅠ	2			
美	芸術文化ゼミⅠ※	2			
コア科目	美	芸術文化オープンゼミⅡ(芸術と法コース)	4	4単位	
	美	芸術文化オープンゼミⅢ(芸術と法コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※…国際芸術文化専攻・芸術文化専攻のみ

<アート表現コース（2024年度・2025年度入学生のみ）>

現代の国際社会に必要なことは、私たちを取り巻く世界の複雑性への理解を深めることです。そのため、このバイリンガルコースでは、主として英語で授業が行われますが、学生は、社会との関わりを重視したアカデミックな研究と、制作を含むリサーチの両方を行うことで、多様なアートの存在意義を認識し、自らの活動にも反映させることを可能とします。そして世界の人々とコミュニケーションができるよう、言語以外の表現方法としてのアートの重要性を学びます。さらに対話や討論、コミュニティへの参加や協同といった実践を行うことで、多様な価値観の在り方を考える機会となるでしょう。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 西洋美術史特論C	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 II 合計16 単位以上 修得
	学 現代美術論	2		
	学 現代美学	2		
	美 芸術人類学	2	2単位以上	
	美 アート・プラクティスI	2		
	美 アート・プラクティスII	2		
	美 アート・アクティビティ	2	4単位以上	
	美 芸術文化オープンゼミI	2		
	美 芸術文化ゼミI ※	2		
	美 美術学科オープン演習A(素描(基礎)1)	2		
	美 美術学科オープン演習A(素描(基礎)2)	2		
	美 美術学科オープン演習A(プリント)	2		
	美 美術学科オープン演習A(日本画)	2		
	美 美術学科オープン演習A(繊維)	2		
	美 美術学科オープン演習A(CGa)	2		
	美 美術学科オープン演習A(編集・デザイン)	2		
	美 美術学科オープン演習A(メディア)	2		
	美 美術学科オープン演習A(英語でつくる1)	2		
	美 美術学科オープン演習B(素描)	2		
	美 美術学科オープン演習B(パネル制作)	1		
	美 美術学科オープン演習B(紙)	1		
	美 美術学科オープン演習B(日本画)	2		
	美 美術学科オープン演習B(編集・デザイン)	2		
美 美術学科オープン演習B(メディア)	2			
美 美術学科オープン演習B(CGb)	2			
美 美術学科オープン演習B(製本)	2			
美 美術学科オープン演習B(絵画材料)	2			
美 美術学科オープン演習B(英語でつくる2)	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミII (アート表現コース)	4	4単位	
	美 芸術文化オープンゼミIII (アート表現コース)	4	4単位	

学 … 学部共通科目、美 … 美術学科 学科共通科目
※ … 国際芸術文化専攻のみ

<アジア文化学コース（2025年度入学生～）>

高度に情報化しグローバルな通信環境が確立された現代において、「アジア」がもつイメージとは具体的にどのようなものなのでしょうか。宗教、思想の不一致による国際紛争が絶えず、人種や性別による差別によりやがて敏感になってきた現代だからこそ、日本を含めたアジア地域を広く俯瞰する視野と思考力が必要になってきます。この地域では、どのような想いをどのようなかたちの芸術として表現し、どのような文化が生まれ、どのように相互に影響し合ってきたのか。それを考えることは、アジアにおける日本の立ち位置を認識する極めて現代的かつ実践的な考察になるはずで、授業では、履修者に「これぞアジアの文化遺産」というものを提示してもらい、履修者間の議論を通して「オリエンタルさとは何か」を考えながら、ナショナル・アイデンティティに関する考察をおこなっていきます。それにより、多文化共生社会のなかで自身の価値観や考えを発信できるスキルの習得を目指します。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 日本美術史特論A	2	2単位以上	コア科目 8単位 選択科目 8単位以上 合計16 単位以上 修得
	学 日本美術史特論B	2		
	学 日本美術史特論C	2		
	学 東洋美術史概説	2		
	学 東洋美術史特論A	2		
	学 東洋美術史特論B	2		
	デ 工芸史A（染織）	2	4単位以上	
	デ 工芸史B（陶ガラス）	2		
	学 古美術研究	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズ A	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズ B	2		
	学 比較文化論	2		
	学 文化遺産学	2	2単位以上	
	美 芸術文化オープンゼミⅠ	2		
	美 芸術文化ゼミⅠ ※	2		
	美 芸術人類学	2		
美 創作活動と法	2			
美 色彩文化概論	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミⅡ（アジア文化学コース）	4	4単位	
	美 芸術文化オープンゼミⅢ（アジア文化学コース）	4	4単位	

学 … 学部共通科目、美 … 美術学科 学科共通科目
 デ … デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※ … 国際芸術文化専攻のみ

本学ポータルサイト「Active Academy」Web履修登録の手順について

■ポータルサイト基本事項

○ログインページ <https://aa.joshibi.net/>

* 「http」でなく「https」ですのでご注意ください。

○ユーザーID：学籍コード

○パスワード：別紙にて配付

* 上記パスワードで女子美Gmail、マイライブラリー（図書館ポータル）へログインができます。

○稼働時間 毎日7：30～翌2：00

○停止期間 毎日2：00～7：30はメンテナンスのため稼働しません

■履修登録

2026年度履修登録スケジュール		7:30	9:30	10:30	13:00	15:00	17:00	翌2:00
4月 4日 (土)	履修登録開始9:30～							
4月 5日 (日)	↑							
4月 6日 (月)								
4月 7日 (火)								
4月 8日 (水)	履修登録期間 ↑ 抽選科目登録締切～10:00 ↓ 履修登録期間 ↓ 抽選結果発表10:30～ 履修登録再開10:30～							
4月 9日 (木)	↓							
4月 10日 (金)	履修登録締切～15:00							
4月 13日 (月)	前期授業開始							
?								
4月 20日 (月)	↑ 履修訂正開始9:30～							
4月 21日 (火)	↑ 履修訂正期間							
4月 22日 (水)	↓							
4月 23日 (木)	↓ 訂正内容確認・最終訂正締切～17:00							

※網掛け部分はWEB履修稼働時間

* 接続の制限時間は30分です。30分以上検索や登録等がないと接続が終了されます。

履修登録中は制限時間間近になったら、検索・登録ボタンを押すなどしてください。

* ポータルサイトの利用を終了する時は、必ず「ログアウト」を押してください。

本学ポータルサイト「Active Academy」のログイン方法

①ポータルサイトのログインページの表示

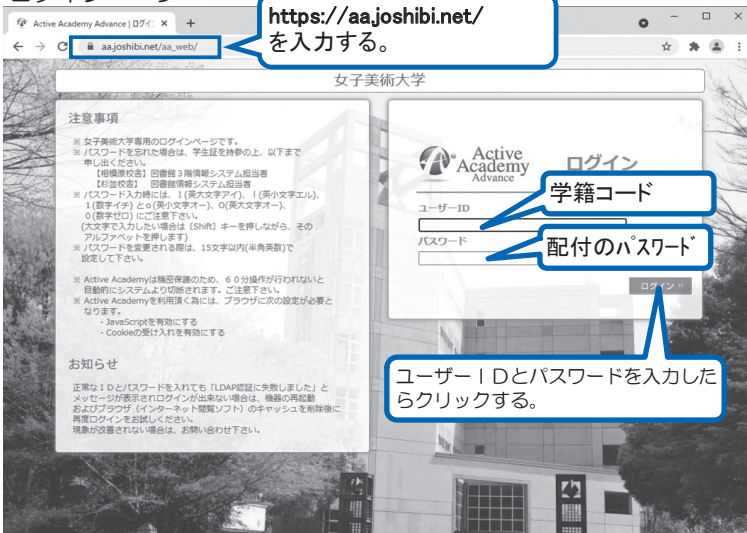
Microsoft Edge、Chrome、Firefox、Safari等のブラウザを起動し、上記アドレスを入力し本学ポータルサイト「Active Academy」のログインページを表示してください。

②ログイン

ログインページが表示されましたら、注意事項とお知らせを確認してください。

ユーザーID及びパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

ログインページ



※Webシステムの制限事項

(1) 以下のブラウザの最新バージョンについて動作確認を行っています。

- Microsoft Edge
- Firefox
- Safari
- Google Chrome

(2) ブラウザの設定で以下の設定を有効にしてください。

(ブラウザごとに設定が異なります。各ブラウザのヘルプ等をご参照ください。)

- Cookie
- JavaScript

ポータルトップ画面とメニュー・機能一覧

ログインすると以下の画面が表示されます。

ここが自分の名前になっていることを確認してください。

【My Scheduleの機能】
履修している授業、学校のスケジュール、登録した予定等が表示されます。日・週・月単位に表示を変更することができます。
（授業教室変更の場合は掲示板でお知らせします。）

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。
（通常の授業日にスケジュールが表示されています。）**集中補講日の時間割については、必ず別途掲示を確認してください。**

【お知らせ・連絡事項の機能】
本学からあなた宛に配信された連絡が表示されます。メール配信が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【休補講情報の機能】
あなたが履修登録した科目で休講連絡があったものが表示されます。メール送付が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【レポート提出情報の機能】
あなたが履修登録している科目のうち、教員がポータル上でレポート提出の設定をした科目の情報が表示されます。

【メニューの機能】

■掲示板

- 学年暦
- 個人へのお知らせ
- 連絡事項
- 休補講情報
- リンク登録

主な行事を確認できます。
お知らせが閲覧できます。
連絡事項が閲覧できます。
休講情報が確認できます。
各自でリンク先を登録できます。

■授業支援

- 履修登録
- 通年授業履修取消申請
- 抽選授業希望登録
- 授業抽選結果
- レポート提出
- シラバス

履修する授業を登録できます。
通年授業科目の履修中止ができます。（後期履修訂正期間）
抽選科目の希望登録ができます。
抽選結果が確認できます。
教員がポータル上で設定したレポートの提出及び提出状況の確認ができます。
シラバスを参照できます。

■就職活動支援

- 企業検索

企業を検索できます。（随時更新予定）

■MyInformation

- プロフィール変更
- パスワード変更
- 学修ポートフォリオ
- 女子美Gmail

プロフィールの参照、メールアドレスの設定及び変更ができます。
（メインのメールアドレスに休講情報等が転送されます）
パスワードを変更できます。
「登録されている個人情報」「成績表」「履修情報」「出欠情報」「就職情報」「GPA」（※2016年度以降の入学生）を確認することができます。
女子美Gmailのログイン画面が別に開きます。

■アクセス終了

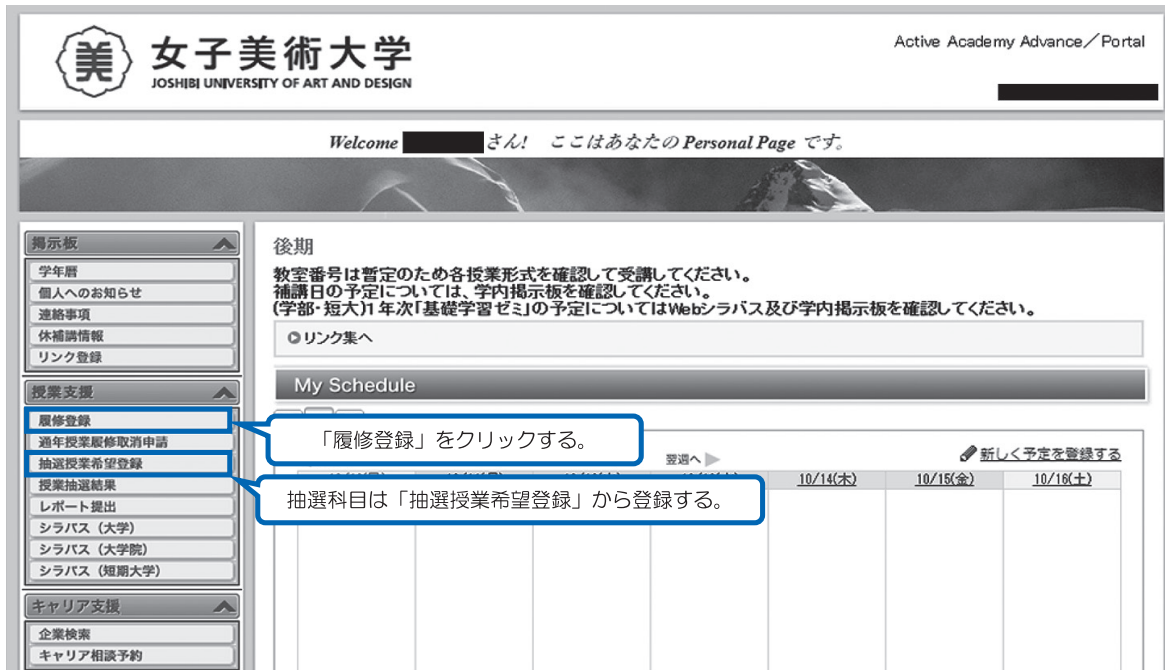
- ログアウト

ポータルサイトの利用を終了する時は必ず画面の「ログアウト」を押してください。

* 学生生活に必要な情報や授業に関する事柄を連絡していきます。
毎日必ず自分のポータル画面をご覧ください。

■授業支援システム 《履修登録》

1、ポータル画面より、履修登録を起動します。



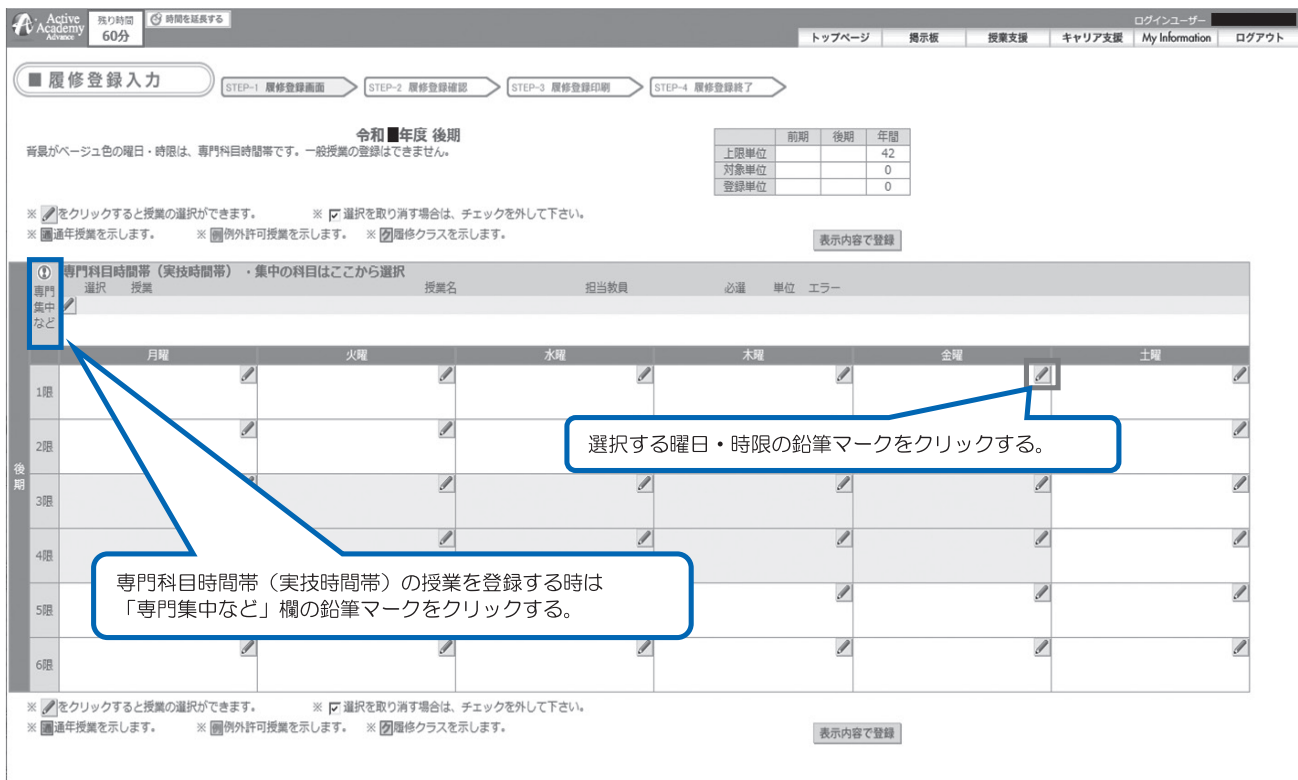
2、履修する授業を選択します。

履修登録している授業が一覧表示されます。

曜日・時限表は「前期」「後期」の2つあり、前期科目は「前期」、後期科目は「後期」、通年科目は両方で選択できます。今年度に履修登録する全授業科目（後期科目も含む）を登録します。（短大造形学科1年は後期科目のみ7月に登録します）

抽選科目は「抽選授業希望登録」から登録になります。抽選科目の希望登録する方は、抽選結果が履修に影響するため、抽選結果公表後に抽選科目以外の履修登録をしてください。授業を選択する曜日・時限にある鉛筆マークをクリックします。専門科目時間帯（実技時間帯）の授業の選択は、「専門集中など」の鉛筆マークをクリックします。網掛けの時間帯は専門科目時間帯（実技時間帯）です。講義系科目は原則履修登録できません。（大学院は除く）

画面1 履修登録入力



■授業支援システム 《履修登録》

「曜日・時限」「専門集中など」をクリックすると、自分の所属と学年が履修できる授業の一覧が表示されます。この中から履修する授業を選択してチェックを付けます。

他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。

「曜日・時限」欄では重複履修できないため原則選択は1科目ですが、「専門集中など」欄は複数選択が可能です。授業名で下線のあるものをクリックすることで、その授業のシラバスを表示することができます。

「登録して戻る」をクリックすることで、チェックを付けた授業が登録されます。

授業を登録せずに入力画面に戻るときは、「破棄して戻る」をクリックします。

画面2 授業一覧からの選択

他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。

登録して戻る。 破棄して戻る。

※ 選択する場合は、チェックを付けて下さい。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

曜日	時限	選択	授業	授業名	期間	担当教員	必修	単位	定員	申請人数	状態
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2130C	日本語書法	後期		選択	2	-	27	
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2321A	心身医学	後期		選択	2	-	60	
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2466D	国文学A	後期		選択	2	45	45	既に定員に達しています
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2548A	キャリア形成A	後期		選択	2	-	53	

↑ここをチェック

※ 選択する場合は、チェックを付けて下さい。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

登録して戻る 破棄して戻る

履修する授業をチェックする。チェック出来ない科目は抽選科目です。「抽選授業希望登録」から申し込んでください。

授業名をクリックするとその授業のシラバスが表示されます。

■ 授業支援システム 《履修登録》

「登録して戻る」をクリックすると、選択した授業が履修登録入力画面に反映されます。

画面1 履修登録入力

令和 年度 後期

背景がベージュ色の曜日・時限は、専門科目時間帯です。一般授業の登録はできません。

※ をクリックすると授業の選択ができます。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。
 ※ 通年授業を示します。 ※ 例外許可授業を示します。 ※ 履修クラスを示します。

	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			37
登録単位			37

表示内容で登録

①	選択	授業	担当教員	必修	単位	エラー
①	<input checked="" type="checkbox"/>	2AAXA	美術選択実技A(彫塑)	選択	2	
②	<input checked="" type="checkbox"/>	2B03A	絵画I.A	必修	6	
③	<input checked="" type="checkbox"/>	2B06A	絵画I.B	必修	5	
④	<input checked="" type="checkbox"/>	2B09A	デッサンI	必修	2	
⑤	<input checked="" type="checkbox"/>	2ABDA	美術選択実技A(画/造)	選択	2	
⑥	<input checked="" type="checkbox"/>	2103A	哲学	選択	2	
⑦	<input checked="" type="checkbox"/>	2412A	日本美術全史	必修	4	
⑧	<input checked="" type="checkbox"/>	2B12A	基礎構成演習	必修	2	
⑨	<input checked="" type="checkbox"/>	2403A	西洋美術全史	必修	4	

取り消す時はチェックを外す。

選択した授業が反映される。

一度選択した授業を取り消す場合は、授業名称左のチェックを外します。
別の授業に変更する場合は、鉛筆マークをクリックして、選択済みの授業のチェックを外し、別の授業を選択します。

3、選択した授業を登録します。

今年度に履修登録する全授業科目（抽選科目・後期科目も含む）の選択を終えたら「表示内容で登録」をクリックします。クリック後、エラーチェックが行われ、履修登録の内容により、3-①[エラー無し]、3-②[エラー]、3-③[警告]の3種類の結果が表示されます。

画面1 履修登録入力

令和 年度 後期

背景がベージュ色の曜日・時限は、専門科目時間帯です。一般授業の登録はできません。

※ をクリックすると授業の選択ができます。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。
 ※ 通年授業を示します。 ※ 例外許可授業を示します。 ※ 履修クラスを示します。

表示内容で登録

	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			37
登録単位			37

表示内容で登録

①	選択	授業	担当教員	必修	単位	エラー
①	<input checked="" type="checkbox"/>	2AAXA	美術選択実技A(彫塑)	選択	2	
②	<input checked="" type="checkbox"/>	2B03A	絵画I.A	必修	6	
③	<input checked="" type="checkbox"/>	2B06A	絵画I.B	必修	5	
④	<input checked="" type="checkbox"/>	2B09A	デッサンI	必修	2	
⑤	<input checked="" type="checkbox"/>	2ABDA	美術選択実技A(画/造)	選択	2	
⑥	<input checked="" type="checkbox"/>	2103A	哲学	選択	2	
⑦	<input checked="" type="checkbox"/>	2412A	日本美術全史	必修	4	
⑧	<input checked="" type="checkbox"/>	2B12A	基礎構成演習	必修	2	
⑨	<input checked="" type="checkbox"/>	2257E	コンピュータ入門A	選択	2	
⑩	<input checked="" type="checkbox"/>	2403A	西洋美術全史	必修	4	

履修登録する授業を確認後、クリックする。

3-① エラー無しの場合（履修登録の確定）

登録にエラーはありませんでした。表示された内容を確認し、間違いがなければ「登録確定」をクリックします。ここで、「登録確定」を押さなければ登録内容は反映されないので注意してください。→「4. 登録を終了します」へ授業を変更するときは、「登録変更」をクリックして履修登録入力画面に戻り、再度授業を選択し直します。履修登録を取りやめるときは「登録中止」をクリックします。

画面4 履修登録確定

間違ったくない時、登録確定をクリックする。ここで「登録確定」を押さなければ登録内容は反映されないので注意。→「4. 登録を終了します」へ

変更が必要な時、登録変更をクリックする。

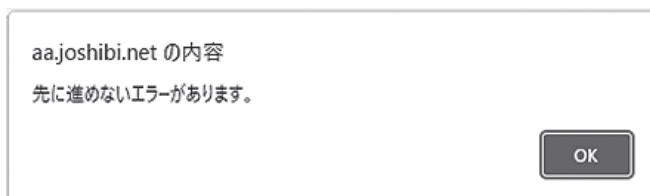
登録を中止する時、登録中止をクリックする。

授業	授業名	担当教員	必須	単位	エラー
2AAXA	美術選択実技A(彫刻)		選択	2	
2B03A	絵画I.A		必修	6	
2B06A	絵画I.B				
2B09A	デッサンI				

	月曜	火曜	水曜	木曜	土曜
1限	2ABDA 美術選択実技A(画/描) 選択 2	2103A 哲学 選択 2			
2限	2ABDA 美術選択実技A(画/描) 選択 2		2412A 日本美術史 必修 4	2B12A 基礎構成演習 必修 2	2257E コンピュータ入門A 選択 2
3限					
4限					
5限				2403A 西洋美術史 必修 4	
6限					

3-② エラーがある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、エラーがある場合は、次のメッセージウィンドウが表示されて履修登録入力画面に戻ります。



履修登録入力画面では、履修エラーが発生した部分に、エラーマークと、エラー内容が表示されています。エラー内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。エラーの詳細を確認し、エラーが発生した部分の履修を修正してください。

すべてのエラーが無くなると、「表示内容で登録」をクリックしたときに、画面4 履修登録確定が表示されるようになります。エラーが無くならないと、登録が確定できません。

■授業支援システム 《履修登録》

画面1 履修登録入力

■履修登録入力

STEP-1 履修登録画面 STEP-2 履修登録確認 STEP-3 履修登録印刷 STEP-4 履修登録終了

令和 年度 前期

GPAなし			
	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			20
登録単位			20

※特別に許可された授業を選択する場合はこちらから → 例外許可授業を選択する

- ※ をクリックすると授業の選択状態が変更されます。チェックを外して下さい。
- ※ 通年授業を示します。

クリックすると、エラーの詳細が別ウィンドウで表示される。エラー表示が無くなるよう修正する。エラーを無くしないと履修登録を確定できません。

表示内容で登録

エラーが無くなったら、「表示内容で登録」をクリックする。

必修	単位	エラー
必修	2	
必修	2	
必修	2	
必修	2	

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
	21031 哲学 選択 2	21121 音楽 選択 2 ⊗ 曜限が重複24541		
		24541 色彩学 選択 4 ⊗ 曜限が重複21121		
		23181 精神保健		24061 西洋美術史特論A

Active Academy | エラー詳細画面 - Windows Internet Explorer

http://172.16.4.37/aa_web/rishuuTouroku/rt0220.aspx#err04

03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同一科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

エラーの詳細を表示します。

■授業支援システム 《履修登録》

3-③ 警告がある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、警告がある場合は、画面4 履修登録確定に進みます。

警告が発生した部分に、警告マークと、警告内容が表示されています。

警告内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。

警告があっても、間違いではない場合、履修の修正をせずに履修登録確定はできますが、必ず詳細を確認してください。

画面4 履修登録確定

エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はとつしか履修できません。
04	曜日が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

4、登録を終了します。

履修のエラーが無くなり、画面4 履修登録確定で「登録確定」をクリックすると、画面5 履修登録印刷に移動します。

画面5 履修登録印刷画面

期間	曜日	時限	授業	授業名	担当教員	必修	単位	注意
通年	-	-	2AAXA	美術選択実技A(彫塑)		選択	2	
通年	-	-	2B03A	絵画I A		必修	6	
通年	-	-	2B06A	絵画I B		必修	5	
通年	-	-	2B09A	デッサンI		必修	2	
通年	月曜	2限	2B12A	器楽構成演習		必修	2	
通年	水曜	2限	2412A	日本美術金奖		必修	4	
通年	金曜	2限	2B12A	器楽構成演習		必修	2	
通年	金曜	5限	2403A	西洋美術金奖		必修	4	
後期	月曜	1限	2ABDA	美術選択実習A(美/指)		選択	2	
後期	月曜	2限	2ABDA	美術選択実習A(美/指)		選択	2	
後期	火曜	1限	2103A	哲学		選択	2	
後期	土曜	2限	2257E	コンピュータ入門A		選択	2	

■授業支援システム 《履修登録》

「確認表を印刷」をクリックすると、履修登録内容をPDF形式で表示します。
ここで必ず確認表を印刷しておいてください。

特に履修訂正の際、その印刷がない場合、履修登録内容が自分の履修計画と異なっても、再訂正は一切認められません。

令和 ■年度 履修登録確認表 (後期)

学 生 所 属	学 籍 番 号	学 生 氏 名
専攻		

前 期	後 期
上限単位	
上限科目数	

曜日	時 限	期 間	授業コード	授業科目名	担当教員名	必 選	単 位	教室名	抽 選	備 考	エ ラー 内 容
月	1	後期	2A02A	美術選択演習A(画/書)		選択	2	ドローイング			
	2	後期	2A02A	美術選択演習A(画/書)		選択	2				
	3										
	4										
	5										
	6										
火	1	後期	2103A	哲学		選択	2	S133			
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										
水	1										
	2	通年	2412A	日本美術全史		必修	4	S224			
	3										
	4										
	5										
	6										
木	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										
金	1										
	2	通年	2B12A	基礎構成演習		必修	2				
	3										
	4										
	5	通年	2403A	西洋美術全史		必修	4	S224			
	6										
土	1										
	2	後期	Z257E	コンピュータ入門A		選択	2	S1317			
	3										
	4										
	5										
	6										

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

画面6 履修登録完了

Active Academy Advance

残り時間 60分 時間を延長する

ログインユーザー My Information ログアウト

■ 履修登録完了

STEP-1 履修登録画面 → STEP-2 履修登録確認 → STEP-3 履修登録印刷 → STEP-4 履修登録終了

履修登録が完了しました。
おつかれさまでした。

TOP画面へ戻る場合はこちらへ → [トップページ](#)

ログアウトする場合はこちらへ → [ログアウト](#)

■授業支援システム 《履修登録》

資料「エラー詳細画面」

全てのエラーをなくさないと、履修登録は完了できません。
ただし、エラー詳細で【警告】となっている項目は、修正を行わなくても履修登録を確定することが可能です。

画面7 エラー詳細画面

Active Academy Advance

■ エラー詳細説明画面

エラーの詳細説明

エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。
15	分割科目未履修	【警告】分割科目が未履修です。新カリキュラムの科目は、全ての分割科目を履修しないと単位として認められませんので、注意して下さい。
17	履修上限超過	履修登録した授業の単位数が上限値に達しています。履修上限値と現在の登録単位数は画面右上で確認して下さい。（上限単位：履修登録できる上限単位数、対象単位：上限チェック対象科目の合計単位数、登録単位：上限チェック対象科目以外も含む全科目の合計単位数）
63	重複再履修申請不可	重複再履修として申請できません。再履修者以外は申請できません。
65	同一曜限の授業がない	重複再履修として履修登録する場合は、同じ曜日・時限に別の授業の履修登録されていなければなりません。
66	集中講義期間が重複	指定した集中講義の期間が重複しています。
67	必修科目不足	必修科目の履修登録が不足しています。
68	卒業科目不足	【警告】卒業科目が不足しています。注意して下さい。
69	重複履修上限超過	重複履修の上限回数を越えているため、履修できません。
81	卒業要件マスタ未登録	【警告】卒業要件マスタが未登録です。教務課に問い合わせをお願いします。
112	履修登録できないエラー	この授業の履修登録はできません。詳細は教務課まで問い合わせをお願いします。

閉じる

■授業支援システム 《抽選授業希望登録》

1、ポータル画面より、抽選授業希望登録を起動します。

2、抽選グループを選択します。

希望を登録する抽選科目が含まれるグループを一覧から選択します。
「抽選グループ名」をクリックすると抽選授業希望登録画面が表示されます。

画面1 抽選グループ一覧

抽選グループ名	申込状況
<input checked="" type="checkbox"/> 外国語1・3年次(1・2・5時間開設)	
<input type="checkbox"/> 学部共通科目C群(体育系)	
<input type="checkbox"/> コンピュータ入門A	
<input type="checkbox"/> コンピュータ入門B	
<input type="checkbox"/> 図学A	
<input type="checkbox"/> 図学B	

3、抽選授業の希望を登録します。

グループ内の抽選授業の希望順位を登録します。1グループ内で当選する授業は原則1つです。
 当選した抽選授業は履修登録済となり、取り消す場合は、履修登録画面から選択のチェックをはずしてください。
 (「美術学科オープン実技・演習A、B」「デザイン工芸選択実技A、B」等、一部の抽選科目は取り消しできません)

グループで指定されている希望順位全てまたは希望順位以内で、「希望順位」を登録します。
 「登録確定」をクリックすると希望内容を登録し、画面1 抽選グループ一覧に戻ります。
 「登録中止」をクリックすると希望内容を破棄し、画面1 抽選グループ一覧に戻ります。

画面2 抽選授業希望登録

年度 前期

外国語1・3年次(1・2・5時間開設) グループ

第3希望以内で登録してください(任意)

当選授業数は1つです。
抽選後、定員に空きが出た授業は先着順で履修登録可能です。

※ 当選授業は取消できません

希望順位	授業コード	授業名	単位	(参考)第1希望申込	定員	備考
第1希望	2031	英語Ⅰ	2		35	
	2032	英語Ⅰ				
第2希望	2033	英語Ⅰ				
	2034	英語Ⅰ				
第3希望	2121	英会話A	2		20	
	2181	特設英語	1		35	
	22182	特設英語	1		35	
	22183	特設英語			35	

希望順位を登録し、抽選グループ一覧に戻る。

※「第0希望以内で登録(任意)」の場合は希望する科目がなければ全て順位を入れる必要はない。ただし、当選確率は下がる。
※「必須」の場合は指定

希望順位を登録せず、抽選グループ一覧に戻る。

授業名をクリックするとその授業のシラバスが表示されます。

「登録内容を印刷する」をクリックすると、抽選希望登録内容をPDF形式で表示します。

https://aa.joshibinet/test/crt_PrintPreview.aspx - Windows Internet Explorer

https://aa.joshibinet/test/crt_PrintPreview.aspx

JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN [JP]

年度 抽選授業希望登録確認表 (前期)

学籍番号 学生氏名 ※当選授業は取消できません

外国語1・3年次(1・2・5時間開設)

希望順位	授業コード	授業科目名	担当教員名	期間	曜日・時間	単位
第1希望	2031	英語Ⅰ		通年	火曜1限	2
第2希望	2033	英語Ⅰ		通年	金曜2限	2
第3希望	22121	英会話A		通年	火曜3限	2

印刷する。

データ保存する。

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

■授業支援システム 《抽選授業結果》

1、ポータル画面より、授業抽選結果を起動します。

2、抽選結果を確認します。

抽選結果（当選／落選）を確認します。抽選にもれた場合は、単位が不足していないか確認してください。「印刷」をクリックすると、表示内容がPDF出力され、印刷・データ保存できます。「閉じる」をクリックするとトップページに戻ります。

抽選結果発表後、残席がある抽選科目は、履修登録入力画面で登録できます。同じグループ内で2つ以上の授業を履修したい方、落選して登録したい方は登録してください。履修登録完了した方から、先着順で授業の定員まで登録されます。履修登録完了した時点で、定員を超えてしまった場合は、登録できません。残席は、他の学生の履修取消により変動します。

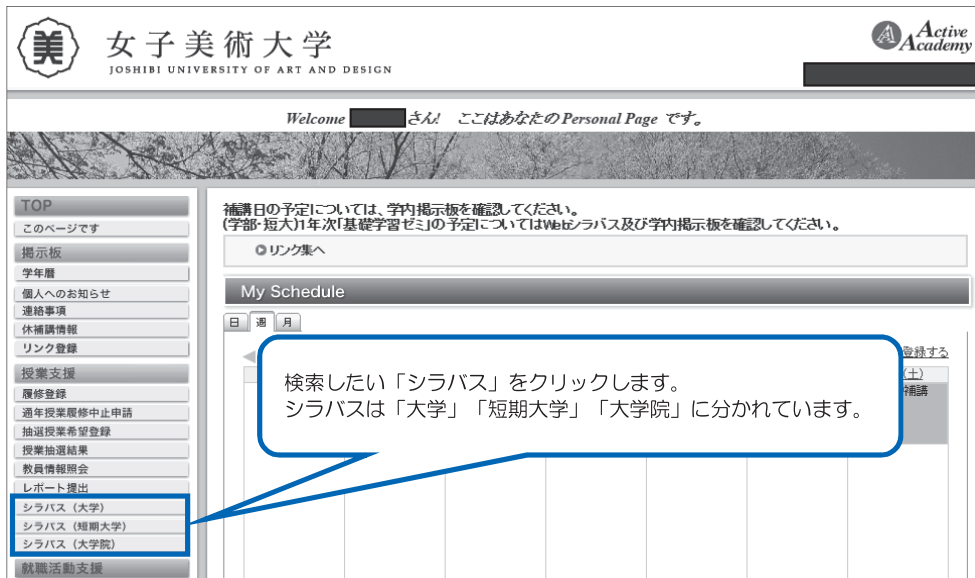
画面1 抽選授業結果確認

抽選結果	希望順位	授業コード	授業科目名	担当教員名	期間	曜日・時限	単位
落選	第1希望	3203A	英語Ⅰ	〇〇 太郎	通年	火曜1限	2
当選	第2希望	3221A	ドイツ語(初級)	〇〇 春子	通年	火曜2限	2
未抽選	第3希望	3236A	中国語(初級)	〇〇 夏子	通年	火曜1限	2

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

■授業支援システム 《シラバス閲覧》

1、ポータル画面より、シラバス閲覧を起動します。



2、シラバス検索条件を入力します。

シラバスを閲覧する科目の検索条件を入力して、「この条件で検索する」をクリックします。カリキュラムは必須入力項目となります。

画面1 シラバス検索

設定した検索条件で検索します。検索条件設定が無い場合、選択したカリキュラムのシラバスが全件表示されます。

【検索条件】

項目名	必/任	説明
カリキュラム	必須	カリキュラムを選択します。
校地	任意	校地を選択します。
授業科目名	任意	授業科目名を入力します。部分一致検索となります。
教員名	任意	教員名を入力します。部分一致検索となります。
キーワード	任意	シラバスの、授業科目名、開講期間、配当年、単位数、授業形態、担当教員名、授業内容、授業計画の中に入力された単語を検索するための、キーワードを入力します。

■授業支援システム 《シラバス閲覧》

3、シラバスを表示します。

検索結果一覧が表示されるので、閲覧するシラバスの授業科目名をクリックします。
科目区分で絞り込み検索をする場合は、閲覧したい区分を選択し、「科目区分で検索」をクリックします。

画面2 検索結果一覧

Active Academy SYLLABUS検索システム

シラバス検索 検索結果一覧 STEP-1 シラバス検索TOP

検索された授業科目一覧です

現在の検索条件 授業科目名: / 教員名: / キーワード: /

絞り込み再検索

科目区分 E群 科目区分で検索

検索結果 8件が該当しました。

授業科目名	開講期間	配当年	単位数	授業形態	担当教員	校地
英語学習ゼミ	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
ジェンダー論	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
国際留学プログラム	通年	1年次	2単位	演習		杉並校地
サービスマーケティング	通年	1年次	2単位	演習		杉並校地
サービスマーケティング*	*	1年次	2単位	演習		杉並校地
キャリア形成(前期)	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
キャリア形成(後期)	後期	1年次	2単位	講義		杉並校地
インターンシップA~D	通年	1年次	1~4単位	実技		杉並校地

授業科目名をクリックするとシラバスが表示されます。

科目区分で絞り込み検索をする場合は、閲覧したい区分を選択し、「科目区分で検索」をクリックします。

画面3 授業内容

「シラバス検索TOPに戻る」で、画面1 シラバス検索に戻ります。
「検索結果一覧に戻る」で、画面2 検索結果一覧に戻ります。
「ページの先頭に戻る」で、画面3 授業内容画面の先頭に戻ります。

Active Academy SYLLABUS検索システム

シラバス検索 授業内容 STEP-1 シラバス検索TOP STEP-2 検索結果一覧 STEP-3 授業内容

University 大学

平成 年度

選択した授業科目の内容です

授業科目名: 国際留学プログラム 授業コード: 25091 2509A
英文科目名: *

開講期間	配当年	単位数	授業形態
通年	1~4年次	2単位	演習

担当教員

杉並校地 2010~年度入学生対象 E群

科目キーワード 海外大学における研修または留学を通じて異文化の中で芸術表現や研究活動を展開し、国際感覚を涵養する。

授業内容1 (1)本学が企画する海外大学における研修で、現地での授業時間が60~90時間(授業の方法を問わず30~45時間の授業をもって1単位とする)のカリキュラムを履修する。
(2)本学の学術交流協定大学において協定海外留学生として、夏期休業期間中又は春期休業期間中に延べ60~90時間(授業の方法を問わず30~45時間の授業をもって1単位とする)の現地授業科目を履修する。

授業内容2

授業計画 カリキュラムまたは現地授業科目により異なる。詳細は募集説明会や出国前オリエンテーション等で解説する。

到達目標 異文化の中で芸術表現や研究活動を展開すること。言語運用能力を高め、音楽によるコミュニケーションの重要性を認識すること。将来、長期の海外留学を希望する者は、留学生活における基本行動様式を身につけること。

授業以外の学習方法(予習・授業準備・復習等) 出国前から研修先または留学先言語の運用能力を向上させる学習を欠かさないこと。現地の芸術、文化、伝統、人の思考方法や生活様式に関心をもち理解を深めることで、より充実した学習期間を過ごすことができる。

履修者への注意事項 ※履修について
○研修プログラムや留学プログラムが実施される場合は、掲示板を通じて通知する。
○研修プログラムや留学プログラムは人数制限があるため、抽選または選抜試験を行うことがある。
○単位取得を希望する場合は、研修または留学の終了後に履修登録を申請すること。
外国で学習するために最も必要なのは、身体と精神の健康を保つことである。健康管理に努め、自分なりのストレス解消法を身につけておくことが望ましい。また、日本と社会環境が違う外国での生活では、トラブルや各種危機の管理に配慮することは極めて重要であり、「自分の身は自分で守る」という大原則を常に意識してほしい。

評価方法 (1)研修先または留学先の教員の学習評価書75%、提出レポート25%
(2)上記(1)による成績評価が困難な場合は、「海外芸術プログラム」としての単位のみを認定する。

テキスト 研修先または留学先でテキストが指定され、また、プリント類が配布されることがある。

参考文献・参考作品 特になし。募集説明会や出国前オリエンテーション等で紹介することがある。

参考リンク

画面1 シラバス検索に戻ります。

画面2 検索結果一覧に戻ります。

このページの先頭に戻ります。

ポータルサイトの利用が終わったら、画面右上の「ログアウト」をクリックして終了します。

■授業支援システム 《Web レポート提出の手順について》

一部の科目において、Web上でレポート提出を行います。Active Academyから提出及び提出状況確認ができます。

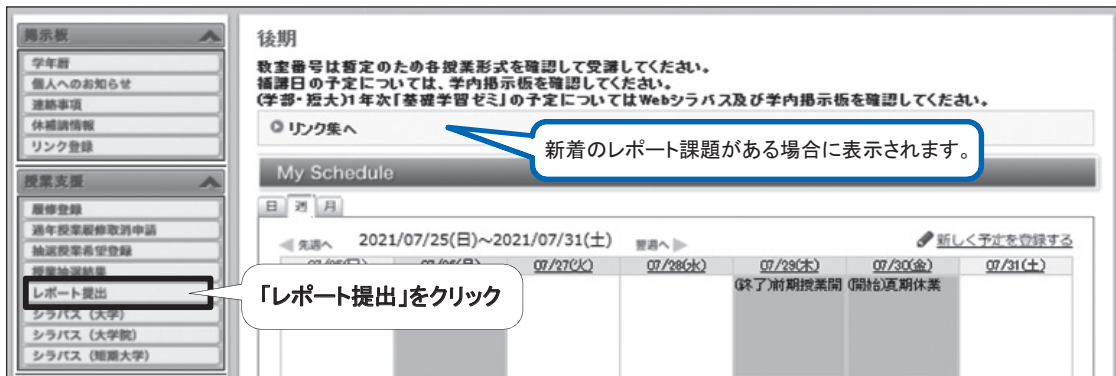
【Webレポート提出時の注意事項】

- ・ 毎日(AM)2:00~7:30はシステムメンテナンスのため停止しており、Active Academyへの接続は出来ません。
- ・ 指定されたレポート提出期限当日(特に締切直前の時間帯)は回線が混雑し、期限までに間に合わない恐れもありますので、余裕をもって提出するようにしてください。
- ・ あらかじめブラウザのポップアップブロック機能を解除した上で操作をしてください。
- ・ ファイル形式、ファイル名、ファイルサイズには制限があります。

※回線の混雑や操作ミス等、理由に関わらず教育支援センターでは提出を受け付けません。

●Webレポート提出操作の流れ

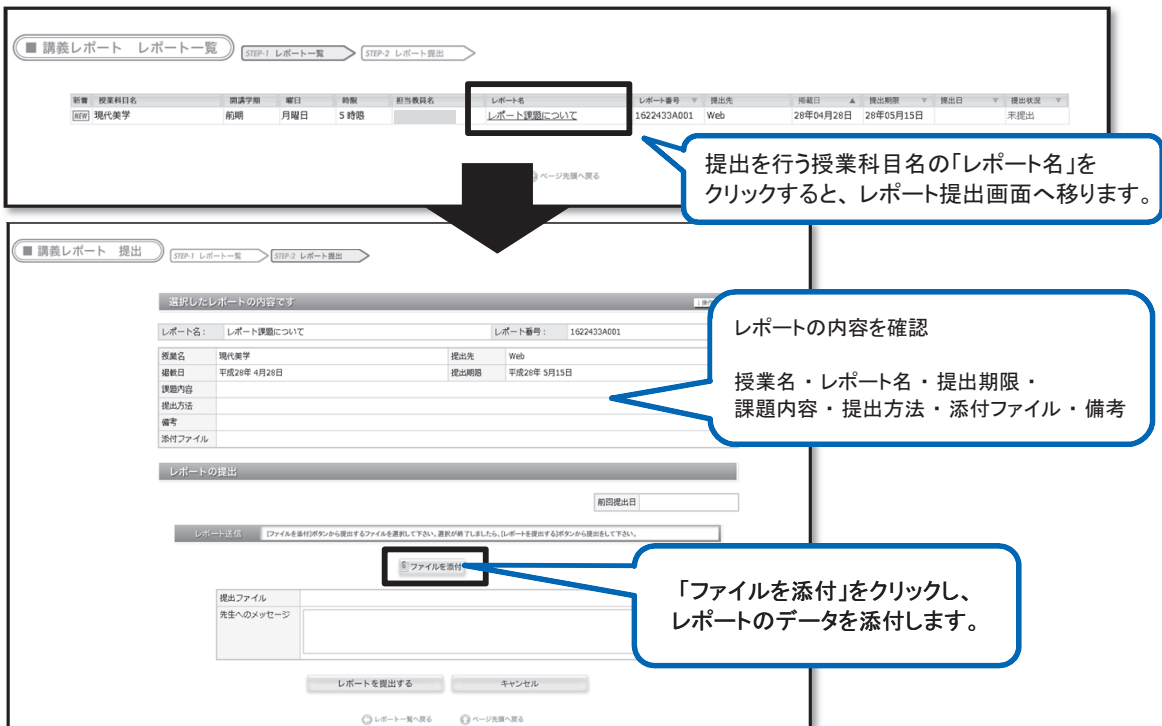
1. ポータルサイト「Active Academy」TOPページより、「レポート提出」をクリックし、情報を確認します。



2. レポート提出する授業を選択します。

履修している授業のうち、教員がWeb上でのレポート提出を設定した授業科目の一覧が表示されます。

(授業科目名、開講学期、曜日時限、担当教員名、レポート名、レポート番号、提出先、掲載日、提出期限、提出日、提出状況)内容を確認し、作成したレポートを添付(アップロード)します。



3. アップロード(添付)するレポートのデータを選択します。

「ファイルを添付」ボタンをクリックすると、「ファイルのアップロード」画面が別に表示されます。

【注意】ファイル添付(アップロード)上の注意

- ・ 1ファイル5MBまでのファイルを最大3ファイルまで。同一ファイルの複数アップロード不可。
- ・ 容量が大きいファイルを指定すると「ページを表示できません。」画面が表示される可能性があります。表示された場合はウィンドウを閉じてやり直して下さい。
- ・ PDF(pdf)、Word(doc、docx)ファイルのアップロードが可能です。ファイル名は全角27文字(半角55文字)以下にしてください。

【備考】ファイルアップロード画面が表示されない場合

各自で利用しているブラウザ(chrome、safari、Fire fox等)の設定からポップアップブロック機能を解除してください。

① 「ファイルを選択」をクリックし、作成したレポートのデータを選択

② レポートのデータを選択したら、「アップロード」ボタンをクリック

③ 「アップロードをしました」とメッセージが表示されます。
【注意】この時点ではまだレポート提出は完了していません

④ 添付が完了した場合→「閉じる」ボタン
他にも添付する場合 → 「続けてアップロード」ボタンをクリック

4. 添付したレポートのデータを提出します。

レポートファイルの添付が全て完了したら、レポートを提出します。

「レポートを提出する」をクリック

「レポート提出を完了しました」と表示されたら提出完了です

5. レポートが提出されていることを確認します。

ポータルサイトTOPページより、「レポート提出」をクリックし、提出状況が「提出済」となっているかを確認します。

「提出済」と表示されているか必ず確認

※レポートを再提出したい場合

レポートの再提出は、教員が設定した提出期限内であれば提出可能です。(提出方法は初回提出時と同じです。)

【注意】再提出した場合は前回提出したレポートのデータは全て破棄されますので、注意してください。

例:最初に複数のレポートデータを提出し、その後提出した内の1つのレポートだけを再提出する場合、再提出するレポートと一緒に、必ず前回提出した他のレポートも同時に提出してください。

こんな時は…



Q1. ファイルアップロード画面で「ファイル選択」ボタンを押しても画面が開かない。

A1. ①新たに別のタブが開いていないか確認してください。ブラウザをフルスクリーンの状態にしているとタブとして開く場合があります。

②インターネットブラウザのポップアップブロックを解除してください。

解除方法はブラウザやPCのOSまたはそれらのバージョンによって異なります。以下の方法でできなければ、インターネットで「ポップアップブロック解除 Safari(←使用しているブラウザ名やPCのOSを入力)」で調べてください。

(Safari)

1. トップメニューから「Safari」をクリックして「環境設定」を選択します。
2. 「Webサイト」タブをクリックします。
3. 左側の「一般」下にある「ポップアップウィンドウ」を選択します。
4. 右下にある「これ以外でのWebサイトでのデフォルト設定」のドロップダウンをクリックします。
5. 「許可」を選択します。

(Mozilla Firefox)

1. ブラウザ右上にある「ツール」メニュー(三本線)を開きます。
 2. 「オプション」をクリックします。
 3. 「コンテンツ」タブをクリックします。
 4. 「ポップアップウィンドウをブロックする」のチェックを外します。
- 2,3が表示されない場合は、「コンテンツブロッキング」をクリックして、「許可設定」のメニューに移動します。

(Google Chrome)

1. パソコンで Chrome を開きます。
2. 右上のその他アイコン: > [設定] をクリックします。
3. 下の [詳細設定] をクリックします。
4. [プライバシーとセキュリティ] の [サイトの設定] をクリックします。
5. [ポップアップとリダイレクト] をクリックします。
6. 上部の設定を [許可] に切り替えます。

(Internet Explorer)

1. Internet Explorerの画面右上にある歯車アイコンをクリック。
2. 「インターネットオプション」をクリック。
3. 「プライバシー」タブをクリックし、「ポップアップブロックを有効にする」のチェックを外します。

(Microsoft Edge)

1. Microsoft Edge [詳細] アイコン ... をタップします。
2. 「詳細」一覧が表示されます。[設定] をタップします。
3. 「設定」一覧が表示されます。「詳細設定」欄の [詳細設定を表示] をタップします。
4. [ポップアップをブロックする] 欄のつまみをタップし、オフに切り替えます。

Q2. アップロード時点で、「このファイルは文字化けする可能性があるのでファイル名を変更してください」のエラーメッセージが出る。

A2. ①インターネットブラウザをSafariに変えて試してください。Mozilla FirefoxやGoogleChromeの場合、上記のメッセージが出てしまう現象が見受けられます。

②①でも解消されない場合、可能であれば(レポートファイル名に指定された条件が特でない場合)ファイル名を変更してください。

濁音(ガザダバ行の音)や半濁音(パ行音)が含まれているとエラーが出てしまう可能性があります。

①②でもアップロードできない場合は教育支援センターまでご連絡ください。

Q3. アップロードしようとする、「ページを表示できません。」画面が表示される

A3. ファイルの容量が1ファイル5MBを超えていませんか？1ファイル5MBまでのファイルを最大3ファイルまでしかアップロードできません。

ファイルが複数ページにわたる場合は、3つのファイルに分割してそれぞれアップロードし、提出画面の「先生へのメッセージ」にその旨を記載してください。

Q4. 「レポートを提出する」ボタンをクリックしても次の画面に進めません。

A4. ファイル名を全角27文字(半角55文字)以下にしてください。

Web 出欠登録の手順について

●はじめに ～Web出欠登録について～

【スマートフォン出欠登録専用サイトについて】

- ・女子美術大学では、講義系授業科目における出席の届け出について「Web出欠管理システム」を導入しています。
- ・各自で出欠登録専用サイトへログイン&出欠登録を行うことで、授業科目毎の出欠情報がActive Academyの「出席簿」へ自動で登録されるため、出欠状況をリアルタイムに確認・把握する事が可能となります。

出欠登録専用サイト
QRコード



【ログインページについて】

(出欠登録専用サイトのURL) <https://aa.joshibi.net/attend/>

- ・スマートフォン・タブレット端末・PCからアクセス可能です。 ※QRコードでの接続も可能です。
- ⇒上記URLをブックマーク(お気に入り登録)しておく、次回より登録作業がスムーズになります。

【ユーザーIDとパスワードについて】

Active Academyにログインする際に使用するユーザーID、パスワードと同じです。

ユーザーIDとパスワードを忘れてしまった場合は、下記「図書美術館グループ」までお問い合わせください。

- ・杉並キャンパス2号館B1階
- ・相模原キャンパス3号館(図書館)3階

【出欠登録時における注意事項について】

- ・出欠登録の際、毎回特定のパスワードを入力する必要があります。
- ⇒パスワードは授業開始前に担当教員より告知されるので、よく注意して確認してください。
- ・出欠登録は制限時間内に行う必要があります。
- ⇒出欠登録時間外は「遅刻」または「登録時間外」となりますので、パスワードを確認次第、早急に登録してください。



●出欠登録作業の流れについて

1. スマートフォン専用の出欠登録専用サイトに接続します。

(例：iPhoneを使用する場合)

- ①インターネットに接続したら、ブラウザアプリ(Safari等)で、出欠登録専用サイトにアクセスしてください。
<https://aa.joshibi.net/attend/> (※URLの打込み間違いに注意!) ※QRコードでの接続も可能です。
- ②ログイン画面が表示されたら、ユーザーIDとパスワードを入力してください。(図2)

出欠登録専用サイト
QRコード



図.2 ログイン画面

正常にログインすると
出欠登録画面が表示されます。
(図.3)

Active Academyにログインする際に使用
するユーザーID、パスワードと同じです。

正常にログインが出来なかった場合・・・(図.4)

図.4 エラー画面

図.3 出欠登録画面

自身の学籍番号・氏名で
表示されているか確認してください。

- ・各自で履修登録している、1週間分の授業情報(講義科目)のみ一覧で表示されます。
- ・週の表示は日曜始まりとし、日曜になると翌週の表示に変わります。
- ・ここで表示される内容は下記の通りとなります。
①学籍コード ②氏名 ③日付 ④曜日 ⑤教室名[] ⑥担当教員

【エラー原因について】

- ・インターネットに正しく接続されているか確認をしてください。
- ・接続が混雑している可能性がありますので、少し時間を空けて再度ログインを試みてください。

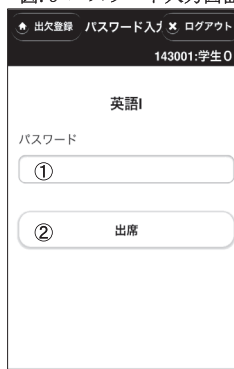
2. 出席する授業のパスワードを入力し、登録を完了します。

図.3 出欠登録画面



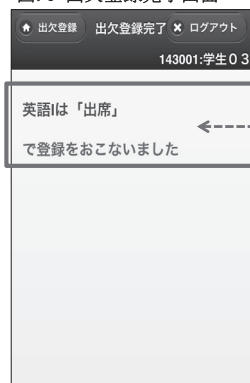
出欠登録画面(図.3)で、出席する授業名を選択するとパスワード入力画面に遷移します。(図.5)

図.5 パスワード入力画面



正しいパスワードを入力した場合、「〇〇(科目名)は「出席」で登録をおこないました」と表示されます。(図.6)

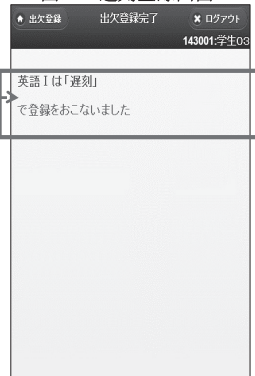
図.6 出欠登録完了画面



①「パスワード」入力欄に担当教員から事前に告知された指定のパスワードを入力します。(図.5)
②「出席」ボタンを押してください。

出欠登録時間外に登録した場合・・・

図.7 遅刻登録画面



出欠登録時間外に登録した場合、「〇〇(科目名)は「遅刻」で登録をおこないました」と表示されます。(図.7)

図.8 出欠登録画面



出欠登録画面に戻ると、出欠登録した授業の時限の横に登録状態(出席・遅刻・欠席)が表示されます。(図.8)

※無線接続時の混雑回避の為、作業終了後は必ずログアウトし、当該サイトの接続を終了するよう、ご協力ください。

以上でスマートフォン専用サイトによる出欠登録作業は終了です。各自、Active AcademyのMyInformation-個人情報-「出欠情報」にて出席状況を確認してください。

履修登録について

- Q.** 後期の科目も前期に履修登録するのですか。
- A.** その通りです。きちんと履修計画を立てて登録してください。
- Q.** 同一名称の科目を複数履修登録できますか。
- A.** 履修の手引P.19を参照してください。
- Q.** 以前に単位修得した科目を、再度、履修することはできますか。
- A.** 単位修得した科目を、再度、履修することはできません。
詳細については、P.19を参照してください。
- Q.** 学部共通科目の卒業所要単位（30単位）は4年間かけて履修すれば良いのですか。
- A.** その通りです。ただし、4年次になると就職活動や卒業制作等で忙しくなることもあります。できるだけ3年次までに学部共通科目の卒業所要単位を修得することをおすすめします。
- Q.** 現在2年次生で、教職課程を取っていますが、1年次の教職科目の単位を修得できませんでした。2年次で再履修することはできますか。
- A.** 再履修してください。再履修する科目が他の科目と時間割で重複する場合は、他学科のクラスを履修しても問題ありません。ただし、2年次の必修科目と重複する場合は、必修科目を優先してください。また、3年次生が1・2年次の教職科目の単位を修得できなかった場合も同様です。
- Q.** 他学科の学科共通科目の選択科目から履修できる科目は、どこに記載されていますか。
- A.** 「時間割」に記載しています。

Web履修について

- Q.** ポータルサイトのパスワードを紛失した場合はどうしたらよいですか。
- A.** 杉並キャンパスは2号館地階の図書館カウンターへ、相模原キャンパスは図書館3階事務室（情報システム担当）まで申し出てください。
- Q.** 抽選登録するのを忘れた場合はどうしたらよいですか。
- A.** 抽選結果発表後、残席のある科目を先着順で履修登録できます。ただし、美術学科オープン実技・美術学科オープン演習、デザイン・工芸選択実技を登録し忘れた場合は教育支援センターに申し出てください。
- Q.** 反対校地の他学科提供科目はどのように履修登録するのですか。
- A.** 履修の手引 P.187を参照してください。

Q. 取りたい科目がポータルサイトの画面上に表示されません。

A. 次のことをまず確認してください。

- ・曜日時限は合っているか。
- ・過去に単位修得した科目ではないか。
- ・科目の年次指定で、自分の学年が対象になっているか。

上記にあてはまっていて表示されない場合は、システムエラーの可能性がありま
すので、教育支援センターに連絡してください。

Q. ポータルサイトの「お知らせ・連絡事項・休講情報」は携帯電話への転送設定が
できますか？

A. 可能です。設定することをおすすめします。詳細は履修の手引 P.185を参照して
ください(プロフィール変更)。

Web 出欠登録について

Q. 自分のユーザー IDとパスワードが分からないor忘れてしまった場合…

A. 「図書美術館グループ」の情報システム担当(図書館事務室)までお問い合わせくだ
さい。

Q. 学内 Wi-Fiに接続出来たが、出欠登録専用サイトにアクセスできない場合…

A. 出欠登録専用サイトのURLを打ち込む際に、下記誤入力をしている場合が考えられ
ますので、よく確認をしながらURLを打ち込んでください。

→よくある誤入力…【URLの最初、httpsの「s」が抜けている】、【「.」が抜けてい
る】、【URLの最後に「/」を入れ忘れている】等

Q. 出欠登録完了後、出欠登録画面に【出席】と表示されたのに、後日ポータルサイトの
MyInformation-学修ポートフォリオ「出欠情報」で確認すると、出席になっていなか
った場合

A. このような場合は、至急教育支援センターの窓口へ来てください。

【重要】出欠登録後、該当科目に【出席】が表示されたら、なるべくその場でポータ
ルサイトの出欠情報に反映されているか確認しておいてください。(※念の
為、登録完了が表示された画面をスクリーンショット等で保存しておく、
窓口で事情が説明しやすいかと思います。)

Q. Google meetまたはclassroom等に接続できない(授業に参加できない)

A. デバイスや回線の不具合によるものが多く、大学側・教員側ではサポートすることが
出来ない場合が散見されます。学生の皆さんはこれまでの経験を活かし、以下のよう
に受講する体制を整えてください。

- ・出欠登録画面は時間に余裕を持って画面を開いておく
- ・主に使用するPCの他に、予備としてスマートフォンやタブレットにmeetや
classroomアプリケーションをインストールしておき、PCが不安定の際は他の
デバイスからも接続できる状態にする
- ・主に使用するWi-Fi回線の他に、携帯電話の通信(4G等)回線を利用する(スマ
ートフォンにも出欠登録画面をブックマークしておく)
- ・可能であれば、テザリングサービス(スマートフォンをWi-Fiルーターの代わりと
する)を使用できるようにしておく

Q. 授業に出席しているにも関わらず、ポータルサイトの出欠登録を忘れてしまった場合

A. 担当教員または教育支援センターに申し出があっても、自身の不注意や通信環境によ
る出欠の未登録(欠席)、登録遅れ(遅刻)については一切対応致しませんので、そ
のようなことがないように、くれぐれも出席登録を忘れないようにしてください。

Q. classroomのクラスコードが分からない場合…

A. 作成・運用は授業担当教員が行っているため、教育支援センターではクラスコードを把握していません。授業担当教員に確認してください。

Q. 課題や資料の配信は何を使用しているか。

A. Google classroom、Google forms、ポータルサイト等の使用が考えられます。授業科目ごとに運用が異なりますので、課題の提出方法は、必ず担当教員の指示に従ってください。

その他

Q. 授業を行う教室はどこでわかりますか。

A. 時間割表に記載があります。なお、教室が変更される場合もありますので、掲示板でも確認してください。

Q. 授業概要（シラバス）を見たいのですが。

A. ポータルサイトのトップ画面に表示されている「シラバス」をクリックして、授業概要（シラバス）を検索してください（履修の手引 P.197を参照）。

Q. 成績証明書に不合格科目の成績も記載されますか。

A. 成績証明書には単位修得した科目の成績のみ記載されます。

Q. 親戚に不幸があったので、忌引きの手続きをしたいのですが。

A. 女子美には忌引きの制度はありません。ただし、追試験の理由には該当します（履修の手引 P.8, 13を参照）。

Q. 実技時間帯に履修したい科目があるのですが、できますか。

A. 実技時間帯に他の科目を履修することは認められません。ただし、卒業年次生で卒業に必要な科目である場合、研究室の許可があれば認められることもあります。

Q. 学期末試験に学生証を忘れました。

A. 教育支援センターの窓口で「受験許可書」を発行しますので、申し出てください。

Q. ケガのため、1ヶ月程入院することになりました。何か手続きは必要ですか。

A. 特に手続きはありません。なお、欠席していた期間の授業内容については、担当教員に確認をしてください。

Q. 自分の出席回数を知りたいのですが。

A. 出席回数は各自で記録して下さい。Webを利用して出席確認を行う授業は、ポータルサイト「学修ポートフォリオ」メニューから確認することができます。

Q. オフィスアワーとは何ですか。

A. 先生に自由に質問、相談できる時間帯です。利用の一覧表は4月にポータルサイトで配信されていますので、参考にしてください。

※ポータルサイトにリンクしている「履修に関するQ&A」も参考にしてください。

https://www.joshiabi.net/aa/risyu_QA.pdf

2026 履修登録用時間割 下書き表

	2・4年次専門科目時間帯 (実技時間帯) <small>※立体アート専攻3年次含む</small>		1・3年次専門科目時間帯 (実技時間帯)		
前 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

後 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

集中 など					

「集中など」の欄には
「専門科目時間帯の実技・演習系授業」「集中授業」「教育実習」「博物館実習」等を記入してください。